

穂乃果「王様ゲームだよ！！」

naonakki

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

みんなが王様ゲームするだけの話です。（19話まで）キャラ崩壊激しいです。
20話からは、みんなで沖縄旅行を楽しんでもらっているお話です。

目次

穂乃果「王様ゲームだよ!!」	1
第2話	22
第3話	33
第4話	41
第5話	50
第6話	58
第7話	66
第8話 千歌「アクアも乱入するよ!」	76
第9話 千歌「とうとう合流!」	85
第10話	92
第11話 千歌「ごはん休憩!1」	102
第12話 千歌「ごはん休憩!2」	113
第13話 穂乃果「王様ゲーム再開!」	125
第14話	135
第15話 千歌「アクア全員集合!」	147
第16話 「恐怖のレズモンスター」	157
第17話 「ピンクの悪魔」	169
第18話 「寺娘の命令」	181

ことり 「いよいよラストです♪」

192

第1話 ことり「沖縄旅行編スタートで

す♪」

201

第2話 千歌「沖縄に出発だよ!!」

209

第3話 悪夢の幕開け

216

第4話 恐怖のバスツアー開始

225

第5話 恐怖のバスツアー

229

第12話 部屋にて……PART 4

第6話 恐怖のバスツアー

PART 3

301

第13話 部屋にて……PART 5

第7話 レズ&カリスマフロント嬢登場

241

引き出しネタ終了

309

第8話 カリスマフロント嬢PART 2

260

第9話 部屋にて……PART 1

269

第10話 部屋にて……PART 2

278

第11話 部屋にて……PART 3

第14話	海未「まだまだこれからです」	317
第15話	恋バナ	325
第16話	昼食争奪戦	332
↳ その1	↳ 替え歌選手権	
第17話	昼食争奪戦	340
↳ その2	↳ 替え歌選手権	
第18話	鬼ごっこ開始	351

穂乃果 「王様ゲームだよ!!」

穂乃果・「よし、じゃあ……王様ゲームはじめるよ!!ーー!!」

全員・「いえええwwwwwwwww!!!」

穂乃果・「じゃあ簡単にルール説明するよ!」

!!!

穂乃果・「①まず、全員がこのくじを引いてもらいます。これに王様もしくは1から8までのどれかの文字が書いてあります。」

穂乃果・「②そして王様の紙を引いた人は、1から8の好きな数字の人に何か一つだけ命令をすることができます。」

穂乃果・「③そして……王様の命令はwww」

全員・「絶対!!!」

絵里・「ふふふ!!このKKEことかしこいかわいエリーチカの実力を思う存分味わうがいいわ……。」

凜・「いやいや、王様ゲームはただの運ゲーだにやwww」

希・「見えるで、うちが王様になる未来が……」

海未・「絶対にババ抜きの際の借りを返します……。」

ことり・「ふふふ、どんな命令しよつかなく」

真姫・「……………」ワクワク↑王様ゲームをするのは初めて

にこ・「(真姫ちゃんめちやくちやくわくわくしてるwww)」

花陽・「(お腹減ったな…………) (ご飯食べたい)」

穂乃果・「じゃあ早速始めるよ!!!」

穂乃果・「せくの…………」

全員・「「王様だーれだ!!!」」

穂乃果・「あつ、私だ!!!」

他・「……………」

穂乃果・「ふふふ、じゃあどうしようかなく???」

穂乃果・「じゃあ……………」一番が全力で希ちゃんの物真似する、で!!」

希・「!？」

海未・「……………」私ですね」

海未以外・「ふwww」希・「……………」

海未・「では……………」

海未・「……………」や。」

他・「？」

にこ・「真姫ちゃん、すごい嬉しそうねw」

真姫・「え、えーと、それじゃあ、二番が四番に全力でビンタで」

ことり・「ふwww、結構ハードだねw」

絵里・「二番と四番は誰？」

海未・「二番ですわね」・穂乃果・「……………四番じゃん」

他・「wwwwwwwwww」

にこ・「まwwwまさかのwww」

ことり・「~~~~~」バンバン↑またツボに入って机たたいている

絵里・「こ、ことり笑いすぎwww」

希・「あんな命令した罰やwww」

凜・「ほ、穂乃果ちゃん、頑張つてwww」

花陽・「……………私も誰かのこと全力でビンタしてみたいな」

海未・「では、穂乃果？行きますよ？」

穂乃果・「え？ちよつと待つて、優しくだよね？ゲームだよ？ね？あの時みたいに全力でビンタしないよね?？」

ことり・「wwwほ、ほのwほのかちゃん、あの時wwとwかwww言わないでwww死んじやうwww」

花陽・「(なんでことりちゃんこんなに笑ってるんだろ・・・)」

にこ・「ふｗｗｗｗ、だめよ穂乃果！命令は全力でなんだから!!全力でピンタされなさい！ｗｗ」

穂乃果・「嫌だよ!!!他人事だと思つて!!海未ちゃんの力知らないの???穂乃果の首飛んで行つちやうよ?!?!」

凜・「ｗｗｗｗそんなわけないにやｗｗｗｗ」

絵里・「そうよｗｗいいから早く終わらせちやいなさい、そのほうが楽よ?w」

海未・「そういうわけです。行きますよ!!穂乃果!!」

穂乃果・「どういうわけさ!!ちよ、ちよつと暴力系はよくないよ!!ちよ、ほんとに!」

にこ・「往生際わるいわよｗｗｗｗピンタされるだけじゃないｗｗ」

穂乃果・「だけつてぬあああにさー!ー!ー!ー!!じゃあ変わつてよおおおー!!!」

他・「ｗｗｗｗｗｗｗｗ」

ことり・「ｗｗｗｗｗｗひつｗｗｗｗし、ｗｗしぬｗｗｗｗわｗｗｗｗわらいすｗｗｗｗぎｗｗ
wでｗｗw」

花陽・「(ことりちゃんつてこんなキャラだっけｗｗ)」

凜・「穂乃果ちゃん、荒れすぎにやｗｗｗｗなんでそんなにｗｗw」

真姫・「(私の命令ってそんなにきついものだったのかしら?)」

海未・「やれやれ、しようがないですね凜、穂乃果を押さえておいてくれませんか?」

凜・「御意」ガシツ↑穂乃果を後ろから押さえつける

穂乃果・「ちよ、凜ちゃん!? やめてよ!!! 同じお馬鹿同盟として仲間だって信じてたの
にいいいいー!!!」

凜・「何にやそれ!!! wwwてか凜は馬鹿じゃないにや!!」

花陽・「.....」。

海未・「さていきますか.....」。

穂乃果・「嘘でしょ.....、希ちゃん!!! 助けて、スピリチュアルパワーでさあああ

あ!!!」

希!・「なんでうちやねんwwwそれ関係ないしww」

絵里・「必死ねwww」

海未・「いきます!.....あなたは.....最低ですつ!!!!」

穂乃果・「ああああああ!!!」

ばつっつっつっつっつちいいいいいーんんん

どさっ↑少し吹っ飛びつつ崩れ落ちる穂乃果

穂乃果以外・「www」

にこ・「あｗｗわれｗｗｗｗはｗｗｗｗ痛いｗｗｗｗ」
 希・「ご丁寧にセリフまでｗｗｗｗｗｗｗｗ」

真姫・「(穂乃果無事かしら．．．ｗｗ)」

花陽・「(海未ちゃん目がまじだったな．．．)」

絵里・「ふｗｗｗｗ吹っ飛んだｗｗｗｗ」

凜・「すごい衝撃だったにやｗｗｗｗ」

ことり・「．．．」びくんびくん↑笑いすぎて痙攣し始めた

海未・「．．．」スツキリ

穂乃果・「．．．」よろよろ↑少しづつ立ち上がる

他・「．．．」。

穂乃果・「．．．お．．．た。」

他・「???」

穂乃果・「．．．首が．．．おれた．．．」。

他・「ｗｗｗｗｗｗ」

凜・「まｗｗｗｗまだｗｗ言つてたにやｗｗｗｗ」

にこ・「折れてるわけないでしょｗｗｗｗ」

ことり・「．．．」びくんびくん↑まだ痙攣してる

花陽・「(なんだか今のことりちゃん顔真つ赤で汗ばんで・・すごいエロい・・・)」

絵里・「でもちよっと穂乃果がかわいそうに見えてきたわww」

海未・「私がそんなハマするわけないでしょう。」

希・「よし、次や!次いこwww」

穂乃果・「・・・・まだヒリヒリしてる。」

にこ・「それじゃあいくわよ??せーのの!!!」

全員・「「王様だーれだ!!!」」

希・「おっしやー!!!うちやー!!!」

ちっ・・・・

希・「誰や!?今舌打ちしたん!・・・まあええわ、ほなどうするか・・。」

希・「よし、じゃあ五番がアライズのツバサさんに告白する、で。あ、もちろんおふ

ざけなしな」

にこ・「ちよwwそれはww」

凜・「何気に一番きつそうにやww」

真姫・「で、肝心の五番は誰なの?」

穂乃果・「・・・・穂乃果だよ。」

絵里・「また穂乃果?ww」

海未・「・・・・・・・・ふw」

ことり・「穂乃果ちゃんw w w w 踏んだり蹴ったりだねw w」↑なんとか復活した

希・「はい、じゃあ今コール中やから、頑張つて」つまホ

穂乃果・「・・・・・・・・どうなつても知らないからね？」

(もちろんスピーカー)

ツバサ・「はい、もしもし？希さん？ 珍しいわね、何か用かしら？」

穂乃果・「あくえつと、私高坂穂乃果です、お久しぶりですツバサさん。」

ツバサ・「穂乃果さん？ええ、お久しぶりね、それでどうしたのかしら？」

穂乃果・「・・・・・・・・えと、少し伝えたいことがあつて・・・」

他・「・・・・・・・・・・・・・・・・」

ツバサ・「そうだったの、それで伝えたいことは何かしら？」

穂乃果・「・・・実は、ツバサさんのことが好きです。それを伝えたく電話しました。」

穂乃果・「(どうせ、すぐ断つて終わるよね？はあくでもツバサさんに今後会いづらい

な・・・)」

他・「おおおお／／／／／／／／／／」

穂乃果・「まさか穂乃果の初告白がこんな形になるとは・・・・・・・・。てか周りうるさ

い・・・)」

ツバサ・「・・・・・・・・それは本気かしら？」

穂乃果・「・・・・・・・・」チラツ↑希のほうを見る

希・「当然」↑カンペ

穂乃果・「・・・・・・・・はい、本気です。冗談なんかじゃありません。」

他・「・・・・・・・・。。。」ゴクリ

ツバサ・「・・・・・・・・そう、穂乃果さんの気持ちはわかったわ。・・・それじゃあ付き合いますか?」
「・・・・・・うか!」

全員・「?????」穂乃果・「」

ツバサ・「!!」そ、その私も実は穂乃果さんのこと初めて見た時から気になっはいたの

／／／

!!!

ツバサ・「そして、今穂乃果さんから告白されてようやく気付いたわ。私も穂乃果さん事が好きって／／／／」

穂乃果・「」

ツバサ・「そ、それじゃあ今度改めて会いましょう?今度は恋人として／／／／それじゃあまた連絡するわね♡」ツーツー

穂乃果・「・・・・・・・・。。。」ツーツー

他・「・・・・・・・・。。。」

希・「……………よっしや、次いくで!!!!」

穂乃果・「いやいやいやいやいやいやいや……………どうするのさ!?!」

希・「何のこと??!」

穂乃果・「今まさにこの状況のことだよ!?!????」

希・「……………まああれやな。恋人出来ておめでと。」

穂乃果・「怒るよ?希ちゃん?」

希・「じよ、冗談やって穂乃果ちゃん。悪いと思ってるよ。まさかこうなるとは:。」

穂乃果・「うう、いつたいツバサさんにどう説明すればいいのさく、下手したら殺されちゃうよ……………」

希・「いやあく、さすがに殺されへんやろ……………たぶん。」

穂乃果・「んもうっ!!!希ちゃんが変な命令するからだよ!!!」

穂乃果・「ああ、穂乃果どうすれば……………死ぬのは嫌だよ……………」

希・「……………穂乃果ちゃんはツバサさんと付き合うの嫌なん?」

穂乃果・「……………いや、別に嫌ってわけでもないけど……………でもこんなのって／＼／＼」

花陽・「(これ結構すごいことなんじゃ……………)」

希・「さて、穂乃果ちゃんの照れた顔も見れたことやし、ええで入ってくれて!」

ツバサ・「はくい、ミュージズの皆さん!」↑部屋のドアからツバサ登場

希以外・「えっっ!?!?!?!」

希・「協力してくれ!ありがとうとさん、ツバサさん。」

ツバサ・「いいのよ、むしろこんな面白い面白そうなのに招待してくれて感謝してるわ」

他・「?????」

穂乃果・「え?え?え?」

希・「あはは、うちがあんな命令するわけないやん?ドッキリ大成功ってわけや!」

花陽・「(.....なんだ)」

穂乃果・「な、なんだそうだったんだ、はあく安心した・・・。」

にこ・「これは希にしてやられたわね。」

海未・「見てるこっちまで心臓に悪かったですよ。」

ツバサ・「まあ、私は本当に穂乃果さんと付き合ってもいいけどね?」

穂乃果・「.....え／＼／」

ツバサ・「なんてね」テヘツ

穂乃果・「」

ことり・「(照れた穂乃果ちゃん可愛い。)」

凜・「ことりちゃん、鼻血出てるよ?」

穂乃果・「うもうっ!!じゃあ早く次いくよ!!」

ツバサ・「あ、その前に。実は来たの私だけじゃないのよ。」
にこ・「え、つてことはまさか・・・」

あんじゆ「はうい、そのまさかです」

えりな・「・・・邪魔するぞ」

希・「つてことで今からアライズの皆さんにも王様ゲームに混ぜてもらおうから。」

絵里・「それはもちろん大歓迎だけでもし、希が王様にならなかつたらツバサさんたちはどうするつもりだったの？」

希・「・・・まあその時は・・・出番なしやな。」

にこ・「ふｗｗｗｗあんたねえ、そこはちやんと考えときなさいよw」

希・「まあまあ王様になったからええやんw。」

穂乃果・「よし、じゃあ今度こそいくよ？せくの!!!」

全員・「王様だーれだ!!!」

あんじゆ「あら？私が王様ね♪」

全員・「・・・」。

あんじゆ「そうね、それじゃあ、7番が女の子を一人ナンパしてお茶してくる、で♪」
にこ・「絵里とか海未だつたら楽勝そうなお題ね・・・」。

凜・「これ凜じゃなくてよかつた・・・」

穂乃果・「七番は誰？」

真姫・「・・・・・・・・私よ」

全員・「ｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ」

希・「いｗｗ一番ナンパできなさそうな真姫ちゃんがｗｗｗｗ」

ことり・「が、がんばってｗｗ真姫ちゃんｗｗｗｗ」

ツバサ・「（この罰結構しんどいのよね・・・・・・・・）」↑経験済み

真姫・「・・・・・・・・。」

真姫・「あ、あのう・・・・・・・・うう」↑校門まで来て通りがかる生徒に声をかけよう
としている

にこ・「これｗｗはｗｗｗｗひどいｗｗｗｗ」↑近くの陰で見物中

希・「これ今日中に終わらんでｗｗ」

あんじゅ「うふふふ♪」

海未・「（あんじゅさんの命令は絶対に受けたくないですね・・・・・・・・）」

真姫・「（こ、このままじゃ、完璧美少女まつきーの名に関わるわ・・・・・・・・。こうなった
ら手当たり次第に声をかけるわ・・・・・・・・っ！早速後ろに人の気配が！いくのよ、まつきー

えりな・「こんなに荒れるツバサは初めて見るな・・・w」

ことり・「(・・・実際穂乃果ちゃんどうやってあんな動きしてたんだろ?ww)」

ツバサ・「大体ねえ!!! ミューズにしろアクアにしても、主人公高く空に向かってジャンプしすぎなの

よ!!!何!?主人公は曲のたびに飛ばないと死ぬの????」

穂乃果・「sowwwそんなことwwwないですよwww失礼なwww」

希・「アクアとかやめーやwww時系列無茶苦茶になるやんwww」

ことり・「www↑ツボにはまった

海未・「ではヘルメットはなしでいいんですね?ではさつそく踊ってもらいます」

ツバサ・「」

凜・「海未ちゃんwww淡々としすぎwww」

にこ・「これwwwいいの?ww」

真姫・「大丈夫よ!!万が一怪我してもこのまきちゃんが治してあげるわ!!!」↑さつき

の一件で少しテンションがおかしくなってる

ツバサ・「」

ツバサ・「本当にやるの??」↑携帯に向かつて

海未・「……………」カチッ↑曲開始のボタン

ことり・「(w w w w w w 海未ちゃん容赦なさすぎw w)」

→一緒に踊るため階段下の道で待機中

ファ〜♪♪↑ススメトウモロウ開始

ツバサ・「(こうなつたらやってやるわ!!…………でもヘルメットかぶればよかつ

たああ)」

ツバサ・「だつて〜♪かのう〜せ〜い♪か〜んじたんだ〜♪」

穂乃果・「(なんかすでに面白いw w w w)」

凛・「(音程もリズムもばっちりやw w w)」

ツバサ・「そうだ〜♪すすめ〜〜〜♪」

後悔した〜♪ないめ〜のまえに〜♪

僕らの〜みちがある〜♪」

希・「(歌詞とこの状況がマッチしなさすぎておもしろいw w w w)」

あんじゅ「(なんでツバサはよそのアイドルグループの曲を知ってるのかしら?)」

にこ・「(さあw w w wここからよw w w w)」

穂乃果・「(ツバサさんw w w大丈夫かな? w w w)」

希・「全然wwwwww進めてないやんwwwwww」

凜・「ちよwwwwww希ちゃんwwwwwwそういうのいらなからwww」

絵里・「理事長も容赦ないわねwwwwww全然よける気配なかったしwww」↑車の運転は理事長に依頼してた

真姫・「今日www吹っ飛ぶ人多いわねwwwwww」

花陽・「……ふwww」

ことり・「wwwwwwで、出番wwwwwwなかwwwwwwったねwwwwww」

海未・「wwwwww」

あんじゅ「……どうしてミューズに負けたかわかったような気がするわ」

ツバサ・「ひどい目にあつたわ……」。

穂乃果・「(道で転げまわるから制服ぼろぼろだよ……)」↑制服を貸していた

ことり・「(穂乃果ちゃんの制服ぼろぼろだwwwwww)」

えりな・「……www」↑まださっきの余韻が残ってる

希・「(でもあれだけのことがあつて怪我なしつてとこがすごいなwww何気に受け身ばつちりやつたしwww)」

穂乃果・「よくし、じゃあ次いくよ、せくの!!!」

つづく?

第2話

穂乃果「王様ゲームだよ!!」の続きです

穂乃果・「よろし、じゃあ次いくよ、せうの!!!」

全員・「「王様だーれだ!!!」」

凜「やったにや、凜にや〜!!」

ツバサ（園田さんじゃなくてよかった・・・）

凜「えくと、じゃあ2番が絵里ちゃんのもの真似しながら5分間喋り続けるで。」

真姫「どういう命令かよく分からないわね。一度見本を見せてもらってもいいか

しら?」

凜「学校のきよかああああ??? w w w w 認められ n w w w w w」↑途中でなぜか急に面白くなってきて笑い出してしまう

他「w w w w w w w w w w」絵理「ちよつと待つて」

ここ「ちよ w w w w、途中で w w 笑わないでよ w w w w w」

凜「だめ w w w w なんか耐えられなかったにや w w w w」

穂乃果 「だ、だめwwwお腹がちぎれるwww」

ことり 「www↑自分の言ったことに大爆笑してる

真姫 「横で亜里沙がハラショー流石お姉ちゃん！とか言ってそうねwww」

希 「目キラキラさせてなwww」

にこ 「ちよwwwあんたらwwwそういう補足まじでやめてwww」

ことり 「www↑さらにツボにはまることり

凜 「ことりちゃんwww、まだ4分以上残ってるよ？www」

ことり 「だwwwめwww、もうwwwネタ切れwww」

海未 「早すぎますよwww」

希 「ことりちゃん中でのえりちそれだけwww」

にこ 「アニメでもうちよい絵里の真似してたじゃないwww」

絵里 「……。」

花陽 (絵里ちゃん顔が死んでる……)

凜 「まあまあ、じゃあ想像でもいいから物真似続行してにや。」

ことり 「想像……、ハラシヨ……お茶漬け……おいしいわwww」

他 「www」

穂乃果 「ことりちゃんwww想像力なさすぎwww」

ことり 「だつてwww」

真姫 「川柳みたいになつてるしwww」

凜 「ことりちゃん、まだ時間残つてるよ？」

希 「凜ちゃんもまあまあ鬼畜やなw」

ことり 「うゝん・・・ロシア語・・・ハラシヨー以外・・・何かあるの？w

ww

希 「あるに決まつてるやろwww」

穂乃果 「最早物真似でも何でもないwww」

真姫 「だからなんで川柳風w」

絵里 「・・・早く終わらないかしら」

ことり 「やつと終わった・・・w」

穂乃果 「後半ことりちゃん笑つてただけだねw」

にこ 「本当にお腹痛いw」

絵里 「・・・」

アライズ （よくわからなかった・・・）

穂乃果 「よしそれじゃあ次いくよおう……」

全員・ 「「王様だーれだ!!!」」

絵里 「あら……、私だわ……」 ↑無表情

他 「……」

ことり (これは……まずい、まあ確定でことりに命令が来るってわけじゃないから大丈夫だよな?)

凜 (やばい、まあこれだけ人数いたら凜に命令来るわけじゃないや)

にこ 「……」

穂乃果 「すごいタイピングだねw、それで絵里ちゃん命令は？」

絵里 「そうねえ……、ん？」 ↑スマホがラインメッセージを受信したことに気付く

にこ (ライン) 「ことりは4番、凜は2番」

絵里 「……」 チラッ↑にこの方を見る

にこ 「……」 グッ↑他に見えないよう親指を立ててる

海未 「絵里どうしたのですか？」

絵里 「いいえなんでもないわ、じゃあ……2, 4, 6番は海未と山頂アタックで」

↑なんとなくて6番も追加した

ことり&凜 「真姫」 ↑巻き込まれた

海未 「聞きましたね。さあ！三人とも行きますよ！」

ことり 「ちよつと待って！」

海未 「何ですかことり？」

ことり 「何かにこちゃんと絵里ちゃんが怪しい感じの視線のやり取りしてたよ？絶
対何かあるよ！」

海未 「と、言ってますが??」

にこ 「ん〜？ 違うわよ？ 本当よ？」

海未 「だそうです。じゃあ行きますよ。」

他 「w w w w w w w w」

ことり 「ちよつとおお、海未ちゃん?!?」 にちゃん明らかに怪しかったじゃん!!?」

海未 「ふむ、クマが出るかもしれない!?!?」 があそこにはいますか?..」

ことり 「ちよつとおお、誰かああああ助けてええええ!!?!!?」

他 「w w w w w w w w w w w w w w」

希 「ことりちゃん笑ったり叫んだり情緒不安定すぎやろ w w w w w w」

穂乃果 「今日のことりちゃん絶好調だね w w w w」

にこ 「w w w w w w w w」

花陽 (真姫ちゃんと凜ちゃんは完全に諦めてる……ww)

ことり 「う、海未ちゃん!!!」

海未 「？」

ことり 「お、おねがぁいい♡」

海未 「何がですか、それより早く行きますよ。」

穂乃果 「効果なしwwww」

希 「wwwwwwww」

ことり 「海未ちゃん!? そこは顔を赤らめて、しょうがないですねっていうところだよお!!?」

海未 「では、皆さんちよつと行ってきます」

他 「「いつてらっしやい」」

ことり 「そんなあぁあぁあぁあぁあ」

ツバサ 「山頂アタックとは……」

あんじゅ (全然わからないわね……)

三人 「……………」チーン 海未「……………」スッキリ

ツバサ (何があったのかしら．．．)

希 「地獄絵図やなwww」

絵里 「．．．．．。」↑真姫に悪いことしたと思ってる。

穂乃果 「よし、じゃあ早速次いくよ」

ここ 「穂乃果www全然休ませる気ないわねwww」

穂乃果 「せゝのっ!!」

全員・ 「「王様だーれだ!!!」」

あんじゆ 「あら、また私ね。」

穂乃果 (あんじゆさんか、正直ミューズ以外はどうかよくわからないから

ちよつと怖いね．．．)

真姫 (もう何が来ても乗り越えられる気がする．．．)

あんじゆ 「それじゃあ2番はセクシーポーズ取りながら男性を誘惑する真似をするこ

とで♪」

希 「これまたぶち込んできたなw (よかつた違うくて．．．)」

穂乃果 「誰がするの? www」

真姫 「．．．．．2番よ。」

他 「wwwwwwwwwwww」

希 「だww誰がwwwwこれにwww誘惑wwwされんねんwwww」

絵里 「セリフがwwwnんパの時とwwwほぼ一緒wwww理事長しかついで
こないわよwwwwww」

凜 「ポーズもなんか、wwww膝痛めた人みたいwwwwww」

花陽 「……www」

あんじゆ 「……ふw」

ことり 「ちよwwwwそんなことwwwwいwwww言わないwwwwでww
w」

真姫 「」

穂乃果 「あく本当笑い死にするかと思ったよw」

ことり 「……ふww」↑まだ余韻が残ってる

希 「あんなん最早テロやろw」

にこ 「ちよつと本当にそういうこと言うのやめてww」

真姫 「」

穂乃果 「ふくじやあ次行こうかww」

ことり 「ちよちよちよちよちよ、うそでしょ??? 何でそんなこと言うの??? なんてそんなついでみたいにそんなこと言うの?!?!二回目だし?!?!」

他 「w w w w w w w w w w w w w w w w」

凜 「ことりちゃんw w w いちいち王様に抗議しないでよw w w w w w w w w w」

穂乃果 「ことりちゃん急に必死にならないでw w w w w w w w w w」

海未 「次はどここの山にしましょうか・・・。」

希 「まあまあことりちゃん、勝てばいいんやから。」

ことり 「いやいや、無理に決まってるじゃん? 何言ってるの? こんなものいじめだよ

？」

他 「w w w w w w w w w w w w w w w w」

穂乃果 「もうw w w w ことりちゃんのキャラがわからないw w w w」

ツバサ 「w w w w w w w w w w」

希 「はいはい、ことりちゃん言い訳は後でなw w w w はい、じゃあ二人とも牛乳用意するから待ってて」

あんじゅ 「・・・これ勝っても負けても地獄よね。」

ツバサ 「w w w w w w w w w w」

ことり 「へ、変なところw w w w w w w w w w入ったw w w w w wし、w w w死んじやうw」

真姫 「↑動画取られてたことに絶望中

希 「じゃあことりちゃんの負けってことで海未ちゃんともう一回山頂アタック

ねw」

ことり 「ちよw w w wちよつとw w wそれはw w wおw wおかしいよw w w w」

穂乃果 「にらめっこはどこにw w w w w」

海未 「さあことり早く行きますよ！二度目ですからさつきよりレベル上げていき

ますよ!!」

ことり 「ちよつとw w w待ってw w wせめてw w w顔w w w洗わせてw w w w」

あんじゆ 「.....」

穂乃果 「.....あんじゆさん、シャワー設備あるので案内しますね？w w w」

えれな 「w w w w w w w w」

ことり 「チーン 海未「.....」スツキリ

希 「なんで海未ちゃんあんな元気なんやww」

絵里 「ことり、痙攣してるわねww」

穂乃果 「そういえば花陽ちゃんは？さつきから見えないけど？」

凜 「かよちゃんならお腹すいたから帰るって言ってたよ？」

希 「自由かwwww」

にこ 「ことりも無理そうねwwww完全に死んでるしwwww」

穂乃果 「ん〜じゃあ二人補充しよつか！」

絵里 「そういえば亜里沙は今日暇って言ってたわよ？」

穂乃果 「じゃあ亜里沙ちゃんとあと一人は・・・」

絵里 「まあ、後は穂乃果の妹のゆき」理事長だねっ!!」

にこ 「なwwwwんwwwwでwwww」

穂乃果 「だつてことりちゃんと見た目一緒じゃん。ことりちゃんの代わりは理事長
しかないよー！」

希 「親友になんてことをwwww似てるけどww」

凜 「でも理事長どうやって呼ぶの？どこにいるか分からないよ？」

真姫 「・・・さつきお茶したとき電話番号交換したから大丈夫よ。」

にこ 「何しつかり電話番号交換してるのよwwwwww」

絵里 「w w w w w w w w w w」

穂乃果 「それで理事長どうだった?？」

真姫 「ええ、すぐに来るって言ってたわy」みなさんこんにちには南ことりの母改め理事長です!」

他 「w w w w w w w w w w w w w w w w」

希 「早いわ、どこおってんw w w w w w w w w w」

絵里 「いきなり自己紹介しながら入ってこないでくださいよw w w w w」

穂乃果 「さすが親子だねw w w w」

にこ 「これまた荒れそうねw w w w」

理事長 「アライズの皆さんもこんにちは・・・ってあら?」ことりはなんで痙攣して倒れてるのかしら?」

他 「さあ?」

理事長 「そう、まあいいわ早速始めましょうよ!」

穂乃果 「言っておいてなんですけどそれでいいんですか? w w w w」

希 「なんで理事長こんなノリノリやねんw w w w」

亜里沙 「あゝこんにちは」。

絵里 「亜里沙、来たのね。」

穂乃果 「いらつしやい亜里沙ちゃん！」

亜里沙 「あの、お姉ちゃんにはとりあえず来るよう言われたんですが……つてきや
！ 何か踏んだ……つてことりさん？」

希 「亜里沙ちゃん、ことりちゃんは別にいいから早くこつちおいで王様ゲーム
するで！」

絵里 「ことりの扱いがwww」

亜里沙 「王様ゲームですか。」

穂乃果 「そうそう、要是王様を選ばれたら他の人になんでも命令できるんだよ！」

亜里沙 「ハラシヨク、面白そう！」

にこ （こんな純粹そうな子をこのゲームに巻き込むなんてww）

穂乃果 「よししじやあみんな揃ったし後半戦いくより、せくの！」

全員・ 「「王様だーれだ!!」」

つづく

絵里 「可哀そうwww」

にこ 「えくと、じゃあ1、3、5番にドロドロの三角関係を演じてもらおうかしら……。」

凜 「にこちゃんwww元気出してwww」

希 「でもどろどろの三角関係って修羅場的な？」

にこ 「そうそう。で、一番演技力なかった人は……理事長からディープキスで」

穂乃果 「うわ……。」

希 「えぐ……。」

ツバサ 「これは……。」

真姫 「助かった、本当に……。」

亜里沙 「でいーぷキス??」

絵里 「これは、負けられないわね……。」↑1番

凜 「凜も本気出す時がきたようだね……。」↑3番

海未 「演じ切って見せます……。」↑5番

理事長 「あなたたち失礼すぎないかしら？」

希 「これは、配役も重要になっってくるな」

穂乃果 「で、配役決めた結果が・・・」

海未↑二股かけてる彼氏役 絵理↑彼氏の彼女役 凜↑浮気相手役

希 「これ大丈夫なんかw w w」

穂乃果 「海未ちゃん絶対二股とかかけれなさそうだけどw w」

にこ 「シチュエーションは三人に任せるわ！じゃあ早速始すたくとっ！」

絵里 「う〜みつ♪」 海未 「絵里！」 ↑いきなりセリフが被った

凜 「・・・ふw w」

絵里&海未 「・・・w w」

他 「w w w w w w w」

穂乃果 「いきなりw w w w」

希 「しつかりせえやw w」

亜里沙 「海未さんが彼氏役・・・。いいなあ、お姉ちゃん。」

真姫 「たぶん全然よくないと思うわよw w」

絵里 「こほん・・・、う〜みつ♪ 今日久しぶりのデートね♪」

海未 「絵里、そうですね・・・二週間ぶりですか？」

えれな 「さすがミューズだな、スイッチが入れば大した演技力だな。」

穂乃果 「確かに二人とも凄い・・・、でもなぜかちよつと面白いw w」

行

真姫 「なんだか絵里がかわいそうに見えてきたww」

希 「それなww」

海未 「もうあなたでは満足できないのですよ……」

絵里 「そんな……どうして……」

ツバサ 「……かといって、あんな女にいくというのはどういう事なのかしら。」

穂乃果 「ツバサさんww今はそういうのやめてくださいww」

海未 「とにかくあなたとはもう終わりです。行きますよ！凜！」

凜 「はあああゝい、だああゝりん!!」

希 「えりちがwwwwww惨めすぎるwwww」

穂乃果 「絵里ちゃんは何したのさwwww」

真姫 「終わるの早すぎるわよww、内容何もなかったしwwww」

絵里 「……」

ここ 「はい、そこまで。お疲れ様。」

凜 「結構楽しかったにやゝ、凜演技もいけるにやゝ」

希 「本気で言ってるんやったら病院行ったほうがええで。」

真姫 「で、誰が理事長とデイトプキスなの？にこちゃん。」

凜&絵里 「」

理事長 「じゃあまずは星空さんね。う〜」

凜 「やだああああああ絶対、ちよえ？これ………何？」

希 「急に疑問抱くなやwww」

穂乃果 「凜ちゃんwww無理だよwww今までのやり取りから逃げられないことは

わかるでしょwww」

凜 「そ、んな………」

理事長 「はい、いくわよ〜」

ぶつちゆうううう♡

他 「wwwwwwwwwwwwwwwwww」

希 「凜ちゃんwww白目になってるwww」

穂乃果 「効果音が汚いwww」

ツバサ 「……」。↑ドン引きしてる

亜里沙 「はわわわわわ／／／／」

真姫 「亜里沙、たぶんこれ照れるとこじゃないわよwww」

あんじゅ 「……www」↑ちよつと面白くなってきた

えれな 「これ南さんが見たらどう思うんだろうかw」

理事長 「ふう、じゃあ次は絢瀬さんね。」 凜 「ドサツ↑気絶した
絵里」 ↑諦めてる

絵里&凜 「ずくん 理事長「いやあ、若い子の唇つてぷるぷるね♪」

希 「予想通りえぐい絵面やつたなwww」

穂乃果 「こっちまで夢に出てきそうな光景だったねwww」

亜里沙 「ハラシヨ〜これが高校生／＼」

真姫 「亜里沙、その認識は捨てたほうがいいわよ。」

穂乃果 「よし、じゃあ次行くよ〜！」

全員 「王様だーれだ!!!」

つづく

第5話

穂乃果 「王様ゲームだよ!!」 第4話の続きです

全員 「「王様だーれだ!!!」」

ことり 「ちよつと待って。」

穂乃果 「ことりちゃん、もう目が覚めたんだねww」

ことり 「うん、床が牛乳臭かったからすぐ目が覚めちゃった・・・。」

穂乃果 「そうw、一応掃除はしたんだけどねww。」

あんじゅ 「・・・。」くんくん↑牛乳の匂いが残ってないか確認してる

ことり 「というわけでお母さん交代ね。」

理事長 「え? でも私まだ全然活躍してないのよ?」

希 「いや、割とがつつり目立ってましたよww」

理事長 「そう・・・じゃあ悲しいけどここでお別れね。また呼んでね。」

絵里 「もう一生来ないでください。」

ここ 「wwww」

ことり 「お母さんよくこれ着て恋になりたいアクアリウム歌ってるよ？」

真姫 「ホラーじゃないww理事長やばいわねww」

希 「ていうかちよいちよいアクアネタぶっこんでくるのやめーやww」

ツバサ 「なにあの着ぐるみ・・・」

穂乃果 「ふふwwまあいいや、じゃあ早速準備もできたということで続きするよ」

全員 「「王様だーれだ!!!」

全員 「・・・・・・」

希 「いや誰やねんww」

えれな 「私が王様だな・・・」

穂乃果 「えれなさんwwもうちよつと早くお願いしますww」

えれな 「それはすまなかった。では命令だが、3番が8番に、キャメルクラッチから

のキン肉バスターでいこう。」

穂乃果(補足) 「キャメルクラッチとキン肉バスターを知らない人がいたらyoutu

ubeとかでどんなものか見てから読むことを勧めるよ！」

ことり 「鬼畜wwwwww」

海未 「うちつちが爆笑してる姿はシユールですねww」

穂乃果 「キン肉バスターなんてして大丈夫なのかなww」

絵里 「いいわよ亜里沙 w w w w」

真姫 「子供が大きな木の根っこを全力で引き抜こうとしてるみたいね w w w」
 ここ 「確かに w w w」

えれな 「甘いぞっ！亜里沙とやら！もっと全力を出せ！」

他 「w w w w w w w w w w」

ツバサ 「えれな w w w どうしたの w w w」

あんじゅ 「たぶん出番がなかったから張り切ってるのよ w w w」

穂乃果 「えれなさん w w w スパルタ w w w」

亜里沙 「はい！がんばります！立派なスクールアイドルになるためにも！えいっ！

えいっ！」

希 「ままままままじでまじでまじでまじで、亜里沙ちゃんっ！あり、亜里沙ああああああああ」バンバンバンバンツ↑亜里沙の足にタップしてる音

他 「w w」

絵里 「亜里沙 w w w 我が妹ながら恐ろしいわね w w w w」

ことり 「だめ w w w w w w あははは w w w w w w」ごろごろ↑面白すぎて転げま

わつてる

ここ 「ちよ、ことり w w w うちうちーの格好で転げまわらないでよ w w w w w w」

真姫 「希が全力でタップしてるのに亜里沙全部無視 w w w w w w w w」

凜 「希ちゃん、元気なオットセイみたいだね w w w w」

穂乃果 「凜ちゃんそんなこと言っちゃだめだよ w w w w w w w w」

ツバサ 「w w w w w w w w w w」

希 「ほ、ほんまに・・・死ぬかと思った・・・。」

亜里沙 「ハラシヨ、楽しかったです！」

凜 「亜里沙ちゃん、実はサイコパスなんじゃ・・・w」

えれな 「じゃあ次は筋肉バスターだな」

希 「あ、そうか・・・まだあるんか・・・。」

穂乃果 「希ちゃん w w 頑張つて w w」

亜里沙 「筋肉バスターも知らないです・・・。」

ことり 「亜里沙ちゃん、これがキン肉バスターだよ！」↑スマホの YouTube で

確認中

真姫 「ことりさつきからやけに協力的ね w w」

凜 「とうかうちうちーの着ぐるみ着てどうやってスマホ操作してるんだろ

？」

亜里沙 「ハラシヨク、わかりました！じやあ行きますよ！希さん！」

希 「ちよ、さつきとまったく同じセリフやけど大丈夫?!?!? キン肉バスターはさつきの技より危険なんやで!!」

亜里沙 「大丈夫です！任せてください！」

ことり 「ふww正直不安しかないwww」

穂乃果 「ていうか亜里沙ちゃん希ちゃんを抱えられるのかなww?」

亜里沙 「じゃあいきます！」ぐい↑希をなんとか抱え上げる

絵里 「こ、こわいwww大丈夫かしら」

亜里沙 「お、おもい・・・希さん体重いくらですか？」

希 「言うわけないやろww ていうか重い言うなw」

穂乃果 「亜里沙ちゃん、足がくがくしてるけど大丈夫ww?」

真姫 「中学生が高校生を抱えてるってすごい絵面ねww」

亜里沙 「あ・・・ごめんさい希さん、もう無理です。」パツ↑重さに耐え切れなくて

希を離してしまう亜里沙

希 「うそやろおお・・・がっ!」ゴキツ↑首から落ちる希

他 「・・・!?!」↑首から落ちたのでまじでやばいのではと感じてる

希 「く、くびがあああああああ、だから言ったやんけええええええ」

穂乃果 「よ、よかった、生きてたんだね希ちゃん、本当に死んだかと思ったよ。」

ことり 「今のは笑えなかつたね・・・、ことりもさすがにやばいと思ったよ。」

希 「：いや、せめて笑ってえや。この状況、うち可哀そうすぎるやろ。体張った意味・・・。」

亜里沙 「希さん、本当にごめんなさい。重くて落としました・・・。」

希 「・・・ええんやで、ただ二度と筋肉バスターしたらあかんで。あと重い言うな。」

ことり 「・・・いい話だね。」ウルウル

凜 「どこがだにや」

穂乃果 「なんだか亜里沙ちゃんのキャラを垣間見たねww」

亜里沙 「まだまだ頑張りますよ！」

希 「亜里沙ちゃんの見方が変わったわ・・・。」

穂乃果 「よくし、じゃあ次行くよ」

全員 「「王様だーれだ!!!」」

つづく

第6話

穂乃果 「王様ゲームだよ!!」 第5話の続きです

全員 「「王様だーれだ!!!」」

ツバサ 「あら、やつと私ね!」

穂乃果 「二連続でアライズだね(正直怖い……)」

希 (頼むから痛いのはやめて……)

ツバサ 「そうねえ、じゃあ8番のお尻にキックで♪」

凜 「え? それだけ?」

ツバサ 「? そうよ?」

ことり 「序盤ならともかくキン肉バスターの後だとねwwまあできてなかったけどww」

希 「ほんまやで、さっきの8番今回引いたらよかったわ……」

絵里 「海未に蹴られるならともかくねえ……」

海未 「どういうことですか?」

あんじゆ「がっ!!!ふお」↑同じく逆くの字で吹っ飛ぶあんじゆ
 あんじゆ「あ!!!!!!」
 声をあげるあんじゆ!!!!!!
 あああああ・あああああああああ↑床に倒れ謎のうめき

希「がっwwwwふおwwwwつてwwwwwwww」

ことり「あんじゆさんがwwwwwwこわれたwwwwww」

穂乃果「色々なwwwwww反応がwwwwあるんだねwwww」

ツバサ「wwwwwwwwwwwwwwwwww」

亜里沙「……………」↑痛すぎて笑う余裕がない

海未「そういえば希今回8番ひいたらよかったみたいなこと言ってませんでし

たつけ?」

真姫「言つてたわ、間違いなくね。」

希「は?」

タイ人「……………」希のほうへ向き直るタイ人

希「は?」

希「……………まじでケツぶっ飛ぶかと思った。」

絵里 「お疲れwww希wwwwww」

希 「ていうかなんでうちのシーンだけカットやねん……。」

穂乃果 「だって、他の二人とあんまり変わらなかったし……。」

希 「じゃあええやんけ……うちにタイキツクせんでも……。」

亜里沙 「私、やつぱりUTXに行く……。」

ことり 「亜里沙ちゃんwwwそんなこと言わないでwww」

海未 「でも、UTXにこそあのタイ人がいるのではないのですか？」

亜里沙 「……音ノ木坂行く。」

希 「亜里沙ちゃんwwwちよつと可愛いつて思ったわwww」

あんじゆ 「あああああああ」

えれな 「ふむ、あんじゆが本格的に壊れてしまったな。」

にこ 「なんでそんなに冷静なのwww」

ツバサ 「しょうがないわね、私たちはここでお邪魔しようかしら？（早く帰りたいし

ね）」

えれな 「そうだな、十分楽しめたしな。」

穂乃果 「まああんじゆさんがこれじゃあしようがないですねwww」

ツバサ 「じゃあここで失礼するわ。さようならミューズの皆さん！」

絵里 「また是非来てくださいいね！」

ツバサ 「いや、もう来ません！」

希 「そんなきつぱりwwwwww」

えれな 「ではさらばだ！」

海未 「……えれなさん、ちやつかり自分だけ罰を受けずに逃げましたね。

まあ、そうはさせませんけどね……。」

絵里 「ちなみ亜里沙、何であの時あんじゅさんを指名したの？」

亜里沙 「え？ こういう時って名前順じゃないの？」

ことり 「そんなことないよwwwwwwwww」

希 「あんじゅさんwwwどんまいwww」

穂乃果 「ふふwww、よろし、じゃあ次行くよ」

全員 「「王様だーれだ!!!」」

つづく

第7話

「穂乃果 「王様ゲームだよ!!」 第6話の続きです

全員 「「王様だーれだ!!!」」

ことり 「やったく、ことりだ〜♪」

希 「正直今日のことりちゃんには王様になってほしくなかったわ・・・。」

凜 「今日のことりちゃん荒れまくってるもんねw」

ことり 「じゃあく♪1、2番の人でことりがきゅんきゅんしちゃうぐらいイチャイチャしてください♪」

にこ 「ことりらしい命令ねw」

穂乃果 「今までとは違う種類の命令がきたねw」

絵里 「1番と2番が誰かにもよるわね。」

ことり 「それでそれで!! 誰が1番と2番なの??」 ワクワク

海未 「……………私ですね。」

希 「……………またうちゃん。」

ことり 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・w w」

真姫 「ふふふw w w w、この二人がねw w w」

穂乃果 「これはw w w予想できないw w w」

絵里 「希ほほ毎回巻き込まれてるわねw w」

亜里沙 「あゝ、いいなあゝ、希さん」

ことり 「じゃあ早速初めてもらおうかな・・・w」

凜 「ちよつと待って、こういう時はちゃんときなかつた時に備えて罰を決め

ないとだめにゃ。」

穂乃果 「凜ちゃんw w w自分がされたからつてw w w」

希 「・・・・・・・・余計なことを」

絵里 「凜、その通りよ！」

にこ 「まあ、今までの流れるにもねw w」

ことり 「うゝん、そんなこといきなり言われてもね・・・」

希 「ことりちゃん、無理する必要ないねんで？ うちと海未ちゃんが真剣にい

ちやいちゃするとこなんて大して見たくないやろ？な？な？ええやん別に。」

真姫 「だめよ希w w w 自分だけ逃げようなんて甘いわよw w w」

希 「いや、うちトツプクラスできついことしてる気するねんけど・・・。」

れにのるか。)

希 「え〜ほんまあ〜、．．．うちも〜」↑海未のほつぺたすりすりしながら

他 「ｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ」

穂乃果 「き、気持ち悪いｗｗｗｗｗｗ」

ここ 「語尾伸ばすしやべり方やめてｗｗｗｗｗｗ」

絵里 「違和感しかないｗｗ」

ことり 「ｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ」

希 (．．．．．まあ、やってて自分でも思ったけど)

海未 「本当ですかあ〜、どれくらい好きですか??」

希 「う〜ん、焼き肉といっしょぐらい?」

海未 「．．．．．そうですかあ〜」

真姫 「なにを見せられてるのｗｗｗｗｗｗ」

凜 「とんだ茶番にやｗｗｗｗ」

海未 「．．．それにしても希のおっぱいはいいですねえ〜」もみもみ↑希の乳をも

みだす海未

希 (ｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗこいつ)

他 「ｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ」

穂乃果 「海未ちゃんwwww何してるのww」

真姫 「まるつきり変態ねww」

海未 「ふむ、この弾力……、いいですねえ」もみもみ……

にこ 「どうしたのよwwww海未ww」

絵里 「完全にいちやいちやを履き違えてるわねww」

希 (どうしたらええねんwwwwwwwwww)

ことり 「wwwwwwwwww」

亜里沙 「うみ、さん……。」

希 「……海未ちゃんの胸も悪ないやん」↑やけくそで海未の胸をもみ返す

希

海未 「そんなことないですよ」もみもみ↑ついに両手で乳をもみだす海未

希 「……くっww」

希 (あかん、間違はなく沼津までランニングに向かっているのがわかる……w)

希 (いや、もうこのまま罰受けるんやったら暴れたろ。くらえっ、園田あああ

!!)

希 「うえ〜いいいいwwwwww、海未ちゃんのおっぱい大興奮やでえええ、な

んやこの控えめなおっぱいはああ???バスト72ぐらいしかないんちゃううううう???

海未 「……………」

希 (……………なぜか清々しいわ)

ことり 「せっかくことりが王様になったのにwww」

真姫 「これは二人とも罰ねwww」

海未 「しようがないですね、ほら希行きますよ。」

希 「……………え？うちセーフちゃうの？」

にこ 「そんなわけwwwwww」

穂乃果 「どういう考えでそうなったのwwwwww」

希 「いやいや、めつつちや、いちやいやしたやん！」

絵里 「興奮したゴリラが暴れてるみたいだったわよwww」

にこ 「ふwwwwwwゴリラwwwwww」

希 「いや、冷静に考えて？ 沼津やで、どこにあるかよくわからんけどフルマラ

ソン以上せんといけへんねんで？」

海未 「ごちやごちや言つてないで行きますよ。」↑無理やり連れていこうとする

希 「……………っ千年殺しいいいいい!!」↑海未に向かつて千年殺し！

海未 「がっ!?!……………あ、あ……………おおお、ふ。」↑まともに入り、崩れ落ちる海

未

希 「ふざけんなあ！　うちは逃げるで！　どこまでもなああ！」↑ドアまで
ダツシユで逃げる

穂乃果 「ちよつと希ちゃん！　ずるいよ!!」

凜 「そうにや!!!　待つにや!!!」

ことり 「海未ちゃんwww」

理事長 「ことり！　そろそろうちつちーの着ぐるみ返してちようだいっ！」ドアバ
ンツ↑ドアを思い切りあげ放つ理事長

希 「ぶっ?!?!　ノックぐらいしろや・・・。」↑そのドアにまともに激突し崩れ落
ちる希

穂乃果 「ふwww理事長wwwナイスだねwww」

絵里 「そういえばことり着ぐるみ着てたわねwww」

ことり 「wwwwwwwww」

希 「いったあく、ほんま理事長なんやねん・・・」

海未 「・・・の、希い、やってくれましたねえええええ」

希 「」

にこ 「希www死んだわねwww」

海未 「では、皆さんちよつと沼津まで行ってきますね！」ニコツ

他 「いってらっしやい♪」

希 「」

海未 「帰りましたよ！」

穂乃果 「ふｗｗｗｗお帰り。元氣だね海未ちゃんｗｗ」

絵里 「海未・・・恐ろしいわねｗｗ」

ことり 「希ちゃんがないねｗｗｗｗ」

真姫 「で、どうなったのランニングは？」

海未 「ふむ、いいトレーニングになりましたよ。ただ希は70キロ行った辺りから気絶したり、泣き喚いたりしたのでそのたびにたつき起こして二人三脚スタイルで無理やり引きずって沼津まで行ったので大変でしたよ。」

穂乃果 「じｗｗｗｗ地獄だｗｗｗｗ」

絵里 「ちよつと希がかわいそうになってきたわｗｗ」

にこ 「70キロ行ける時点で希も十分化け物だと思うけどねｗｗ」

ことり 「それでその希ちゃんは？」

海未 「それが、帰りも走りますよと言ったらダッシュで逃げていったんですよ。」

穂乃果 「そりやそうだよwwwwww」

にこ 「……待つて、帰りも走つてきたの？」↑ドン引き

絵里 「希wwwランニング後だったのにまだダツシユできたのねwww」

穂乃果 「それで希ちゃんはどうしたの？」

海未 「当然すぐに捕まえたのですが、標準語でガチ泣きされて扱いに困ったんですよ。でもたまたまいた親切な黒髪の子が是非面倒見させてくださいとのことだったので預けてきました。面倒でしたし一応罰のランニングは達成していたので。」

ことり 「どういうことwwwwww本当に大丈夫なのその子？ww」

海未 「どうも、ミューズの大ファンみたいでサインしたら大喜びして引きうける

とのことでしたよ？」

穂乃果 「まあ、今あれこれ考えてもしょうがないし、続きやろつか。」

凜 「それでいいのかにやwww」

亜里沙 (私音ノ木坂も受けるのやめようかな……)

穂乃果 「いっくよ」

全員 「「王様だーれだ!!!」」

第8話 千歌「アクアも乱入するよ！」

「穂乃果「王様ゲームだよ!!」第7話の続きです。

千歌 「ねえねえ梨子ちゃん……。」

梨子 「ど、どうしたの千歌ちゃん／＼ ハアハア」

千歌 「壁クイごっこ、だっけ?もうやめない?」

梨子 「やめない!!」

千歌 「それ私のセリフだよ」

梨子 「お、お願いもうちよつとだけ……／＼ハアハア」

千歌 「え、だってもう3時間ぐらいやってるじゃん」

梨子 「でもね千歌ちゃん、こういうこととしてこそ歌詞の発想がでるんじゃないかしら。」

千歌 「うゝん」

・ピロリンッ!

千歌 「ん? あ、ダイヤさんからラインだ。」

ダイヤ 『千歌さん！ 大ニユースですわあ!!』

千歌 『どうしたんですかダイヤさん??』

ダイヤ 『なんと、なんとお、あのミューズの東條希さんがいま私の家にいるのですわ

ああ!!!』

千歌 「ええええええ!!!??」

梨子 「どうしたの千歌ちゃん?? 大きな声出して。」

千歌 「ああああああ、きききききききききき」

梨子 「ど、どうしたの千歌ちゃんw」

千歌 「奇跡だよおおおおお!!!」

梨子 「え、どこ行くの千歌ちゃん??」

千歌 「ダイヤさんの家ええええええええ」

梨子 「行っちゃった・・・。」

曜 「どうしたんだらうね、千歌ちゃん。」

梨子 「曜ちゃんいたのね。」

曜 「実はね。」

梨子 「じゃあ私と壁クイしましょうか／＼」

曜 「ブレないね梨子ちゃん。」

・ 黒澤家へ

千歌 「ダイヤさん!!ダイヤさん!!ダイヤちゃーん!!!」

ダイヤ 「うるっさいですわああ!! 聞こえてますわよお!」

千歌 「そんなことよりあのラインどういことですか???

ダイヤ 「ふふふ、どういも何もそのままの意味ですわ」

千歌 「え、ということは本当に今ダイヤさんの家に希さんがいるってこと???

ダイヤ 「その通りですわああ!」

千歌 「え、でも何で??」

ダイヤ 「それが沼津まで買い物に行っていたのですが、そこでなんと、なんとおお

!!

ルビィ 「園田海未さんと東條希さんがいたんだよね♪」

ダイヤ 「ルビィいいい、いいとこでしたのにい・・・」

千歌 「ルビィちゃん!え、でもなんでその二人が沼津に??」

ダイヤ 「どうもランニングをしていて沼津にいたみたいですよ?」

千歌 「ランニング?? なんで沼津で???

ダイヤ 「それはわかりません。恐らく日本海溝よりふか〜い訳があるのでしよ

う!」

千歌 「ふくん？」

ダイヤ 「ですが、見てください！ 園田海未さんから直々にサインをもらったんですのおお!!」

千歌 「あくいいなあ、いいなあ。私も欲しいなあ。」

ダイヤ 「ふふふふ」ドヤッ

千歌 「ん？ でもそれがなんで東條希さんがダイヤさんの家にいることに繋がるの？」

ダイヤ 「それがどういうわけか東條希さんが体調が優れないようでも園田海未さんが困っていたようなので、私が面倒見させてくださいと言ったら、二つ返事で希さんを託されたのですわあ、しかも園田海未さんのサイン付きで!!」

千歌 「なんだかよく分からない状況だね・・・。」

ルビィ 「それで今東條希さんがうちで寝てるところなんだ。」

千歌 「・・・ちよつと見てみたいなあ」チラッチラッ

ダイヤ 「全くしやうがないですわね、ちよつとだけですわよ」

千歌 「さつすがダイヤちゃん!!!」

希 「うわあああああ、帰りは無理いいいいいいいい」

希 「……………ん? どこここ? 見たことない畳の部屋やな……………」

希 「……………」

希 「え、もしかしてうち……………死んだ?」

希 「いや、そんな訳ないな、ないよな? 死にかけはしたけど。」

希 「……………あのランニングはまじで地獄やったな。まじで沼津行くとかあほや

ろ。海未ちゃんと縁切ったほうがええんちゃんか……………」

希 「……………」

希 「もうちよい寝よ。」

千歌 「あああああ、東條希さんだあああああ!!!」

希 「え」ビクッ

千歌 「……………ほく……………ははあく……………おく」

希 「……………めっちゃ見てくるやん。」

千歌 「わくほんとだ、情報通りエセ関西弁だあ〜」

希 「」

ダイヤ 「千歌さん! 失礼ですわよ! 東條希さんはそこがいいんですのよ!!」

希 「……………こいつらなんやねん、キャメルクラツチくらわせたるか」

希 「ていうかアクアやん……(とうとう時系列とか諸々無視してきたか……)」

ダイヤ 「え!?! 私たちのことをご存じなんですか???

希 「……まあ」

ダイヤ 「ああ、まさかミュージズの方に私たちのことを知ってもらえてるなんて……」

希 (なんかこの子綺麗やのに残念な感じがすごいな……)

ルビィ 「と、とととととととと、東條……希さん……起きてるううう」

希 「あくえつと、これどういう状況??」

・海未とのやり取りを説明中

希 「……うち完全に捨てられてるやんけ、園田……絶対復讐したんねん」

ダイヤ 「あの……大丈夫ですか?」

希 「あく、ごめんな、ほんまにありがとう面倒見てくれて。」

ダイヤ 「い、いえいえいえ、むしろこちらからお願いたいぐらいでしたので!」

千歌 「でも東條さん、何で沼津でランニングしてたんですか?」

希 「あく、希でいいよ。なんかこそばゆいし。まあ、ちよつと罰ゲームで音ノ木

坂から沼津までランニングしててん。」

千歌 「……え?音ノ木坂から?」↑ドン引き

ダイヤ 「さすが、伝説のスクールアイドルですわね……」↑ドン引き

希 「あの勘違いせんといてほしいのは、ヤバイのは海未ちゃんだけやからな! うち途中から引きずられてたからな。」

ダイヤ 「しかし、罰ゲームとは……。いったい何をしてたんですか?!

希 「王様ゲームしててん。」

千歌 「沼津までランニングなんて……。恐ろしい王様ゲームですね……。」

希 「うん、ろくな命令ないからな。まじでやめたい。」

ダイヤ 「でもここにいればもういいのではないですか?!

希 「海未ちゃん、いや園田と、こんな罰決めた鳥に復讐せなあかんから戻るわ。」

千歌 (……鳥??)

ダイヤ 「いいですわねええ、私もミュージズの皆さんと遊びたいですわああ」

希 「ん? それやったら一緒に来る???

ダイヤ 「え、い、いいいいいいいんですかああああ???

希 「うん、世話になったし理事長もアクアのファン言ってたから学校にも普通

に入れると思うし。」

千歌 「奇跡だよおおおおお。」

ルビィ 「やったああああ」

ダイヤ 「でも待つてくださいルビィ、今日は家族がみんないませんので留守番が必

要ですわ。」

ルビィ 「……………」

ダイヤ 「……………」

希 「よし、じゃあいくで!!」

ダイヤ 「はあああ、こんなにじゃんけんて勝てて嬉しかったことはありませんわあ」

千歌 「ルビィちゃん、生気が抜けたように絶望してましたねww」

ダイヤ 「こればかりはルビィにもゆずれませんわあ!」

・チヨットマツテクダサ〜イ

希 「ん? なんか聞こえる?」

鞠莉 「私も混ぜてくださ〜い、シャイニイ〜」バババツ↑へりで登場

ダイヤ 「鞠莉さあん!!?? どうしてここに??」

鞠莉 「面白そうだから来ちゃいました〜」

希 「へりて……………、アクアも中々クセあるなww」

千歌 「鞠莉ちゃん! ちょうどいいからへりで音ノ木坂に行こうよ!」

鞠莉 「モチロンデ〜ス」

希 「まじで！　うちも真姫ちゃん頑張つてへりとか用意してくれへんかな・・・。」

ダイヤ 「ああ、これであの憧れのえりーちかに会えるんですねえ。」

希 「・・・あんま期待せんほうがええと思うけど。」

鞠莉 「では出発進行デース、レッツゴ〜」

他 「いえ〜いいい!!!」

つづく

希 「・・・もうアイドル以外の道進んだほうがええんちゃう?」

にこ 「でも希帰りはどうしたの??」

希 「ふふふ、よく聞いてくれた! なんと帰りはヘリやで!ヘリ!」

凜 「希ちゃん・・・。本当にランニング辛かったんだね。」

ことり 「・・・希ちゃん可哀そう。」

希 「待て待て待て待て、うち別にランニングしんどすぎて頭おかしなったわけじゃないわああ!」

穂乃果 「でも海未ちゃんが、希は600円しか持ってませんでしたけどどうやって帰るつもりですかね? って言ってたよ?」

希 「待って、なんでうちの手持ち知ってるの? ていうかそれ知ってて置いてきたんかい!」

海未 「まあ走れば済む話だったので・・・。」

希 「鬼やんけ・・・。ていうかちゃうって、なんとなあ、あのアクアの鞠莉ちゃんへのりに乗ってきたんや!!」

花陽 「ええええええ、希ちゃんもしかしてアクアの人と会ってきたんですか?!?!」

希 「花陽ちゃんwww 戻ったんやねwww」

花陽 「はい、ご飯食べたら体力もテンションも復活したので戻ってきたんですう

!

希 「あつそうwww まあそれでありがたく送ってもらったんやけど、そのついでにアクアの何人かも連れてきたんや!」

他 「え!?!」

希 「それで今、すぐそこにおるんやけど連れてきていい?」

絵里 「待つて、なんでそれを早く言わないのよ!?!」

にこ 「そうよアクアって言ったら実質私たちの後輩みたいなものじゃない!」

希 「だからなんやねんwww もう連れてくるで。」

穂乃果 「ちよ、ちよつと待つて。ええと先輩らしく振舞うには……。」

希 「三人とももういいでえく入つてきてもく」

ダイヤ 「こ、こここここここここここここんには」

千歌 「こ、こんにちは」

鞠莉 「シャイニくお邪魔しまくすう!!」

絵里 「あら、こんにちは。可愛いお客さんね?」 ↑片手に紅茶を持ちながら

にこ 「やくん、本当く♡ 可愛いく、どうもにこです♡」

穂乃果 「ふふふ、いらつしやい。ところで凜さん、そこのいろはすを取つて下さる

?

凜 「もちろんですわ穂乃果さん。はい、いろはですでございます。」

真姫 「……。」↑読書をしている

・先輩らしいところを見せようとするミューズ

希 (……こいつら)

ことり (穂乃果ちゃん、凜ちゃんwwwwww)

花陽 「ふわああああ、アクアの人たちですうううう」

ダイヤ 「あ、あああ、夢にまで見たえりーちかがががががが」

千歌 「こ、これがミューズの人たち……。画面越しじゃないリアルの……。」

鞠莉 (……なんだかこの部屋牛乳臭いですねえ)

ダイヤ 「あ、あああああの、私アクアの黒澤ダイヤといいます。え、えとよろしくお

願い致しますー！」

絵里 「ふふふ、緊張しちゃって。もつとりラックスしていいのよ？」

ダイヤ 「あ、ああ、あのえりーちかが私に声を……。」

千歌 「あ、あの私高海千歌といいます。同じくアクアです！今日はよろしくお願

い致します!!」

穂乃果 「あらあら、元気があつていいですね。こちらこそよろしくお願ひします、で

す♪」

希 「もうそのキャラ諦めろやwww」

千歌 (・・・いよいよ、ミューズの皆さんと遊べる夢の時間が) ワクワク

ダイヤ (ああ、本当に来てよかった・・・)

鞠莉 「いっぱい遊びますで〜す!!」

全員 「王様だーれだ!!!」

つづく

第10話

「穂乃果「王様ゲームだよ!!」第9話の続きです

全員 「「王様だーれだ!!!」」

千歌 「わわわ、いきなり千歌なのだっ!」

希 (・・・いきなりか、さてどうなるか)

穂乃果 「ふふふ、良かったですね〜千歌さん!」

凜 「ほほほほwww」

真姫 (この二人本当に馬鹿ね・・・。)

千歌 (い、いきなりとは・・・、どんな命令すれば・・・そうだっ!!)

千歌 「じゃあ〜、2番が〜♪」

ことり (あ、2番ことりだ。)

千歌 「1番に壁クイされる、でっ!!!」

穂乃果 「あ、1番だあ〜、でも壁クイってなあに?」

ことり 「ガタッ

千歌 「え、こ、ことりさん??」

ことり 「千歌ちゃん……」

千歌 「は、はい!」

ことり 「ほんっ……とうに……ありが……とうう。」

千歌 「え、は、はあ……」

絵里 「え、なんでことり泣いてるの?」

希 「留学止められた時より泣いてるやん。」

海未 「くっ、なぜことりなのですか……」

穂乃果 「どうしたの、ことりちゃん?? どこか痛いのか??」

ことり 「ううん違うよ。ただ……幸せってこういうことをいうんだね……」

千歌 「梨子ちゃん……、よくわからないけどことりさんに喜んでもらえたよ……」

凜 「あらあら穂乃果さん、キヤラが戻ってるざますよおくwww」

ことり 「凜ちゃん、ちよつと黙っててね♪」

凜 「うす」

穂乃果 「それならよかったら、でも結局壁クイってなあに??」

ことり 「穂乃果ちゃん!それはね!!これ、そうこれ!こういうのを壁クイっていう

んだよお!!」↑Youtubeで確認中

真姫 「ことり楽しそうね・・・(私も・・・にこちゃんと・・・)」

海未 「・・・・・・・・・・」ギリギリッ

にこ 「海未? バットは置いて、まじで」

穂乃果 「うわああ／＼／＼これが壁クイかく／＼」

ことり 「うんうん♪ そうだよ穂乃果ちゃん♪」

穂乃果 「まあことりちゃん相手ならいいかな♪ なんてね／＼／」

ことり 「」

絵里 「ことり! 鼻血でてるわよ!」

凜 「めんどくせーにや」

ことり 「はっ! 危ない危ない、昇天することだったよお。」

ダイヤ 「これがうわさに聞くことほの! 尊いですわあ〜!」ガシッ↑何かに捕まれる

ダイヤ 「?」

海未 「ほのうみはどう思いますか?」

ダイヤ 「え、私は断然ことほn、いたたたたあああつ、断然ほのうみですわあああ」

海未 「ふふふ、ですよね?」

ダイヤ 「で、ですわあ〜(し、死ぬかと思いましたわ・・・、水ゴリラ改め果南さん

と握力いい勝負なんじゃないのですの??)」

ことり 「そ、そそそそそれじゃあ! 壁クイしよつかかかか?」ハアハア

穂乃果 「う、うん(ことりちゃん・・・なんか怖い)。」

穂乃果 「それじゃあ・・・いくよ?」

ことり 「うん」ドキドキ

他 「・・・。。。」

穂乃果 「・・・っ!」ドンツ

ことり 「・・・っ」ビクッ

穂乃果 「・・・ことり」ボソツ↑イケボ

ことり 「つつつ／／／／／／／／／／」ゾクゾクッ

穂乃果 「・・・好きだよ」クイツ

ことり 「」

ことり 「」

ことり 「」

ことり 「」

ことり 「ブバツ！↑吹き出す鼻血

穂乃果 「わわっ、ことりちゃんすごい鼻血だよお！」

絵里 「マールイオンみたいね」

希 「ことりちゃんが死んだww」

海未 「なぜ、なぜっ？なぜあそこにいるのが私でないのですか??？」

にこ 「ちよ、バツト振り回さないでよ！死ぬわっ！」

千歌 「・・・壁クイ恐ろしや」

鞠莉 「・・・あの量、普通にヤバくない？」

ダイヤ (鞠莉さんが素に戻るとは、流石ミュージズですわあ)

ことり 「」

海未 「さて、これどうしますか？捨てますか？」

希 「海未ちゃんwww幼馴染になんてことをwww」

にこ 「ちよつと休ませておけば大丈夫じゃない??」

千歌 「え・・・大丈夫なんですか？まあまあ血出てましたけど。」

絵里 「山頂アタック2回行ってまだ王様ゲームしてるぐらいだし体力的には大丈夫

夫でしよう。」

ダイヤ 「えりーちかがそう言うのなら間違いないですわあ」

千歌 (山頂アタックとは……)

穂乃果 「でも、なんでことりちゃん、いきなり鼻血こんなに出たんだろうね?」

希 「……まあこの純粹さが穂乃果ちゃんのいいところなんやろうけど、何や

ろ普通に怖いわ。」

絵里 「同じことを思ったわ……。」

海末 「まったくです、それに振り回される身にもなつて下さい。」

穂乃果 「え」

にこ 「それはそうと、ちよつとお腹空かない?」

花陽 「空きましたっ!」

希 「花陽ちゃん、食べてきたんちゃうんかい!」

絵里 「確かにそうね。せつかくアクアの子たちも来てくれたことだし歓迎会も兼

ねてご飯行く?」

希 「せやね〜ここは先輩として奢るぐらい……」

鞠莉 「OH〜それならちょうど近くに小原家が経営する三ツ星レストランがあり

ま〜す!是非招待させて下さ〜い」

希 「行くか。」

花陽 「当然だね。」

凜 「楽しみにや〜」

にこ 「あんたら．．．．．」

鞠莉 「あつ、でもすみませ〜ん、この人数はいけないみたいです。え〜と6人ま

でしかいけないみたいです。」

千歌 「まあ、それなら他のみんなが入れるとこに．．．」

希 「じゃんけんやな。」

花陽 「絶対負けません。」

凜 「いつくにや〜」

にこ 「ほんとにやめてあんたら。恥ずかしいわ！」

穂乃果 （正直私もレストラン行きたい．．．．。）

真姫 （よく行くけれど．．．．。）

希 「よし、じゃあじゃんけんやるで」

他 「．．．。」

理事長 「・・・。」

希 「待て」

他 「？」

理事長 「？」

希 「いや、？じゃないわ！なんで理事長おんねん!？」

鞠莉 「え？ マーリイですかあ??」

希 「ちやう！おぼはんの方や！」

理事長 「？」

希 「あんたやあんた！」

理事長 「え、だつてことが気絶したときは私が代役で登場するんじゃないの？」

希 「んなルールないわ!!どっか行け！」

絵里 「希、じゃんけんする人減らそうと必死ねww」

穂乃果 「あんな3年にはなりたくないね・・・」

理事長 「えゝわたしもレストラン行きたいわゝ」ヤンヤン

希 「帰れ」

理事長 「ちえゝ、のんたんのけちゝ」

希 「しっし」

真姫

「何今のいらないやりとりww」

にこ

「時間の無駄とはこのことねwwww」

希

「よし、じゃあいくでう、じゃんけん・・・」

希

「orz」

花陽

「orz」

凜

「orz」

にこ

「wwwwwwwwぎ、ざまあないわねwwww」

穂乃果

「3人ともとはwwww」

千歌

（私この3人とか・・・）

ダイヤ

（私この3人とですか・・・まあえりーちかがいますからよしとしますか）

絵里

「あ、あはは（私もレストラン行きたかつた・・・）」

他

「キヤツキヤツ」

希

「くそつこうなつたら、こつちはこつちで思いつきりたのしむでえく!!」

凜

「そうにや!! もうそれしかないにや!」

花陽

「うう、そうだねえ」

絵里 「そうね！思い切り楽しむわよ！」

ダイヤ 「はいっ楽しみましよう!!!」

千歌 (大丈夫かなあ・・・)

つづく

第11話 千歌「ごはん休憩!1」

穂乃果「王様ゲームだよ!!」第10話の続きです

凜 「で、どこ行くにゃ!!」

希 「やっぱ焼肉やろ!!」

絵里 「でも希600円しかないんでしょ?」

希 「……」。

千歌 (……そういえばいくら持ってたっけ?) ゴソゴソ

ダイヤ (……600円でどこを奢ってくれるつもりだったんでしょかw。)

凜 「さすがに高校生にもなって600円はないにゃwww」

希 「じゃあ凜ちゃんはいくらもってるん?」

凜 「凜? んゝ……」 ゴソゴソ

凜 「えーと、2、3、……500円……」。

希 「wwwwww」

花陽 「……ふっwww」

凧 「の、希ちゃんは3年生にや!!凧はまだ1年生にや!!」

千歌 (・・・ん?)ゴソゴソゴソゴソ

凧 「かよちゃん!かよちゃんはっ? いくらもってるの!?!」

花陽 「えっ!?! えくと、・・・2千円ぐらい・・・かな?」

絵里 「ちなみに私も3千円ぐらいあるわよ?」

希&凧 「・・・。」

ダイヤ 「さすがえりくちかですわあ〜」

希 「・・・ちなみな?ちなみにやで?アクアのお二人はいくら持ってるん??」

ダイヤ 「え?(本当は1万円ぐらいありますが・・・)わ、私は2000円ぐらいで

すわあ」

希 「・・・そっか。」

凧 「・・・お金持ちだね。」

絵里 (・・・惨めねwww)

ダイヤ (ルビイでも1000円ぐらいは持ってそうですけど・・・。)

希 「・・・千歌ちゃんは?」

千歌 「・・・。」

凧 「・・・千歌ちゃん??」

千歌 「……103円……です。」

絵里 「……ぐw」

花陽 「……くw」

ダイヤ 「……千歌さんw」

希 「103円www 仲よくしよな、千歌ちゃんwwww」

凜 「せめてもの抵抗で1の位まで言うところが気に入ったにやwwwwww」

千歌 「」

絵里 「希、凜ww あなたたちねwww」

花陽 「でもどこに行きますか?? 希ちゃんと凜ちゃんが500円ぐらいだとい

ぶ行き先が限定されちゃいますけど……」

希 「花陽ちゃん、うちは600円やから。これ大事。」

凜 「諦めるにや、ほぼ一緒にやw。」

絵里 「うくん、あ! たこ焼きパーティーなんてどうかしら?? お金もかからないし

!

希 「おお、ええやん!! タコパ!!」

凜 「テンション上がってきたにや〜!!」

花陽 「いいです! 最高ですっ!!」

ダイヤ 「さすがえりくちか！ ナイスアイディアですわ!!」

千歌 「うんうん♪楽しそう!!」

希 「よっしゃー!!あてつけかのようにリムジンで走り去っていったあつちグ
ループより絶対盛り上がるでえ!!」

他 「おーー!!!!」

ことり 「・・・ちよつと待って」

希 「うわっ！ びっくりした。もう起きたん??」

凜 「復活早いやwww」

ダイヤ 「・・・本当に大丈夫でしたのね」

千歌 「ことりさん、顔中血の跡まみれ・・・。」

ことり 「うん、なんで寝てたかよく覚えてないけど、面白そうな話が聞こえたから起
きちやった♪」

希 「うん、とりあえず顔洗ってこようか？ 軽くホラーやから。」

くすーぱーく

絵里 「じゃあ、私と花陽がたこ焼きの粉、ソース、ジュースとか買うから、ほかの

人たちで具を買ってきてもらえるかしら?」

ダイヤ 「了解ですわあ〜!!」

凜 「ちなみにことりちゃん、今いくらくらいもってるにや?」

ことり 「え? あはは、恥ずかしい話、昨日新しい裁縫道具買ったから2000円ぐらいしかないんだあ……。」

凜 「……そっか。」

千歌 「……。」

希 「まあ、ことりちゃんバイトしてるし……。」

凜 「希ちゃんも巫女さんしてたけどね。」

希 「そんなことよりっ! どうせやからみんながどんな具材買ったか分からんようにせえへん?? 闇鍋的な感じにしよ〜や!」

千歌 「あ、それ面白そうっ!」

ダイヤ 「いや、どう考えても嫌な予感しかしませんが……。」

凜 「これは行くしかないにや!」

絵里 「……普通に不安なただけど。」

花陽 「……同じく」

希 「大丈夫大丈夫、カードもウチにそう告げてるんや!」

凜 「・・・ちよつと心配になつてきたにや」

希 「ええから早くいくでつ！時間は有限や！」

凜 「じゃあ各自具材買うつてことでもいいのにや？ 500円でなにが買えるか・・・。」

千歌 （え、103円で何の具材を買えば・・・）

ダイヤ （当然私はえりーちかの好きな食べ物をかいますわよお）

ことり 「なにを買おうかな〜♪」

絵里 「・・・大丈夫かしら」

花陽 「・・・。」

く学校の家庭科室く

絵里 「じゃあ、早速始めましょうか！」

希 「よつしや、じゃあみんなそれぞれ買った具材で周りに見えんように作つて

いこー！」

凜 「任せるにや〜！」

千歌 （・・・値段でこれに決めただけど大丈夫かなあ）

ダイヤ 「さあ、作りますよ〜」

ことり 「よし、つくるよ〜♪」

花陽 （食べれるものが出てきますように・・・）

〜15分後〜

絵里 「一応できたわね・・・。」

希 「見た目は普通やな・・・。」

ダイヤ 「この時点では喜子さんよりは上ですね・・・。」

千歌 「おく普通においしそう!」

ことり 「おなか減ってきちゃった♪」

凜 「早速食べようにな〜」

希 「じゃあじゃんけんで食べる順番決めよつか。」

絵里 「・・・なぜ順番なんて決める必要があるのかしら?」

希 「いやいや、ロシアンルーレットなんやから当たり前やん?」

絵里 「・・・やつぱり変なもの入れたのね!」

凜 「そりやそうにや〜、ここまで来て普通のタコパとか面白く無いにや〜」

千歌 「・・・え、そうだったの?」

ことり 「もう、食べ物で遊んじゃダメなんだよ？」
 希 「じゃあ、じゃんけん！じゃんけん！じゃんけん……」

千歌 「……また千歌か」 ↑1番

希 「がんばれ千歌ちゃん！」 ↑2番

ダイヤ 「ちよつと怖くなつてきましたわ……。」 ↑3番

凜 「いい数字にや、これはもらったにや！」 ↑4番

ことり 「千歌ちゃん♪ 頑張つてね♪」 ↑5番

花陽 「……普通に白米が食べたい。」 ↑6番

絵里 「最後なんて……」 ↑7番

千歌 「じゃ、じゃあいきますっ！」 パクッ

他 「……。」

千歌 「……うん……これは、ふつつつ!? つあ
 !!!!???

他 「!?」

千歌 「が、があああああああああああああああああああああ
 ああああああいいいいいいいいいい!!??」 ゴロ

ゴロゴロ

希 「ふww、でも何食べたんやろな？w」

千歌 「うう、からかったとしか・・・。」

凜 「たぶん凜のからしチューブ1本分焼きにやw」

希 「ふwwどうやって1本分入ってんwww」

ダイヤ 「それはwwwエグイですわねwww」

ことり 「千歌ちゃんwww可哀そうwww」

花陽 「ことりちゃんがとどめさしてたけどねw」

千歌 「あの・・・絵里さんすみませんでした。」

絵里 「・・・いいのよ？気にしてないわ。」ポタポタ

千歌 「そ、そうですか・・・(ことりさんのこと思い切りにらんでる・・・w)」

希 (ふwwえりち完全に怒ってるwwww)

ことり 「やんやん♪ こわくい♪」

ダイヤ 「ミューズって仲いいんですわよね・・・？」

ことり 「うん♪ もちろん♪ ね？」

絵里 「ええ、もちろん」ニツコリ

凜 「絵里ちゃんこえーにやww」

千歌 「・・・うう、まだ辛い」

希
つづく

「ふww、じゃあ次行くよ!ここからもっと盛りあげていくでえ!!」

第12話 千歌「ごはん休憩！2」

穂乃果「王様ゲームだよ!!」 千歌「ごはん休憩！1」の続きです。

希 「よっしゃ、次うちの番や！いくでっ！」

他 「……。」

希 「……お！うまいっ！これは、チーズか！」

凜 「ありや、意外だにや。希ちゃんは絶対外れひくと思ってたのにw」

希 「いやいや、うち実は運いいほうやからな？」

ことり 「全然説得力ないよw」

絵里 「ほっ、ちゃんと当たりも入ってたのね。」

希 「ふうう、普通にうまかったわ。ことりちゃん、飲み物頂戴？」

ことり 「はい、センブリ茶♪」

希 「それ以外」

ことり 「え、でも他に飲み物ないよ？」

希 「なんでやねん!!??」

絵里 「え、花陽? ジュースは花陽担当だったわよね??」

花陽 「……てへっ」

希 「ちよーろーろーっ!!??」

ことり 「花陽ちゃんwww」

千歌 「じ、地獄だwww」

ダイヤ 「まじですか……」

希 「まじか……、センブリ茶か……ちよつと飲んでみるか。」

希 「……うえ、まず。」

ダイヤ 「外れ引いたときやばいですわね……」

ことり 「さっきの千歌ちゃんみたいになるねwww」

凜 「ちなみにチーズ買ったの誰なの?」

ことり 「あ、ことりだよ。さっきたまたまお母さんに会って、タコ焼きするって言ったらくれたんだ。」

希 「理事長初めていい仕事したやん。ちよつと酸味がきいてうまかったって言つといて。」

ことり 「酸味? 普通のチーズだったと思うけど?」

希&凜 「……ほう」ニヤリ

ダイヤ 「では、いただきます。」

ダイヤ 「……っ?!?!? あっ、ちよ、ひよれは!!」

ことり 「外れだつたんだねwwww」

ダイヤ 「ちよ、は、ひゃ、はや、く水っ!!この際センブリ茶でもいいから!!」

希 「頑張れダイヤちゃん!!! たこ焼きになんか負けるな!! ダイヤちゃん

!!

凜 「ダイヤちゃん! そうにや負けるなにや! ダイヤちゃんならいけるにや

! そうダイヤちゃんなら!!」

ダイヤ 「え? ダイヤちゃん……? く、確かにダイヤちゃんがこの程度で……っ!」

希 「そうや、いけるでダイヤちゃん!! なんならもう一個いこ、ほら! ダイヤ

ちゃん!!」

ダイヤ 「え、ちよ、むぐっ……っ?!?!? あ、あ、これh、ちよt、はhh、m、むりい

!!

凜 「ダイヤちゃん!! ダイヤちゃんは、そんなたこ焼きに負けるのにや?? い

や、ダイヤちゃんなら絶対負けないにや!! だからさらにもう1個いくにや!」

ダイヤ 「ううううう、h、こ、こn、この程度……ふ、つく……。」

希 「お、千歌ちゃんか、103円で何買ったん? ww」

千歌 「いえ、103円だけだと足りないと思ったので、それとは別で校庭でぴよんぴよん飛んでたバツタを捕まえて入れてみました!」

凜 「ダラーラー」

希 「嘘やんwwwwwwww」

花陽 「凜ちゃんwwww汚いよwwww」

絵里 「……ふww」

ことり 「……。」↑ドン引き

千歌 「えっ、バツタおいしくないですか?? たまに果南ちゃんと一緒に捕まえて食べますけどおいしいでしょ?」

希 「いやいや、グツジヨブやったでwwww」

絵里 「そうね、凜は調子にのってたから丁度いいわwwww」

ことり 「……。」↑ドン引き

千歌 「え、どういうこと……? ことりさん! 距離取らないでください!」

凜 「酷い目にあつたにや。まあ、おいしかったけど……。」

千歌 「うくん、別に普通だと思っただけどなく」

ことり 「次はことりだね・・・。」

ことり 「えいつ!・・・う、ん?」

凜 「どうしたの? ことりちゃん?」

ことり 「・・・ゴクンツ。中にぎゅうぎゅうにご飯が詰まっていた・・・w。」

希 「ふwwwもう誰が入れたか、丸わかりやなww」

花陽 「うう、取られちゃいました・・・。」

ことり 「・・・ごめんね花陽ちゃんw」

希 「でも花陽ちゃん、ジュース担当やったやん?なんでご飯なんて持ってたん

?

花陽 「さつき理事長にたこ焼きやるならあげるって言われて渡されました。」

ことり 「え」

絵里 「また理事長wwwよく出てくるわねwww」

凜 「なんでたこ焼きにご飯www」

希 「こわwww腐ってるのちゃうん?」

花陽 「いえ、それはありません!!ちゃんと新鮮なご飯でした!!」

希 「そうwwwww」

千歌 「……理事長ってどこの学校も変わってる人が多いのかな?」

ダイヤ 「……さあ。うちも相当変わってると思ってたが。」↑復活した

ことり 「うう、心なしかお腹が痛くなってきたような気が……。」

希 「正体が分からへんのが一番怖いなwww」

凜 「ちやんとしたものが一つもないにやwww」

花陽 「次は私です……えいっ!」

花陽 「う……ん? 甘い……。これ、チョコ??」

ダイヤ 「ああ、えりーちかに食べてほしかったのに……。」

絵里 「え」

希 「さすがにたこ焼きにチョコはwww」

花陽 「……いや、意外とおいしい、です。」

希 「嘘んっ!!??」

凜 「えくほんとかにや〜」

ことり 「今回唯一の当たりかもねww」

ダイヤ 「はあ、えりーちかに食べてほしかったですけど、まあしょうがないですわ

ね……。」

絵里 (普通にくれればいいのに……。)

絵里 「ちよ、はっ、はやあああ、みす、ああ、はや、く!」

希 「あくあれなく、．．．ほんまに覚えてないの?」

ことり 「? なにかあったの?」

凜 「え、まじかにやww」

絵里 「ちよ、ちよ．．．はや．．．ううう」ポロポロ

千歌 「．．．どうすればw」

希 「まあ、無理して思い出すひ「のじよみいひいひいひい!!」

希 「うわっww ごめんごめんww はいセンブリ茶ww」

凜 「ちよっといじめすぎたにやww」

ことり 「のじよみいひいwwww」

絵里 「．．．．．ゴクゴクゴク」

ダイヤ 「．．．センブリ茶を一気飲みしてますわね、流石えりーちか。」

絵里 「．．．．．うう、もう帰りたい。」

凜 「PKEになつたにやww」

希 「わりと最初からポンコツやったけどww」

花陽 「でも何を食べたんですか?」

絵里 「．．．梅干し。」↑梅干しとのりが苦手

↑犯人

希 「ふｗｗｗｗ 完全にえりちを殺しにかかっているやんｗｗ」

千歌 （え、そうなの?? たまたまタイムセールしてたから買ったんだけど・・・。）

ダイヤ 「誰ですか!!梅干しとのりはだめと決まっているでしょう!!」

凜 「でも普通たこ焼きにチョコレート入れないけどにやｗｗ」

ダイヤ （・・・ただ、まあ）

絵里 「うう、そうよねえ」スリスリ↑ダイヤに抱き着き泣きじやくる絵里

ダイヤ 「・・・これはこれで悪くないですわね」ニヘラ

千歌 「・・・幸せそうだな」

凜 「生徒会長こんなのしかないのかにや。」

希 「まあ、結果オーライということ。」

花陽 「ん? あ、穂乃果ちゃんたち帰ってきたみたいだよ?」

希 「あ、ほんまや。くそつりムジんで調子乗りやがってえ」

ことり 「は、全然お腹満腹じゃないけど、これを食べるのも・・・。」

希 「まあ残りは適当に穂乃果ちゃん、にこつちあたりに食わせとこ。」

凜 「ふｗｗｗｗ、穂乃果ちゃんたちの扱いｗｗ」

花陽 （凜ちゃんもそつち側の人間だけどね・・・）

千歌
続く

「今からまた王様ゲームなのか……。」

第13話 穂乃果 「王様ゲーム再開！」

第12話 千歌「ごはん休憩ー2」の続きです。

ダダダダダダダ

穂乃果 「たっだいまあ!!!」バンッ

希 「今やつ、凜ちゃん!!」

凜 「御意！」ガシッ↑穂乃果を羽交い締め

穂乃果 「え、ちよ、なにこれっ!!第1話でもこんな流れあったけど!!」

希 「くらえええええええ!!!」ズポッ↑無理やりたこ焼きを穂乃果の口にねじ込

む

穂乃果 「うつ?! . . . つ んーっ!! んーっ?!」ジタバタ

希 「あかんっ! 飲み込むんやつ! 穂乃果ちゃん!!」

凜 「す、すごい暴れてるww釣った直後の魚みたいww」

ことり 「穂乃果ちゃん、せっかくおいしいもの食べてきたのにww」

花陽 「普通にいじめの現場だよねこれ . . . w」

にこ 「まくたあんたたち馬鹿してるの??」

希 「・・・凜ちゃん。」

凜 「御意」ガシツ↑にこを羽交い締め

にこ 「ちよお!?何するのよ!!」

希 「ふっふっふっ・・・」

にこ 「ちよ!!希!!何それ!!たこ焼き??絶対嫌な予感がするわ!!こ、こないでええ

え!!!」

にこ 「・・・三ツ星レストランでの味が全部吹っ飛んだわ。」

穂乃果 「・・・ね。」

希 「いや、ロシアなたこ焼きからのセンブリ茶の流れ最強やな!」

凜 「これをリリホワの必殺技にするにや。」

希 「今度これ理事長にくらわせよな。」

凜 「御意」

海未 「まったく、相変わらず騒がしいですねあなた達は・・・」

鞠莉 「たっただいま〜でえ〜す!」

真姫 「・・・で、絵里はどうしたの?」

絵里 「ん、もう、えりちかお家帰るう」グズグズ

ダイヤ 「よちよちいくそうでちゆねくもうちよつとちたらかえりまちよくね」ニ

ヤニヤ

凜 「普通にきもいにや」

花陽 「まあ、いろいろあつてww」

ことり 「亜里沙ちゃんが見たらどう思うんだろ?w」

穂乃果 「そういえばその亜里沙ちゃんは?全然見えないけど」

にこ 「隙を見て逃げてたわよ? あまりに必死だったから止めなかったけどw」

穂乃果 「亜里沙ちゃんでも必死になるんだねww」

希 「ふw来年亜里沙ちゃん音ノ木坂来るんかなww」

真姫 「私達にとつては笑い事じゃないのに・・・w」

穂乃果 「じゃあ、また集合したし王様ゲーム再開しよつか!」

??? 「ちよつと待った!」

他 「?」

果南 「私も入れてもらおうかなん?」ポタポタ

ダイヤ 「果南さんっ!! えっ、ていうか早くないですか?? 連絡してからまだ1時間程度ですよ?」

ことり 「なんで濡れてるのwwwwww」

果南 「いやあ、たまたま東京の方にランニングしてたからさ、それで早く来れたってわけ!」

希 「え、うちがおかしいん?? 静岡までは走るのが普通なん???」

海未 「だからそう言ってるではないですか。」

希 「まじか・・・。」

穂乃果 「いや、そんなわけないよ。」

千歌 「果南ちゃん!」

果南 「あつ、千歌! たく、こんな楽しそうなこと私をのけ者にするなんてひどいじゃん?」

千歌 「いや、どっちかというと今すぐ帰りたんだけど・・・。」

凜 「ちなみに果南ちゃんは何で濡れてるにや? www」

果南 「ん? あゝ私濡れてないと死ぬんで!」

にこ 「どんな生き物よwwwwww」

果南 「ていうのは冗談で、さつき校門らへんで水撒きしてる人にかかけられました。

あつ、ちょうどあなたみたいな髪型の人に。」

ことり 「え、私?・・・お母さん?・・・www」

希 「また理事長www」

凜 「行動が謎にやwww」

にこ 「暇なのかしらwww」

果南 「それでしようがなくここまで濡れてきました。」

穂乃果 「せめてどこかで拭く努力をしようよwwはいタオルww」

果南 「あ、ありがとうございます。」

穂乃果 「あ、そのタオル、ことりちゃんが吹きだした牛乳拭いたやつだ・・・」

果南 「・・・ん? なんかこr」

穂乃果 「よしっつ!!!じゃあ早速続きするよおつ!!」

真姫 「なによいきなり大声出すとびっくりするじゃない!」

海未 「・・・穂乃果が渡したタオル、ことりの吹きだしたタオルを拭いたやつです

ねwww

果南 「ん、ま、いつか。」

穂乃果 「よしっつ!!せゝのっつ!!!」

全員 「「王様だーれだ!!!」」

鞠莉 「YEAH〜!!マ〜リイでえす!!!

千歌 「おっ、続いてアクアだね!!」

ダイヤ 「・・・なんか不安ですね。」

果南 「いいなあ〜」

穂乃果 「どんな命令かな・・・。」

鞠莉 「じゃあ〜、2番が5番にパンチでええ〜!!」

希 「なんつー命令やw w w w w」

ことり 「ばんちw w w w w」

ダイヤ 「ふw w w w鞠莉さんあなたねえw w w」

凜 「アクアも負けてないにや〜w w w w w」

穂乃果 「それでw w w 2と5は?? w w w」

真姫 「私2番よ・・・。」

果南 「ありやりや、5番だ。」

にこ 「真姫ちゃんがんばらんちw w w w w滅茶苦茶弱そうw w w」

花陽 「確かにw w w w」

千歌 「真姫さん大丈夫かな・・・。」

ダイヤ 「まあ、逆じゃなかったただけかもしれません。」

千歌 「ミスターサタンvs魔人ブウって感じだったねwww」

海未 「ふむ、相当腹筋を鍛えてそうですね?」

果南 「え? まあ、暇な時ずっとアブローラとかしてるんで!」

海未 「ほう・・・それは素晴らしい・・・」

穂乃果 「どんな暇つぶしなのww」

にこ 「海未もそんなんで感心してんじゃないわよww」

真姫 「・・・うう、ピアノ弾けるかしら。」

ことり 「大丈夫だよ親病院の先生なんですよ?」

真姫 「だから何なのよ・・・」

ダイヤ 「果南さん、頼むから腹筋割らないでくださいよ?? アイドルなんですか

ら。」

果南 「・・・え?」

ダイヤ 「・・・は?」

穂乃果 「ふwwwじゃあ次行くよ!!」

希 「いや、どこにでも海未ちゃんみたいなんおるもんやなく」

海未 「どういことですか・・・」

穂乃果 「はいはい次行くよwwwせくのっ!!」

全員
つづく

「王様だーれだ!!!」

第14話

第13話の続きです。

全員 「王様だーれだ!!!」

??? 「くつくつく・・・」

穂乃果 「あつ、また私だ！」

??? 「・・・時はきた」

にこ 「ん、さすがにこの人数だと王様になるのも難しいわね。」

希 「まあな」

善子 「墮天使ヨハネ！ここに降臨!!!」

海未 「それで穂乃果、命令はどうするのですか??」

穂乃果 「う、ん、正直もうネタ切れなんだよね」

善子 「・・・」

真姫 「まあ、始まってからもうずいぶん経つものね。」

凜 「ていうか今時にや??」

善子 「……あの」

ことり 「穂乃果ちゃんっ！王様が3番とキスとかの命令がいいと思うよ!!!本当に!!」

海未 「穂乃果、3番が理事長とデイトプキスにしましょう。」

ことり 「謝るからそれだけはやめて。」

善子 「……すみませ〜ん」

穂乃果 「う〜ん……迷うな〜」

絵里 「なんでもいいじゃない」

にこ 「そうよ、時間をもつたいないし早くしてよね。」

善子 「あの……、アクアの津島善子ですけど、その果南に呼ばれたので来m」

希 「善子ちゃんっていうんやね!!よろしくっ!うちは、東條希やで!よろしく

!!

善子 「え、ちよt」

ことり 「うんうん♪ 善子ちゃん、可愛い名前だね♪ 南ことりです♪ よろしく

ね♪」

善子 「あn」

穂乃果 「善子……うん、いい名前だね!!!高坂穂乃果です!!よろしくね!!!」

善子 「」

「善子ね・・・ふん、まあまあ可愛いんじゃない？まあここには負けるけどね

」

善子 「」

凜 「善子善子善子善子善子善子善子善子善子善子」

花陽 「ふwww凜ちゃん」

アクア 「wwwwwwwww」

千歌 「あはははwwwwww善子ちゃんwww途中から表情がなくなってるよwww

」

果南 「いいキャラしてるね、善子はwww」

ダイヤ 「くwww」

鞠莉 「wwwwww」

海未 「あなた達その辺にしときなさいwww」

絵里 「そうよwwwかわいそうよwww」

ことり 「でもお、無視されてる時の善子ちゃん、おろおろして不安そうな感じが

とつても可愛くて♡♡♡いついからかいたくなっちゃいました♡」

善子 「／／／カアッ

花丸 「…………入りづらいぞら」 ↑部屋の外から様子見中

ルビィ 「…………うゆ」 ↑同じく部屋の外から様子見中

希 「確かになく、「え、やっぱ、調子乗りすぎたかしら、みんな怒ってるんじゃないかしら、的なな〜」

凜 「たしかににや〜、可愛さで言えば、標準語でお母さんに大好き♡って言うて

る希ちゃんぐらい可愛かったにや〜」

希 「おいやめろ」

千歌 （そうなんだ…………今の希さんからは想像できない…………www）

絵里 「はいはいそこまでよ！希の可愛さについては今度ゆっくり話すとして今は

新しく来た子たちを歓迎しましょ？」

希 「おい」

ことり 「そういえば、絵里ちゃんいつの間にか復活してるねwww」

ダイヤ （本当に…………もうちよつとあのままでよかったですのに。）

花丸 「え〜と、おじやましま〜すぞら、あ、おじやましますぞら！ぞら！つあ、またおらやつちやたぞら…………あつまた…………」

千歌 「花丸ちゃんwww落ち着いて？」

凜 「そうぞらwww落ち着くぞらよwwwおらがついてるぞらよwwwぞら

ずらwww

花丸 「……………うう」グスツ

凧 「あ」

希 「は〜い、凧ちゃん泣かした〜」

にこ 「……………あ〜あ」

海未 「これはお仕置きが必要ですね。」

ことり 「凧ちゃんの鬼！悪魔！」

凧 「あ、あのごめんね？本当にただのノリというかその……………」

花丸 「……………べ、別にいいんです、おらが悪いんです。」ポロポロ

凧 「あの……………本当にごめんなさい。」

絵里 (こういう時にこそ私がフオローしないとね！)

絵里 「大丈夫？え、と……………(名前が分からないチカツ!?)」

ダイヤ 「あ、その子は国木田花丸さんですわあ〜」

絵里 「そ、そう、ありがとう。大丈夫花丸ちゃん？」

花丸 「……………はい。」

希 (……………やっぱ、どつか抜けてるなえりちはwww)

海未 「……………凧？」

凜 「・・・はい」

海未 「あなたは・・・最低ですっ!!!????」 バッチツイッスン↑例のビンタ

凜 「ぶっくつ、ふ、その通りでございます・・・。(首吹っ飛ぶかと思ったにや・・・)」

穂乃果 「・・・くw (笑ったらだめだとわかってるけど・・・)」

希 「・・・w」

果南 「そういえば、千歌も花丸のことちよつと馬鹿にしないでたくない?」

千歌 「え」

海未 「クルッ

千歌 「い、いやいや私は違うよっ!!馬鹿になんてしてないよっ!!」

果南 「じゃあビンタされるの・・・やめる?」

千歌 「やめるよっ!!!迷う余地なしだよ!!」

ダイヤ 「・・・ふww」

海未 「スタスタ↑千歌に近づくと海未

穂乃果 「千歌ちゃん頑張ってる・・・w」

千歌 「う、うおおおおお!!」 ↑反撃に出ようと飛び掛かる千歌

海未 「・・・っ!」

希 「千歌ちゃん諦め悪すぎwww」

ダイヤ 「千歌さんwwwそれは無謀というのですわあwww」

海未 「せいいつ!!」ドンツ↑千歌を一本背負い

千歌 「ぐっはっ!、い、痛い・・・。」

ことり 「あつさりwww」

希 「そりやそうやwww」

海未 「ほら、立ち上がって!」

千歌 「うう、背中ヒリヒリするう・・・。」

海未 「では・・・あなたは、さいて「させるかああああ!!」↑海未に抱き着く千

歌

千歌 「絶対つ!!! 諦めないっ!!!」ギュー↑ひたすら抱き着く千歌

他 「wwwwwwwww」

希 「いやwww諦めろやwww」

果南 「そこで主人公感出さなくていいよwww」

ここ 「なにこの絵www」

海未 「・・・・・・結構胸ありますね」

海未 「・・・・・・」ギリギリ

千歌 「あがががががががが」

ダイヤ 「さ、サバ折りw w w」

ことり 「何してもダメなんだねw w w」

希 「早く諦めたらいいのにw w w w」

千歌 「がはっ・・・うう、どうしようもない。」

穂乃果 「じゃあ千歌ちゃん、抵抗するのやめる？」

千歌 「・・・っ！やめな 海未「あなたは、最低です!!!」ばっちいいん!!!

千歌 「いいっ!?!・・おと、く、ふ、うう、し、した、かんひや・・・」

果南 「変に抵抗するからだよ千歌w w w w w」

希 「思い切り舌噛んでたねw w w

千歌 「うう、私そんなに花丸ちゃんを傷つけたのかな・・・。(首折れたかと思っ

たよ・・・。)」

希 「そーいやそんな話やったけw w w」

凛 「・・・。↑普通に落ち込んでる

鞠莉 「ふふw w w もういいですよお〜w w w花丸う〜!!」

花丸 「もういいはずら? w w やっぱり演技は疲れるはずらw w w」

凛&千歌 「・・・。は?」

花丸 「いや、でも結構楽しかったぞww」

凜 「……ん？ん？どういうこと？ねえ？」

千歌 「……。。。」↑察した

花丸 「あ、ミューズの星空凜さんぞらあ、まるの憧れの人に会えるなんて・未
来ぞらあ」

凜 「いや、そういうの今はいいから？それで？どういうこと？」

鞠莉 「私たちからのサプライズでえゝす!!!」

花丸 「ぞら」

凜 「……もう誰も信じないにや。」

ルビィ 「ピギイイイ!!!すごい!!ミューズの皆さんがいるうう!!!」

ことり 「びぎいwww」

ダイヤ 「そうですわルビィ！なぜあなたがここにいますか??留守番はどうした
のです!!」

ルビィ 「ん？理亜ちゃんにあゝそぼ♪って言ったら家に来てくれたからそのまま留
守番頼んできたよ？」

果南 「ド畜生すぎるwww」

穂乃果 「アクアの1年生やばいねww」

希 「それはそうと穂乃果ちゃん、命令は？」

穂乃果 「え？ んくじやあ3番が3階からジャンプで。」

ことり 「穂乃果ちゃん穂乃果ちゃん、そういう意味の分からない命令はやめない？
ことり死んじやう。」

にこ 「いやく3階だったらギリいけるんじゃない？」

希 「ていうか、ことりちゃんやったら飛んでいけるやろ、鳥やし。」

ことり 「ちよつと外野は黙ってて。」

穂乃果 「でもそれだと理事長とデープキスになつちやうけど……。」

ことり 「飛びます」

善子 (……私の存在感)

ことり 「ううたかい……」

希 「大丈夫大丈夫念のため下には大量の段ボール敷いたし。」

ことり 「本当に大丈夫なの?？」

希 「大丈夫大丈夫……まあ知らんけど」

ことり 「ああくん、もうやだああ」

理事長 「しようがないわねえ〜ことり！」

にこ 「理事長 w w w いつからいたのよ w w w」

理事長 「ことりとデープキスしたらいいのよね？」

穂乃果 「え、ええ、まあ・・・(え、本当にやるの?)」

理事長 「しようがないわねことり、まさか娘とキスするとは思わなかったけど……

来なさいことり・・・」 ↑妖艶な感じで

ことり 「・・・」ピョンツ↑無言でジャンプ

希 「ことりちゃん w w w 無表情で飛んで行った w w w w」

真姫 「そりゃ、あの感じで母親に迫られたらね w w w w」

凜 「きつついにやく w w w」

花陽 「ことりちゃん w w w 段ボールの山に突き刺さっていったね w w w」

海未 「w w w w w w w」

ことり 「・・・ただいま。」

穂乃果 「ことりちゃん w w w 大丈夫だった?」

ことり 「うん・・・意外と段ボール優秀だね」

理事長 「あらあら、私の手を借りなくても一人で何とかするなんて・・・成長したわ

ね、ことり」

ことり 「帰って」

理事長 「あらあら、じゃあ残念だけど帰るわ」

希 「何のキャラやねんあのおばさん」

善子 （・・・楽しいゲームしてるって聞いてきたのに、いきなり3階からジャンプとか・・・）

果南 「なんか3階からジャンプって普通に楽しそうだね。」

ダイヤ 「もう果南さんだけミューズに入ったらどうですか？」

穂乃果 「よし、じゃあ続き行くよー!!」

全員 「「王様だーれだ!!!」」

つづく

第15話 千歌 「アクア全員集合！」

第15話の続きです

曜 「梨子ちゃん・・・、もうやめようよ」ゲツソリ

梨子 「あと一回！あと一回だけ!!」ハアハア／＼

曜 「そのセリフ30回ぐらい聞いたよ・・・」

梨子 「お願いお願いお願い」

曜 「大体壁ドンだか何だか知らないけど何時間もして楽しいの?」

梨子 「壁クイよ、間違えないで。」

曜 「はいはい、でも流星の私も疲れたよ・・・、千歌ちゃんよくこんなの3時間

もやってたよ・・・。」

梨子 「曜ちゃんなら大丈夫よ！ほら、早くしましょう！」

曜 「いやいやもうやらないよ・・・、そういえば千歌ちゃんダイヤさんの家に何

しに行ったんだらうね?」

梨子 「さあ? 千歌ちゃんすごく興奮してたけど・・・。」

曜 「奇跡だよおwwwってねwww」

梨子 「ふwwwやめてよwww」

曜 「大した事なさそうだけど、私たちもダイヤさんの家に行こうよ。」

梨子 「壁クイは？」

曜 「やらないって言うてるじゃん、早速出発進行ヨソロソ!!」

梨子 「あくもう、ちよつと待ってよ。」

く 黒澤家く

曜 「ダイヤさくん!!・・・ダイヤちゃん!!!」

曜 「・・・いないのかな？」

梨子 「まあちよつと時間たってるしね」

理亜 「・・・はい」ガラッ

曜 「理亜ちゃんwwwなんでダイヤさんの家にwww」

梨子 「ほんとにwww」

理亜 「ルビイが遊びたいって言うから来たら・・・急に留守番頼まれたのよ」グスッ

曜 「どういうことwww」

梨子 「遊びたいって言われてわざわざ北海道から来たの？w」

理亜 「だって私友達に誘われたことなんて今までなくて・・・すごくうれしかったのよ」

曜&梨子 「……………」。

曜 (気まずい…………)

梨子 (…………これが本当のクラッシュマインド)

曜 「ま、まあルビイちゃんにも何か事情があつたんだよ！きつと！」

梨子 「そ、そうね！ルビイちゃんはいいい子だもの！・・・多分」

理亜 「うう…………そうだといんだけど。」

曜 (…………とりあえずどういいう状況なのか把握したい、んっ？ラインに大量

の通知が…………)

くここからアクアのグループLineく

ダイヤ 『皆さん!!今私たちはなんと、なんとおっ!!』

花丸 『何ずら、もったいぶらず早く言うずら』

ヨハネ 『そうよ、私たちも暇じゃないんだけど?』

ダイヤ 『あなた達・・・一応私3年生なんですが。』

花丸 『早く要件言うずら』

ダイヤ 『・・・まあ、今はいいでしょう。なんと私達は今音ノ木坂でミュージズの皆さんと一緒に遊んでいるのですわ〜!!』

〜五分後〜

ダイヤ 『ちよつと!!!なんで無視なんですか?!?!既読つきますわよね〜?!』

花丸 『で、それがどうしたずら? 自慢したいだけならライン切るずら。』

ヨハネ 『上に同じ』

果南 『同じく』

ダイヤ 『私の扱いが雑すぎますわよ!!というより違いますわよ!!あなた達にも来てほしいのですわよお!!』

花丸 『え〜なんでずら? 東京遠いずら。』

ヨハネ 『それ』

ダイヤ 『そこを何とか!!』

〜五分後〜

ダイヤ 『だから!!なんで無視なんですか?!?!既読ついてますわよお!!』

花丸 『だって・・・面倒ずら。』

ヨハネ 『ね』

果南 『まあまあ、なんか楽しそうじゃん!わたし行くよ!二人も来なよ!』

花丸 『……まあ、果南ちゃんがそう言うなら』

ヨハネ 『……しようがないわね』

ダイヤ 『もしかして私喧嘩売られてます???』

花丸 『まあ、実はもう向かってるけど』

ヨハネ 『うん、ルビイに聞いてたし』

ダイヤ 『今までのやり取りは何でしたの……。』

ダイヤ 『まあ、ルビイは今回残念ですけど三人が来るならいいですわ!では、私は楽しい楽しいゲームに戻るの、よろしくですわあ〜!!』

ルビイ 『ルビイも行くよ?』

ヨハネ 『ダイヤ返事ないわね……。楽しいゲームって何かしら?』

果南 『さあ……。まあ、なんか楽しいんでしょ!ちなみ1年生はどうやって行ってるの?』

花丸 『新幹線ずら』

果南 『リッチだね〜』

ヨハネ 『果南は?』

果南 『走って行ってるよ?』

花丸 『冗談は喜子ちゃんずら』

ヨハネ 『ヨハネツ!!』

ルビイ 『いや〜ミューズの皆さんに会うの楽しみだなく!!』

〜Line終了〜

曜 (ルビイちゃん・・・あんた最低だよww)

梨子 「どうしたの曜ちゃん??」

曜 「・・・いやww これ見てよ」

梨子 「?・・・ふwwwwルビイちゃんwwww」

理亜 「どうしたのよ急に笑いだして・・・私のこと馬鹿にしてるの??」

曜 「違う違うwwww それよりこれから東京に行かない??」

梨子 (曜ちゃんwwww 理亜ちゃんをルビイちゃんに会わせる気ねww)

曜 (だって面白そうじゃんwwww)

理亜 「えっ東京??なんでまた・・・」

曜 「まあまあ、どうせここにも暇でしょ?」

理亜 「いやでも・・・帰りのこと考えるとお金とかが厳しいし。」

梨子 「まあ北海道だものね。」

曜 「? 走ればいいじゃん?」

理亜 「いや、何言ってるの?みたいな感じで言ってるけどそっちが何言ってるの

「？」

梨子 「曜ちゃん・・・ここから東京までどれくらい距離があるか知ってる??」

曜 「え??確か100キロちよいでしょ??行けるじゃん!!」

梨子 「・・・私は電車とかで行くから、二人は走って行くということだ」

曜 「おけい!じゃあ行くよつ理亜ちゃん!!」

理亜 「いやいや、無理だし!! ていうか留守番頼まれるって言ったじゃない!」

曜 「いやいやそんなの言う事聞く必要ないよ!それに黒澤家なら多少何か物が

盗まれても大丈夫だよ!お金持ちっほいし!」

梨子 「その言い分はあんまりだと思うけどwww」

理亜 「いや、だとしても!走るのなんて無理よつ!!」

曜 「よし、出発進行ヨッソロッ!!」

理亜 「ちよ、助けて!!!本当に!!!」

梨子 「行つてらっしゃいwww」

曜 「つてな感じで来ました渡辺曜ですよろしくヨッソロッ!!」

理亜 「」

梨子 「桜内梨子です、よろしくお願いします。」

ことり 「よろしくヨソロソ♪」

穂乃果 「これでアクアも全員集合だね!!」

希 「また、走ってきたんかい・・・」

花丸 「理亜ちゃんwww死んでるすらwww」

ダイヤ 「・・・今家の留守番誰もいないのですの?」

ルビィ 「大丈夫だよお姉ちゃん、内浦に悪い人なんていないよお」

果南 「ルビィがその悪い人に該当してるけどね。」

理亜 「・・・はっ!!ここは? ってルビィ!! あんたこれどういう事よ!!」

ルビィ 「うゆ?」

理亜 「くっ・・・殴りたい・・・」

穂乃果 「まあまあ、えくと理亜ちゃん??だよね!今私達王様ゲームしてるから一緒に楽しもう!!」

理亜 「・・・はあ、その王様ゲームとあれは関係してるんですか??」

穂乃果 「・・・うん。」

海未 「ほらっここ!!まだ50本残ってますよ!!」

ここ 「も、もう無理にこ・・・、体がバラバラになるにこ・・・」

凜 「海未ちゃんと100本組手はまじで地獄にや〜www」

絵里 「これで半分なんてww」

海未 「弱音を吐かないっ!!!せいつ!!!」 ↑背負い投げ

にこ 「にこおおおおおおっ!!!?」

花陽 「はい、51-0」

ことり 「花陽ちゃんwww淡々としすぎwww」

曜 「・・・これが楽しいゲーム・・・か」

梨子 「王様になったらどんな命令でもできるのよね・・・// // //」

海未 「あの・・・にこが気絶したんですが。」

穂乃果 「まあそれで許してあげたらwww」

海未 「しようがありません、続きは起きてからにしましょう」

希 「慈悲はないのかwww」

梨子 「これダイヤさんが身代わり増やすために私達呼んだってことよね・・・」

ダイヤ 「ふふふ、これだけいれば私に命令なんて来るわけないですわあ〜」

ルビィ 「お姉ちゃんそれフラグ」

穂乃果 「よくしつ、賑やかになったところで続き行くよ!!!」

全員 「「王様だーれだ!!!」」

つづく

第16話 「恐怖のレズモンスター」

第15話の続きです。

梨子 「やったわ！私が王様よ!!うふふふふ」

千歌 「・・・梨子ちゃんか、不安だなあ」

穂乃果 「なんだかことりちゃんと同じ雰囲気があるね」

ことり 「え、どこが？」

梨子 「うふふふ、まさか最初から王様なんて・・・／＼／＼」

凜 「これ大丈夫かにや。」

希 「確実にサイコパス側の人間の顔やね。」

鞠莉 「それで梨子く、命令はどうすのですか??」

梨子 「うふふふ、これで千歌ちゃんにどんなことでも・・・」

千歌 「梨子ちゃん、数字の人に命令だからね？」

梨子 「ふふ、わかってるわよ。じゃあ、全員が私とキスで♡もちろん口ね？」

全員 「」

凜 「やばいにや・・・完全にやばい奴にや・・・。」

希 「嘘やろ・・・ガチレズやん」

絵里 「ま、まあ理事長とのディープキスに比べたら・・・。」

ことり 「・・・なるほどその手が」

穂乃果 「やつぱり同じじゃん。」

曜 「梨子ちゃん・・・ブレなさすぎでしょ・・・」

千歌 「ね、100%全開で来たねw」

鞠莉 「ワウオ！梨子ったら大胆〜！」

善子 「いや、どう見ても大胆ってレベル超えてるけど・・・。」

理亜 「・・・早くも帰りたくなってきたわ」

梨子 「ふふ、じゃあまずはあなからね♡」

凜 「え、凜から!? って、ちよつと待つにや!どこ行く気にや!??!」

梨子 「どこって・・・みんながいる部屋じゃゆつくりキスできないじゃない♡」

凜 「いやいや、ゆつくりキスする必要はないにや!!?? それと語尾に♡入れるのや

めて? なんかすごく怖い!」

梨子 「ふふふ、照屋さんなのね♡」

凜 「1ミリも照れてないにや!!」

梨子 「でも王様の命令は??？」

凜 「・・・・・・・・ぜつ・・・・・・・・たい・・・・にや」

梨子 「じゃあ早速行くわよ♡」

凜 「あ、ちよ!! つて、お尻触るなにや!!」

梨子 「ふふ、じゃあ皆さん待っててくださいね?♡」

凜 「ちよ、みんな助けて・・・」

他 「・・・・・・・・。」

梨子 「ほら早く♡」

凜 「↑諦めた」

梨子 「ふふ、いい子ね♡」

他 「・・・・・・・・。」

（5分後）

梨子 「ただいま戻りました♡」ツヤツヤ

凜 「・・・・・・・・。」ゲツソリ

希 「・・・・・・・・なんの5分間ですかお姉さん。」

穂乃果 「・・・・・・・・ただのキス、なんだよね??」

にこ 「ちよ、ちよつと凜！何があつたのよ！」

凜 「ナニモ」

絵里 「なんだか理事長とのキスのほうがましな気がしてきたような……。」

梨子 「じゃあ次は理亜ちゃんね♡」

理亜 「……っ！」 ダツ↑逃走図る

海未 「……。」 ガツ↑理亜をしつかり捕まえる海未

理亜 「……。」 グツ……グツ↑振りほどこうとしてる

海未 「……。」 ↑そうはさせない海未

理亜 「……。」

穂乃果 「理亜ちゃん……気持ちにはわかるけどね。ここまで命令からは絶対逃げられ

ないを売りにしてきたから逃げるのは許されないんだよ。」

理亜 「……どこに売ってるんですか？」

梨子 「ほら行くわよ♡」

理亜 「」

〈5分後〉

梨子 「戻りました」 ツヤツヤ

理亜 「……もう嫌」 ゲツソリ

真姫 「……待って、本当に何があったの？」

理亜 「・・・体中を撫でられながらずっと可愛いとか言われ続けて、・・・最後に優しくキスされました。」

ことり 「ナニソレコワイ」

穂乃果 「・・・恐怖を感じるね。」

絵里 (・・・亜里沙がいなかったのは不幸中の幸いね)

梨子 「じゃあ次は順番的に・・・」チラッ

希 「・・・うちか。」

梨子 「・・・。」スタスタ

希 「・・・。」

梨子 「・・・。」チュツ↑希にいきなりキス

希 「・・・え？」

梨子 「じゃあ次はあなたね♡」

穂乃果 「ええ!!?? 希ちゃんは??あれで終わり!!??」

梨子 「ふふ次はあなたなのよ♡ さあ早くいくわよ♡」↑希に興味なし

穂乃果 「え、嘘おつ!!ずるいよ希ちゃんだけ!!ちよー!!!」

希 「・・・。」

他 「・・・。」

凜 「……よかったね希ちゃん、変なことされなくて。」

希 「……うち絶対泣かへん」

ダイヤ 「……w」

（10分後）

梨子 「ふ〜最高だったわ〜♡」

穂乃果 「」

ことり 「待って、何があつたの？穂乃果ちゃん！」

にこ 「10分が増えたわね……」

海未 「穂乃果!! 何があつたのですか??」

穂乃果 「なにもなかったよ……////」

ことり 「ほ、ほのか、ちゃんが……汚された……カハツ」ドサツ

海未 「ドサツ」

にこ 「2年生全滅ね」

梨子 「まあ、いいですよ二人ぐらい……それより次行きましょうか♡」

全員 「……」

にこ 「……このままじゃやられるにこ!」

にこ 「……」↑ラインに打ち込み中

にこ 『絵里！あのモンスターを止めて！』

絵里 『でもどうするの？』

にこ 『私が動きとめるから後ろから手刀とかで気絶させてよ。』

絵里 『手刀って・・・まあやってみるわ』

にこ 『頼んだわよ！』

絵里 『ふふ、KKEの私に任せなさい！！』

にこ 『絶対成功させるわよ！』

絵里 『ええ！！』

梨子 「・・・何を成功させるのかしら♡」

にこ 「」

絵里 「」

梨子 「・・・まずは矢澤さん？行きましようか♡」

にこ 「」

く15分後く

梨子 「ふふ、最高だったわく♪」

にこ 「・・・。ゲッソリ

花陽 「どンドン時間が長くなっていく恐怖・・・。」

真姫 「……にこちゃんっ!!」

にこ 「……うう、真姫……ちゃん」ガクツ↑気絶した

真姫 「にこちゃんっ!! つく、絶対許さない!」キツ↑梨子を睨め付ける真姫

梨子 「あらあら怖い♡じゃあ次はお望み通りあなたね♡」

真姫 「絶対に……あなたなんかには屈しない!!」

凛 「あ、こりや屈するやつにや。」

希 「間違いない。」

〈1分後〉

梨子 「ふふふ♡すごいピユアな子だったわ」

真姫 「／／／／／／／／／／／／／／／／」

凛 「いや、さすがにちよろすぎにや」

千歌 「1分ぐらいしかたつてないのにww」

曜 「相変わらずすごいね……梨子ちゃん」

ダイヤ 「わ、私の大好きなミューズがどんどん壊れて……」

梨子 「さて、じゃあ次はあなたね♡」

花陽 「うう、誰かタスケテ……」

〈5分後〉

梨子 「・・・ふう♡」

花陽 「・・・／＼／＼プシュー」

凜 「かよちゃんもアウトか・・・。」

希 「あと・・・ミューズで残ってるのは。」

凜 「残ってるのは・・・？」

絵里 「ふふふ、私よ！」ドヤツ

希 「こりやあかな。」

凜 「真姫ちゃんパターンにや」

絵里 「まあ見てなさい？逆に落としてあげるから？」

希 「無理やて、カードがうちに全力で否定してるわ。」

凜 「カードなんか使うまでもないにや、無理にや」

絵里 「・・・ちよつとは期待してもいいんじゃないかしら。」

梨子 「じゃあ行きましょうか♡」

絵里 「ええ。」

（5分後）

梨子 「うくん、やっぱり女子高生って最高ね！」

絵里 「↑好き勝手やられた

希 「えりち・・・落ちんかっただけでも真姫ちゃんよりは上やで」

凜 「うん、絵里ちゃんには何も期待してないにや。」

絵里 「・・・慰める気はないの？」

穂乃果 「・・・／／／」

花陽 「・・・／／／」

真姫 「・・・／／／」

凜 「この三人はだめにや、レズにやられたにや。」

希 「確かにあかんな、よしミュージーズから追い出そ。」

絵里 「なんてこと言うのよww」

海未 「」

ことり 「」

にこ 「」

凜 「まあ、この3人も心配だけにや。」

希 「まあ、この3人やったら大丈夫やろ」

梨子 「さあ、残るはみんなね♡」

千歌 「はあく、まさか東京まできて梨子ちゃんに付き合わされるなんて。」

曜 「それ」

ダイヤ 「早く終わらせてくださいよ？」

絵里 「なんだかアクの皆さん慣れてない??」

花丸 「まあ、梨子ちゃん普段からあんなだから」

ルビィ 「うん、隙あらば体触ってくるし。」

希 「ただの痴女やんけ。」

凜 「まあ希ちゃんも人の乳よく揉んでるけど。」

希 「いや、一緒にせんといて、まじで」

（15分後）

梨子 「はく、来てよかったわ・・・／／／／／／／」

千歌 「よし、早く次しようっ!!」

理亜 「帰りたい・・・ううお姉さま」

ダイヤ （・・・もしかしてこれって、えりーちかと間接キスしたのでは??）

希 「うん、この流れをぶった切るためにも早く次行こ。」

にこ 「うう、そうね。」 ↑復活した

凜 「でも、掛け声かける穂乃果ちゃんがあんなだよ?」

穂乃果 「・・・／／／／」

希 「よし、じゃあもう一人の主人公千歌ちゃん頼むわ。」

千歌 「ええっ！私か??？」

希 「・・・やめる？」

千歌 「やめないっ!!!」

希 「これ便利やなww」

曜 「でしょww私もよく使うんだあゝ」

千歌 「待つて、そんな気持ちで毎回言つてたの??」

鞠莉 「じゃあ千歌あゝ、元気な掛け声たのみますゝ！」

千歌 「う、うゝん気になるけど・・・ま、今はいいや。」

凜 「そうそう、景気のいい一声頼むにや！」

千歌 「はい!! じゃあ、いくよ!!!!」

千歌 「せーのっ!!!」

全員 「王様だーれだ!!!」

つづく

第17話 「ピンクの悪魔」

第16話の続きです。

果南 「あ、私だねっ!!」

他 (・・・来たっ!!)

ルビィ 「・・・?」

梨子 (・・・なんだかみんなの様子が変ね)

果南 「ふっふっふ♪」

くちよつと前へ

梨子 「ふふふ♡最後のキスの相手はルビィちゃんよ♡」

ルビィ 「はあ、ちやつちやつと終わらせてね?」

梨子 「ふふふ♡それはどうかしら?」

ダイヤ 「・・・行きましたね?」

鞠莉 「どうしたのダイヤ?」

ダイヤ 「いえ、ちよつと今回のルビィの行動は許せないものがあるのでちよつとそ

のことについて。」

果南 「あく、留守番押し付けたりしたこと?」

ダイヤ 「そうですわ!さすがに今回のルビィの行いはぶつぶうですわあく!!」

花丸 「まあ確かにあれは酷いすらww」

曜 「うん、同じユニットメンバーとしてもあれは罰つするべきだと思うww」

善子 「・・・理亜がああなってるのもそれが原因でもあるだろうしね。」チラッ

理亜 「うう・・・お姉さまあゝ」

希 「でもどうすんの?」

絵里 「それならこの王様ゲームを利用してお仕置きしちやえばいいんじゃない

?」

ダイヤ 「それですわ!!まさに私が言いたかったことですわゝ!さすがえりーちか

!」

絵里 「・・・まあ、ね?」ドヤッ

希 「・・・まあそれはいいとしても、命令は数字の人にしか命令できへんやん?」

千歌 「うくん、じゃあばれないようにルビィちゃん以外の人がさりげなく自分の

番号を王様に伝えればいいんじゃないかな?そしたら残りの数字がルビィちゃんって

ことだし。」

果南 「ばれないようにって、どうやって？」

希 「まあなんでも大丈夫やろ、さりげなく指とかで番号伝えてもいいし。」

凜 「完璧にや。」

ここ 「でも、どんな命令にするにこ？」

希 「まあそれは王様になった人に任せるってことでw」

ダイヤ 「決まりですわっ！ではルビイと、後・・・言う事聞かなさそうな梨子さん以外が王様になったら実行ということぞ！」

他 「了解!!」

理亜 「・・・ちよつと待ってその話！」

果南 「ん？どうしたの？」

理亜 「どうせなら——」

く回想終わりく

果南 「ふふふ、じゃあ命令はくどくしようかなく??？」

希 「いや、どうでもいいけどうち4番って嫌いやねんなく↑4番

凜 「えー、凜は1番が嫌いにや、なんか棒みたいでだっさいにや」↑1番

千歌 「・・・ふw、わ、私は2番が嫌いかなww（誤魔化し方が下手すぎるww）

↑2番

鞠莉 「OH、私は10番が大っ嫌いであ〜す!!」 ↑10番

ダイヤ 「嫌いなのは断然3番ですわああああ」 ↑3番

絵里 「私は5番が嫌いよ!理由はないわ!」 ↑5番

花丸 「まるは8番ずら」 ↑8番

善子 「9番よ」 ↑9番

にこ 「12番」 ↑12番

理亜 「7」 ↑7番

※他のメンバーはレズにやられたか失神中

果南 「・・・www (花丸あたりから隠す気ゼロwwwまあその前も酷かったけ

どwww)

ルビィ 「なんだこれ」

梨子 (何が起こってるのかしら?)

果南 (・・・ってよく考えたら梨子の番号分からないじゃん。これじゃあるビィ

と梨子の二分の一につて・・・ん?) ピロリンツ

鞠莉 『梨子は6番』 ↑Line

果南 「・・・。」 チラッ

鞠莉 「・・・。」 ニヤリ

ダイヤ 「そうですね、まず机を端に寄せましょう」

凜 「海未ちゃんとか邪魔にや、いつまで気絶してるにや」

ここ 「端っこにみんな積んどけばいいんじゃない？」

凜 「面倒くさいにや」

千歌 「あ、私も手伝います。」

ルビィ (味方ゼロ・・・)

理亜 (見てなさいルビィ・・・ボッチを弄んだこと後悔させてあげるわ)

準備完了後

曜 「というわけでまもなく始まります！ 第一回スクールアイドルバトルロワイ

アル！」

希 「いや、どうなるのか想像もつきませんが、面白くなるのは間違いなさそう

です。」

曜 「そうですね、というわけで本日の解説を務めさせて頂きます、渡辺曜と」

希 「東條希です。よろしく！」

ここ 「・・・なにやってんのあの二人。」

凜 「放つとけばいいにやww」

ルビィ (・・・まさかこんなことになるなんて)

理亜 「……………」↑集中してる

希 「おつと、まだ試合前ですが理亜ちゃん非常に集中してますねww」

曜 「ルビィちゃんに酷い目に遭わされた怒りが彼女にそうさせているのでしょ

ww」

希 「それでは早速初めてもらいましょう！」

希&曜 「試合スタートツツ!!」

ルビィ 「うう・・・、理亜ちゃん私こんなことしたくないよ。」

理亜 「なっ！元々ルビィ、あんたが私に酷いことしたんでしょ!!」

ルビィ 「う、うゆ、それは本当にごめんなさい・・・理亜ちゃんのごことは本当に友達だと思ってるよ?」

理亜 「…………え、そ、そんなこと今さら言われたって。」オロオロ

ルビィ 「……………」ニヤ

ルビィ 「えいつ♪」ガンツ

理亜 「がっ!？」

曜 「あゝつと、油断させてからのルビィちゃんの脛蹴りが決まったゝ!!!汚い

これは汚い!!!」

希 「これには思わず理亜ちゃんも膝をついてしまいますwww」

千歌 「ほ、本当に汚いwww」

花丸 「清々しいほどの外道っぷりすらwww」

ダイヤ 「・・・ルビィ」

果南 「理亜くっ!! 負けるな!!!」

ルビィ 「えいつ、えいつ♪」ガンガン

理亜 「くっ・・・うっぐ」

曜 「そして、膝をついた理亜ちゃんにすかさずパンチ連打の追い打ちだあ!!!」

希 「これには理亜ちゃんも防戦一方ですねwww 是非ともこの光景を彼女

の姉に見せてあげたいですねwww」

梨子 「なんだか・・・動物の虐待みたいね。」

凜 「・・・凜、ミューズでよかったにやw」

理亜 「くっ、こ、このー!!!」

ルビィ 「ピギツ!？」

希 「おっと、ここで理亜ちゃんがヤケクソの突進!しかしこれが功を奏したか

!勢いでマウントを取ることに成功っ!!」

曜 「これは決まったか??？」

理亜 「……さんざん私をこげにしてくれたわね、覚悟なさい！」

ルビィ 「……ペっ！」

理亜 「わっ、汚いっ!!??」

希 「こwwwこれはルビィちゃん、理亜ちゃんに唾を吐いてマウントから逃れることに成功wwwしかし誰がこんな黒澤ルビィの姿を望んだでしょうか? www」

曜 「スクールアイドルどころか女の子失格ですねw」

梨子 「あら?女の子の唾よ?汚いわけないじゃない?」

果南 「梨子、今はおとなしくしてようか。」

理亜 「く、くう、こ、このく!!!」

ルビィ 「あ、ちよ、ちよつと髪の毛引つ張らないでよお」

理亜 「あ、あんたも引つ張ってるんじゃないわよ!!」

曜 「あくとここで、お互いの髪の毛を掴みあう膠着状態に！」

希 「急に子供同士の喧嘩っぽくなりましたね」

ルビィ 「くううう……えっ、アライズのツバサさんっ!!??」

理亜 「えっ!?!つてさすがの私でも騙されないわよっ!!」

ツバサ 「あなた達まだやってたのね?・しかもずいぶん人数増えてるわね。」

理亜 「え!?!その声、本当にアライズ
?????」

ルビィ 「・・・っ！えいつ!!」

理亜 「ぐっ!??!うう」

希 「あくつと、ツバサさんに気を取られた理亜ちゃんにすっかりヘッドロックをかけていく〜」

曜 「これはまずいですね〜、ていうかルビィちゃんは どうしてヘッドロックな
んて技を知ってるんでしょうか〜ww」

千歌 「え、あ、あなたはあのミューズに並ぶアライズのツバサさんじゃあ・・・」
ダイヤ 「そ、そうですわよ・・・どうしてここに??」

ツバサ 「あら、私のこと知ってるなんて光栄ね♪ さっきまでミューズの皆さんと
私も遊ばせてもらったのよ。それでちよつと忘れ物に気付いて戻ってきたの。」

ダイヤ 「さすがトップアイドルですわあ〜、オーラが違いますわあ〜」
千歌 「た、確かに・・・」

絵里 (第1話で思い切り車に轢かれてたけどね・・・)
凜 「それより、あんじゅさんは無事かにかや?」

ツバサ 「ええ、ただもう二度と音ノ木坂には来ないと言っていたわww」
絵里 「まあそれはそうなるわよねwwww」

果南 「何があつたの・・・」

花丸 「まる達が来る前もかなり酷かったみたいですね」

希 「あくと、みんながツバサさんに夢中になつて居る隙に理亜ちゃん完全に落ちてしまった〜!!これは虚しい!復讐達成ならず!!完全にツバサさんが悪いっ!」

ツバサ 「え、どうして?? とうかどういいう状況?」

曜 「終始ルビイちゃんのペースでしたね、今日という日が理亜ちゃんのトラウマにならないことを祈りましょう〜www」

花丸 「理亜ちゃんwww可哀想すぎるすらwww」

善子 「ルビイこれでますます調子乗るんじゃない?」

千歌 「理亜ちゃんwww今度私達と遊ぼうねwww」

ルビイ 「うゆ、いい汗かいた〜」

ダイヤ 「・・・く、こんなはずでは。」

希 「とういうわけで、ツバサさんもやってくやる?王様ゲーム?」

ツバサ 「帰るわ、さようなら。」

凜 「まあまあツバサさん、ね?」

ツバサ 「いや、本当に勘弁して頂戴。」

絵里 「ツバサさん、残念だけどこのタイミングできたツバサさんが悪いわ。」

ツバサ 「」

希 「よし、じゃあ千歌ちゃん！続きしよっ!!」

千歌 「わわっ、そっか、じゃあ行きます!!」

全員 「「王様だーれだ!!!」」

つづく

第18話 「寺娘の命令」

第17話の続きです。

花丸 「あ、まるずらく」

千歌 「おつ、花丸ちゃん！ 命令は何にする？」

花丸 「うくん、あつ！この前テレビで見たやつにするずら！」

曜 「え？ 花丸ちゃんの家ってテレビあるの？」

花丸 「あるに決まってるずら、流石に馬鹿にしすぎずら。」

善子 (・・・ブラウン管だけどね)

果南 「それで？ どんな命令なの？」

花丸 「一気飲みずらっ！」

希 「いや、何見たか知らんけどそれお酒ちやうん？」

ダイヤ 「高校生がお酒を飲むなんて言語道断！ぶつぶつですわ！」

絵里 「まあ、流石にお酒はね。」

果南 「今どきみんな飲んでるだろうけどね。」

鞠莉 「それなら心配ナツシングでくす！これがありません！」

千歌 「なにそれ？」

鞠莉 「甘酒でえくす！」

千歌 「甘酒?！」

鞠莉 「いえくすつ！」

果南 「・・・なんで、甘酒なんて持つてるのさ。ていうかそれじゃあお酒の代わりにはならないんじゃない? 酔わないだろうし。」

鞠莉 「のんのん、こういう時の甘酒とウイスキーボンボンは絶対に酔うと相場は

決まってるくすつ！」

花丸 「よくわからないけど、もうそれでいいいら」

果南 「まあ、はなまるがいいならいいけど。」

希 「それで花丸ちゃん、何番にするの？」

花丸 「えと、それじゃあ3番と10番ずらっ！」

絵里 「・・・私ね」↑3番

ツバサ 「・・・なぜ来てしまったのかしら」↑10番

凜 「ツバサさんwww いきなりwww」

希 「ええキャラしてるやんwww」

ダイヤ 「……まあ、甘酒を一気飲みしたところで何も起きませんわよ。」

ツバサ 「……そうよね、大丈夫よね？」

ダイヤ 「……たぶん。」

ツバサ 「……。」

絵里 「ツバサさん！ 心配ないわ、私がそれを証明してあげるわ！」

ツバサ 「……不安ね。」

凜 (絶対何か起こる気するww)

鞠莉 「はい、甘酒。」

絵里 「……よし、いくわよ。」

絵里 「……っ。」クイツ ↑一気に飲み干す

希 「いよっ！ ナイス飲みっぷり」

ツバサ 「……大丈夫、綾瀬さん？」

絵里 「……。」

千歌 「……何か様子がおかしくない？」

曜 「え、本当に酔ったの？」

絵里 「いいえ、大丈夫よ。」キリッ

千歌 「なんだ。」

ダイヤ 「それはそうですよ、あのえりーちかが甘酒で酔うわけありませんわ」

絵里 「ところで希？ 少し言っておきたいことがあるのだけれど。」

希 「え？ 何いきなり？」

絵里 「私、あなたのことが好きなのよ、LOVEの方で」

希 「……は？」

梨子 「!?」

凜 「……これはww」

絵里 「聞こえなかったかしら？ あなたのことが好きといったのよ？」 ナデナデ

希 「……あの、体撫でまわさんといてくれる？」

絵里 「真剣なの、私」ズイツ ↑顔を近づける絵里

希 「ちよ／＼ 近いって／＼」

梨子 「いいわよ！ そのままいきましよう／＼」ハアハア

ダイヤ 「こ、これが伝説ののぞえり／＼」ハアハア

果南 「あんたらね……。」

絵里 「……だめ、かしら？」ウルウル

希 「い、いや、いきなりそんなこと言われても私／＼」

梨子&ダイヤ 「……。」ワクワク

絵里

「・・・希。」

希

「・・・え、えりち。」

絵里

「なうんて、うつそよ〜w w w w w」バッチイ〜ンツ!!↑希にフルスイングビ

ンタ

希

「ぶつつつ?!?」ドサツ ↑ピンタされ倒れる希

絵里

「あははははははw w w w w」

他

「w w w w w w w w w」

にこ

「完全に酔っぱらってるw w w w w w w」

凜

「きよ、今日一番面白いかもw w w w w w」

花丸

「て、テレビより面白いですらw w w w w w」

千歌

「何かあるとは思ったけどw w w w w w」

果南

「ちよつと鞠莉w w 本当にあれ甘酒なんでしょうねw w」

鞠莉

「もちろ〜んつ、ちゃんと甘酒も入ってま〜す!」

善子

「甘酒も、ねw w」

ルビィ

「ふw 絶対他にも何か入ってるじゃんw w」

ツバサ

「も、もう帰りたいw w w」

ダイヤ

「え、えり〜ちかがw」

梨子 「・・・。」ハアゝ

絵里 「ねえねえ希? 騙された? 騙されちゃった?? このえりくちかに騙され

ちやつた??? w w w w

希 「・・・。」↑orz

凜 「う、うざいw w w この絵里ちゃんうざいにやw w w」

千歌 「ふ、普通に可哀想w w w」

絵里 「さっきの希の物真似しまゝすw w w いや、いきなりそんなこと言われ

ても私///w w w w w」クネクネ

他 「w w w w w w w w w w w w w w」

希 「」

千歌 「あはははは、そんなの反則だよw w w w w w w w w w」

凜 「そ、そんなに体はクネクネいてなかったにやw w w」

果南 「希さん、しつかりw w w w」

絵里 「ねえねえw w w のんたくん!! なんであの時一人称が、うちじゃなくて、

私///って言ったの??? ねえねえなくんで?!

希 「うるっさいわあ/// もうくたばれや!! このエセロシアやろう!!!」

絵里 「ごくら、そんな悪いこという口はこうしちやうぞ?」ぶっちゅゝ ↑唐突の

や。」

絵里 「えくのんたんがそれ言うう???」

ツバサ 「ねwww」

にこ 「あれが地獄か・・・。」

凜 「希ちゃん完全に二人のおもちやだねwww」

ツバサ 「それより私も告白してみたいわ!」

絵里 「いいじゃない! 認めるわ!!」

他 「!?」

ツバサ 「・・・えくと、だれにしようかなく??」

他 「・・・。」↑全員目を逸らしてる

ツバサ 「決めたわ、千歌ちゃん!」

千歌 「」

曜 「千歌ちゃん、ご指名だよ。」

果南 「行つてきな、千歌。」

ダイヤ 「お祈りしてます。」

花丸 「南無」

千歌 「薄情者しかいないのだ・・・。」

ツバサ 「いらつしやい♡ 千歌ちゃん？」

千歌 「・・・うす。」

ツバサ 「私ね、あなたのことがね？ 好きなの！」

千歌 「・・・そうですか。」

絵里 「違うでしょ、希の何を見てたの？ よく見ておきなさい？ そんなこと言

われてものたん困っちゃう〜 でも私も〜、好きっ！」くねくね

絵里 「でしょ？ 希を見習いなさい？」

希 「言つてない」

千歌 「・・・いやw まあ、はい。」

ツバサ 「はい、じゃあ今のやつて？」

千歌 「ええっ!？」

絵里 「早く」

千歌 「うう／＼ そ、そんなこと言われてもちかつち困っちゃう〜、でも私も〜、

好きっ！」

ツバサ 「あ、ごめんなさい。やっぱり私穂乃果さんの方がいいわ。今の告白なし

で。」

千歌 「」

曜 「ひ、ひどいw w w w w」

果南 「何を見せられてるのw w w」

希 「ふw w w」

にこ 「w w w きりがいいから次行きましょw」

凜 「確かに、それがいいにやw w」

ことり 「・・・う、うくん、あれっ、私なんで寝てたの?」

海未 「・・・わかりません、何があつたのか。」

曜 「あ、二人とも起きたんですね。」

ことり 「うん、でも寝る前の記憶があまりないの、確か王様ゲームをしてて。」

海未 「私もあまり覚えていませんね・・・。」

果南 「あまり思い出さないほうがいいと思うけど・・・。」

ことり 「うくん、あれ? ツバサさんがいる? 逆に穂乃果ちゃんがない。」

にこ 「ツバサさんはさっきまた来て、穂乃果たちはレズに、じゃなくてちよつと体

調が悪いから別の部屋で休んでもらってるわ。」

海未 「・・・ふむ、まあいいでしょう。では今から私たちも参加します。」

ことり 「します♪」

千歌 「・・・はあ、ひどい目に遭つたのだ。」

果南 「まあまあ、次で挽回すればいいんだよw」

千歌 「そうだね！　じゃあいつくよ〜！」

全員 「「王様だーれだ!!!」」

つづく

ことり 「いよいよラストです♪」

第18話の続きです

理事長 「あなた達」

千歌 「わ、びっくりした。」

希 「また来たんかいw」

理事長 「解散よ、解散。」

凛 「え、なんでいきなり？」

理事長 「保護者の方から帰りが遅いと苦情が来ました。」

にこ 「そういえば今何時なの？」

果南 「えくと、20時・・・だって。」

曜 「え、そんなに？」

善子 「本当だ、よく見たら親からいっぱい電話来てた・・・。」

ダイヤ （そういえば留守番の件どうしましょう・・・。）

千歌 「じゃあ、今回の命令で最後にしましょうか？」

希 「せやな、そうしようか。」

ダイヤ (最後こそ王様に……)

にこ (やつと終わるのか……)

理事長 「いや、すぐに帰りなさいよ。」

全員 「「王様だーれだ!!!」」

ことり 「あ、ことりだ。」

希 「ありや、ことりちゃんか。なんか以外やな。」

海未 「確かに、まだ王様になっていない人もいるのに最後がことりとは。」

にこ 「……まあ、トリ、だからね。」

凜 「ま、そういうことだね。」

ことり 「……え、そんな理由?」

千歌 「……ふw」

希 「それでトリのことりちゃんは、ラストにどんな命令をするんや?」

ことり 「もう、怒るよ? でも最後の命令か、責任重大だね。」

にこ 「ことり、変な命令とかいらなからね、まじで。」

ことり 「うーん、難しいよ。」

ダイヤ 「まあ、何でもいいんじゃないでしょうか、最後といつても、メンバーも全員

いるわけじゃないですし、軽く考えれば。」

海末 （そういえば、穂乃果はなぜ体調が悪くなったんでしょうか・・・。）

ことり 「うん、そうだね、ありがとう。あつ！」

希 「お、なんか思いついたん？」

ことり 「うん♪ ちょうどいい命令がありました♪」

ことり 「実は2日前に懸賞に当たって6人用の沖繩旅行が当たったの。今から言う5人はことりと一緒に行ってもらおうかな？」

千歌 「沖繩っ！行きたいっ！」

果南 「沖繩か、私も行きたいな」

希 「おお、最後に来てテンション上げる命令してくれるやん！」

ことり （本当は穂乃果ちゃんも行つてイチャイチャする予定だったんだけどね・・・。）

凜 「これは行きたいにや、まじで。」

海末 「・・・練習はどうするのです？」

ことり 「よし、じゃあ言うよ」

他 「・・・」ドキドキ

ことり 「まずは・・・3番！」

千歌 「やったあ!! 奇跡だよおお!」

曜 「ああ、いいなあ、千歌ちゃん。」

梨子 (千歌ちゃんが行くなら私も行きたいわね・・・。)

ことり 「よろしくね、千歌ちゃん! じゃあ次は・・・7番!」

理事長 「やったわあ、私よ」 ↑7番

ことり 「・・・というのは冗談で10番で!」

善子 「・・・え、やった、私だ!」 ↑10番

理事長 「」

花丸 「善子ちゃん、素がでてるぞらよ? ww」

善子 「はっ／＼／＼ べ、別にそこまで喜んでないからね!」

ルビィ (善子ちゃん、ぴよんぴよん飛んで喜んでたww)

ことり 「・・・え、じゃあ別の人に変えようか?」 シュン

善子 「わああ! うそつ、うそうそつ、行きたいです! 行きたい行きたい!」

ことり 「うん♪ じゃあよろしくね♪ 善子ちゃん!」

善子 「ううっ／＼／ 善子じゃなくてヨハネよ・・・。(沖繩は嬉しいけどこの人

なんだか苦手だわ・・・)」

果南 「ふwwww行きたい行きたいww」

ルビィ 「ｗｗｗｗｗｗ」

善子 「そこ、うるさいわよっ／＼／＼」

ことり 「じゃあ、三人目は・・・」

希 「頼む頼む」

凜 「お願いします、お願いします、お願いします。」

にこ 「あんたら、本当ぶれないわね・・・」

ことり 「1番で！」

絵里 「あら、私が1番よ」↑まだ酔っぱらってる

希 「酔っぱらってる場合は無効じゃないの？」

凜 「確かに。」

にこ 「あんたら黙つときなさい。」

ことり 「うん、絵里ちゃん、わかっただけだよろしくね？」

絵里 「ええ、もちろんよ、このえりうちに任せなさい！」

千歌 「絶対分かってないｗｗ」

ことり 「じゃあ続けて4人目は4番で！」

ツバサ 「ん、これって4よね？千歌ちゃん？」↑同じく酔っぱらってる

曜 「私は千歌ちゃんじゃありません、でも確かに4ですね。」

希 「まさかの酔っ払い2連続、なんか釈然とせえへんな〜」

凜 「同感。」

千歌 「まあ運だから・・・（この二人の様子見てたら不安だな）」

ことり 「ツバサさん、よろしくお願いします。じゃあ次は最後だね。」

他 「・・・」ドキドキ

ことり 「11番で！」

ダイヤ 「やりましたわ〜!!（王様になれなかったですけど、えり〜ちかと旅行!!）」

果南 「あ〜、だめだったか〜。」

曜 「羨ましい・・・。」

希 「帰るか。」

凜 「だにや。」

にこ 「おい待てこら。」

理事長 「はい、まじでやばい時間だから、すぐにみんな解散して頂戴。」

希 「うわっ、ほんまやもう20時半前やん。」

凜 「・・・普通に怒られる時間だにや。」

鞠莉 「じゃあ、へりが校庭にきてるので、アクアのみんなは校庭に急いで来て下さ

い。」

希 「頼もしいな・・・。」

果南 「へりて・・・、走ればいいのに。」

花丸 「え、まさか本当に走ってきたの??」

曜 「理亜ちゃんどうしょw」

ルビィ 「まあ流石にこつちが引き取るよ。気絶させたのルビィだし。」

曜 「まあ、それなら任せるよww」

千歌 (理亜ちゃんww 起きた後大丈夫かな、精神的にww)

ことり 「じゃあ、また、沖縄の件は連絡するからねw」

千歌 「はいっ、今日はありがとうございました！」

他 「ありがとうございます！」

希 「ばいばい。」

にこ 「ばいにこw」

凜 「ばいばいにゃw」

希 「さて、穂乃果ちゃんと真姫ちゃんと花陽ちゃんをどうするかやな・・・。」

理事長 「その3人なら私が車で自宅まで届けておくわ。」

凜 「それはマジで助かるにゃ。」

ことり 「穂乃果ちゃん体調悪いんだよね? 大丈夫かな・・・。」

希 「いや、体調というより・・・レズにな・・・。」

ことり 「え、レズ?」

理事長 「ほら、無駄話してないで、早く出る。」

にこ 「なんか最後ばたばたしちやっただけど、なんやかんやで楽しかつ・・・た・・・よ・・・ね?」

他 「・・・多分。」

希 「うん、まあとりあえず今日は疲れたから帰るわ、ばいばい。」

にこ 「私も帰るわ、流石に遅くなりすぎたし、じゃあね。」

凜 「凜も帰るにや〜」

ことり 「じゃあことり達も帰ろっか、海未ちゃん。」

海未 「そうですね、ちよつと物足りなかつたですけど確かに今日は楽しかつたです
ね。」

ことり 「物足りない要素まつたくなかつたけどね。」

海未 「さあ、明日からまた練習びしびし行きますよっ!」

ことり 「・・・ほどほどにね?」

ことり (それより、沖縄旅行の件も色々準備しないとね〜♪ 楽しみだな〜)

〜凜サイド〜

凜 「あく、今日は疲れたにやう、ん？ ライン？ 希ちゃんからだ。」

希 『沖縄旅行、うちらも行くで！ 例の6人に秘密で。』

凜 「……………」ニヤ

「王様ゲーム編終わり」

「次の日」（おまけ）

絵里 「……………ううん、頭痛い。気持ち悪いし。」

絵里 「……………」

絵里 「ここ部屋よね……………寝る前に何してたかあまり覚えてないわね。」

絵里 「確か王様ゲームしてたのよね……………」チラツ

ツバサ 「……………」スウスウ

絵里 「なぜ、ツバサさんが……………」

絵里 「とういうより今何時？ ん？8時？ 外は明るいから朝かしら？」

絵里 「状況がわからない、ん？ 足音が近づいてくる？」

バンツ ↑部屋の扉を勢いよく開く音

海末 「さあ、練習しますよっ!!」

絵里 「」

第1話　ことり「沖繩旅行編スタートです♪」

「王様ゲームから2週間後」

「音の木坂高校の校門前」

ツバサ「・・・暑いわね、真夏だものね。」

ツバサ「・・・それにしても、これ何だったのかしら。」

ことり「『ツバサさん、2週間後の朝8時に音の木坂の前に来て下さい♪　質問は受け付けません♪』↑ライン　質問は受

ツバサ「一応来たけど、まだことりさんはいないわね。」

ツバサ「・・・それにしても、ここに来ると全身が強張るわね。」

ツバサ「王様ゲームの次の日頭痛と吐き気の中たたき起こされてなぜかミューズの皆さんと一緒に練習させられたのよね・・・。」

ツバサ「・・・あれはきつかったわ、普通に吐いたし。なぜか絵里さんも吐いてたけど。」

※ツバサと絵里は命令で甘酒？を飲んで酔っ払っ、そのまま部室で寝てその次の日、二日酔いの中、海未によって強制で練習に参加させられました。

ツバサ 「とういうよりシンプルに練習がきつすぎるのよね・・・、なんでいきなりランニング40キロなのよ・・・。そりゃあ負けるわよね・・・。」

ことり 「・・・あの、ツバサさん？ どうして一人でぶつぶつ喋ってるんですか？」

ツバサ 「説明よ。引かないで頂戴。」

ことり 「・・・はあ。」

ツバサ 「それでことりさん？なぜ私はここに呼ばれたのかしら？ラインでいくら聞いても無視してくるし。」

ことり 「なんとなく面白かったので無視しちゃいましたww」

ツバサ 「・・・まあ、この際それはいいわ。それで今回の目的は何かしら？」

ことり 「はい、今から4泊5日の沖繩旅行に行きます♪」

ツバサ 「・・・は？」

絵里 「はろ〜♪やつとこの日が来たわね！」

ことり 「あ、絵里ちゃん！そうだね、楽しみだよね〜」

ツバサ 「絵里さん、・・・え？ 状況がわからないのだけど？」

絵里 「こんにちはツバサさん！あら？やけに軽装ねツバサさん？」

ツバサ 「いや・・・え？ 面白いえば二人ともキャリーケース持つてるけど本当に沖繩に行くの？」

ことり 「はい♪この3人とアクアの3人の合計6人で沖縄旅行に行きます♪」
ツバサ 「え、どうしてそうなったの？」

絵里 「ん？まさかことり、ツバサさんに事情説明してないの？」

ことり 「うんwww」

絵里 「wwwwww」

ツバサ 「いやいやいやいや、笑い事じゃないでしょ！というよりいつ私が沖縄に行くことになったのよ！」

ことり 「王様ゲームの最後の命令でそうになりましたwちなみにこれが証拠の動画です♪」

ツバサ 「・・・記憶にないのだけど。」

ことり 「ツバサさん完全に酔ってたからw」

絵里 「まあ、それは私も記憶にないんだけどね・・・。」

ツバサ 「いやいや、無理よ！私今財布とスマホしかないのよ！」

ツバサ 「どうして事前に伝えてくれなかったのよ！」

ことり 「サプライズで・・・。」

ツバサ 「全然サプライズになってないわよ！絶対行けないわよ！何も用意してないし。5人で行ってくればいいじゃない。」

ことり 「……王様の命令は？」

ツバサ 「……絶対。」

ツバサ 「……せめて家に帰って準備させて頂戴。」

ことり 「でも、もう飛行機の間時間が来ちゃうし……。」

ツバサ 「……嘘でしょ。」

絵里 「ふww」

ことり 「でも、せつかく6人もいるのにミュージズが2人しかいないのは寂しいね……。」

絵里 「確かにそうね……、もう少しいてもよかったかもね。」

ことり 「呼んじやおつかww」

絵里 「いやいや、カラオケに誘うわけじゃないんだから無理でしょう。」

ことり 「確か、リリホワの3人と穂乃果ちゃんは用事があるって言ってたよね？花陽ちゃんも家族旅行って言ってたし……、にこちゃんは子供たちのお世話があるし、となると……。」

絵里 「……真姫、かしら」

ことり 「うん、そうだね！早速電話してみるよ。」

絵里 「どうするつもりなのかしら……。」

ことり 「あ、もしもし真姫ちゃん？」

真姫 「ことり、どうしたの？ 今日から沖縄旅行じゃないの？」

ことり 「うん、そうだよ！ 真姫ちゃんも行こうよ！」

真姫 「・・・は？」

ことり 「真姫ちゃんも沖縄旅行行こうよ！」

真姫 「いやいや、何を言ってるのよ！ 行くわけないじゃない。」

ことり 「・・・セクシーポーズで誘惑する真姫ちゃんの動画、ことり持ってるんだよね？ その動画をどう使うか迷うな〜」

※第2話参照

真姫 「」

ことり 「・・・来てくれる？」

真姫 「あくもう分かったわよ！ 行くわよ！ 何時にどこに行けばいいのよ？」

ことり 「9時に成田空港から飛行機が出発するよ！」

真姫 「全然時間ないじゃない!!! 切るわよ!!!」

ことり 「うん♪ またあとでね〜」

ツバサ 「・・・恐ろしいわね」

絵里 「ふwwでもチケットとかホテルの予約とかどうするの？」

ことり 「ふふw 実は後一人は最初から呼ぶつもりだったので既に予約済みです」
♪

絵里 「え、でもそのお金は？」

ことり 「ことりのバイト代から出しました。」

ツバサ 「なぜそこまでして・・・。」

ことり 「というわけでことりたちも行きましょう！」

ツバサ 「・・・はあ、こうなったら現実を受け入れるしかないわね。」

絵里 「そうよ♪この際楽しんだもん勝ちよ！」

絵里 「飛行機といえばことり、まさか枕忘れたりしてないわよね？なんてねw」

ことり 「・・・あ」

絵里 「ん？」

ツバサ 「え？枕？」

ことり 「ちよつと、ことり家に帰る！」

絵里 「させないわよ」ガシツ

ことり 「絵里ちゃん離して!!!あれがないと！」

絵里 「いやいやだめよ飛行機9時からなんでしょ？もうぎりぎりじゃない。」

ことり 「そんなのどうでもいい」

ツバサ 「??」↑状況が分からない

絵里 「いいじゃない、代わりにシーサーを枕替わりにでもしたら。ほら行くわよ！へいタクシ〜！」

ことり 「うわ〜ん、シーサーは枕じゃないよお〜」

ツバサ 「……………不安しかないわね。」

ツバサ 「……………ま、沖縄旅行だもんね、きつと楽しい旅行になるわね♪」
 ↳それよりも3時間前↳

海末 「さ、3人とも今から成田空港に向かいますよ！」

希 「いや、なんで歩きで成田まで行くねん……………」

凜 「朝の5時から成田まで歩きとか……………というより昨日の疲れが……………」

穂乃果 「穂乃果も……………ぎりぎりまでバイトしてたもんね。」

海末 「仕方がないでしょう、お金がかつかつたんですから。それに今回沖縄に行きたいと言いだしたのはあなた達でしょう。」

希 「いや、かといって毎日練習後に引つ越しのバイトはきつすぎるわ……………」

凜 「本当に、というかなんで引つ越しのバイトだったの？」

海末 「短期間で今回の旅行費を稼ぐにはそれしかなかったんですからしょうがないでしょう。」

海未 「それに引越しのバイトはいいトレーニングにもなりましたからね！」

希 「トレーニングで・・・こちらは何を目指してるんや。」

穂乃果 「それより、今回ってアクアの人たちも来るんだよね?」

希 「うん、梨子ちゃんと果南ちゃんとルビィちゃん、曜ちゃん来るはず。」

穂乃果 「へへ、そうだよね／＼」

希 「・・・梨子ちゃん目的か、完全にレズ化してるやん」

凜 「穂乃果ちゃんそれで今回来たいって言い出したのか・・・」

希 「それにしても海未ちゃんも来たいって言い出したんは意外やったな」

凜 「確かに」

海未 「この夏休みという部活の練習をするにはうってつけの貴重な時期に旅行に行くと言いだしたことりと絵里に厳しいお仕置が必要かと思ひましてね。」

希 「・・・さいですか。」

凜 「・・・どんまい絵里ちゃん、ことりちゃん。」

海未 「はい、無駄話はこちらまでにして早速成田まで行きますよー！」

3人 「・・・へーい」

第2話 千歌 「沖繩に出発だよ!!」

沖繩旅行編1話の続きです。

〈沖繩旅行2週間前〉

理亜 「はあ、夏休みだっというのに、毎日練習してご飯食べて寝るだけなんて・・・。」

聖良 「それならまたアクアの人たちと遊んで来た方がいいじゃない。」

理亜 「・・・もうアクアは嫌よ。特にルビイは。」

聖良 「え?ルビイちゃんとは一番の仲良しだったんじゃないの?」

理亜 「・・・。」

聖良 「・・・何があったのかしら」

ピコンッ♪

理亜 「ん?」

聖良 「あら、理亜のスマホじゃない?ラインでしよう?」

理亜 「・・・そっか、今のラインの通知音だっけ、ラインなんて誰からも来ないから忘れてたわ。」

聖良 「・・・そう。」

理亜 「どうせまた、広告のラインでしょ？分かってるんだから・・・って、えっ!!」

聖良 「どうしたの？」

理亜 「姉さま・・・私、私沖繩にいくわっ!!」

聖良 「え、沖繩?? どうしたのいきなり？真逆じゃないの・・・。」

理亜 「ほらっ、これ!!」キラキラ

ルビィ 『理亜ちゃん! 2週間後から4泊5日の沖繩旅行に行かない? この前は

ギスギスしちゃったから、この旅行で仲直りして、一緒に楽しみたいなくって♪』

聖良 「そ、そう。いいんじゃないかしら? (さっきまで嫌いって言ってたの

に・・・)」

理亜 「よろし、色々準備しなきゃね!」

聖良 「でも、お金は大丈夫なの? 4泊5日となるとまあまあかかると思うけど?」

理亜 「私、友達いないからお金あまり使わなくて結構貯金あるのよ! 足りない分

はバイトするわっ!」

聖良 「・・・そう、楽しんできてね? (将来が不安ね・・・)」

理亜 「うんっ!!」

くアクアサイドく

ルビィ 「ね？ 行けたでしょ？w」

曜 「速攻で既読がついて、10秒で行くって返事してきたね・・・。」

果南 「すごいね、日本縦断の判断を10秒でw」

梨子 「いいじゃない、人が多いほうが旅行は楽しいわよ！」

曜 「確かにそうだね！いやゝ楽しみだなゝ沖繩！」

果南 「そうだよ！沖繩だよ！いやゝ、きつと海もすごく綺麗なんだろうねゝ」

曜 「ね！絶対ダイビングしようね！」

果南 「もちろんっ！」

ルビィ 「・・・この二人と行って体力が持つかな。まあ、梨子ちゃんがいるし。」

梨子 「・・・じゃあ、私たちは二人でゆつくりと語り合いますようか／＼」

ルビィ 「・・・うゆ（全員アウトじゃん・・・理亜ちゃん呼んで良かった）」

果南 「誘ってくれたミュージズの人たちには感謝だね！」

曜 「花丸ちゃんと鞠莉ちゃんは残念だったけどね・・・。」

ルビィ 「まあ、家の用事じゃしょうがないよ。」

梨子 「でも、これはどういう意味なのかしら??」

希 『例の6人には絶対に内緒でお願いますm（ ）m』↑ライン

曜 「さあ？向こうでいきなり現れてサプライズとかじゃない？」

果南 「そうだね、千歌たちも驚くだろうねw」

ルビィ (……いや、絶対何かもつとすごいことを企んでと思うけど。)
く2週間後く

善子 「……時は満ちた。」

ダイヤ 「……そう、ようやく、ようやく」

千歌 「沖繩旅行だあつ!!」

3人 「いえ〜いつ!!」

千歌 「いやあく恥ずかしながら昨日は楽しみすぎて全然眠れなかったよ」

善子 「それは流石に子供すぎるでしょ……」

ダイヤ 「……そうですわよ千歌さん(私も全然眠れなかったですけど)」

千歌 「えく、だって沖繩だよ、沖繩〜!嫌でもテンション上がっちゃうよ!」

ダイヤ 「まあ、確かに楽しみですわ、なにせあのえりくちかと5日間も一緒に入れるのですからっ!」

千歌 「私もミューズとアライズの人たちと旅行できる日が来るとは思わなかった

よ〜」

ダイヤ 「本当に……、夢のようですわ〜」

千歌 「本当、あの王様ゲームを乗り越えてよかった……」

ダイア 「ちなみにあのせいで私は一生たこ焼きを食べないと誓いましたわ……。」

善子 「たこ焼きって？何があつたのよ。」

千歌 「まあ色々あつたんだよ……。」

ダイヤ 「でも今回ルビイが私を羨ましがつていなかったのが気になりますわね。前の王様ゲームに私だけが行くことになった時は、この世の終わりのような顔をしてましたの。」

善子 「前の王様ゲーム見てちよつとミューズから距離置こうって思つたんじゃないの？」

ダイヤ 「あり得ませんわ、私達姉妹のミューズに対する愛はその程度ではありません！」

善子 「あ、そう。知らないけど。」

千歌 「確か今日は曜ちゃん、梨子ちゃん、果南ちゃん、ルビイちゃんで遊ぶつて言つてたからそれでじゃない？それはそれで楽しそうだし。」

ダイヤ 「……ふむ、そうですね、考えすぎですわね。」

千歌 「……ところで善子ちゃん、その恰好で行く気？」

善子 「当然じゃない！沖繩だろうがどこだろうが墮天使ヨハネはヨハネなのよ！

あと善子じゃなくてヨハネっ！」

ダイヤ 「いや、流石に墮天使衣装では暑いでしょう……。ていうか既に汗だらだらじゃないですか。」

善子 「いいの！私はこれがいいの！」

千歌 「まあ、別にいいけど……」

ダイヤ 「では、早速空港に向かいますでしょうか！」

2人 「おー!!」

く沖繩（那覇空港）く

千歌 「とうちゃくく!!」

ダイヤ 「いよいよ始まりますのね、青春の1ページが……」

善子 「すごい人ね……」

千歌 「えくと、確かこのあたりが集合場所だったんだよね、あつ、いた!!」

千歌 「みんな、行こう!!」

ダイヤ 「はい！行きましょう!!」

善子 「あ、ちよ、人込みで、待ってよお」

く10分前 同じく沖繩（那覇空港）く

希 「ふう、飛行機で寝たから多少体力は回復したな！」

凜 「うん、空港まで遠すぎて死ぬかと思ったけどね！」

穂乃果 「アクアの人たちは・・・まだ来てないね」 シュン

海未 「さあ、休んでる暇はありませんよ！早速準備にかかりますよ！」

他 「おー!!」

つづく

第3話 悪夢の幕開け

沖縄旅行編第2話の続きです

ことり 「わく、ついに来たね沖縄！」

絵里 「テンション上がってきたわ！」

ツバサ 「とうとう手ぶらで沖縄に来てしまったわ……。」

真姫 「なんで私まで沖縄に……。」

千歌 「おういつ、みなさくん！」

ことり 「あ、千歌ちゃん！2週間ぶりだね！」

千歌 「はい！こんにちは、ミューズの皆さん！と、ツバサさん！」

善子 「どうも、こんにちは。」

ダイヤ 「こんにちはですわ〜！」

絵里 「久しぶりね皆！」

真姫 「……久しぶりね。」

ツバサ 「……こんにちは。」

千歌 「ツバサさん、なんだかテンション低いですね、何かあったんですか？」

ツバサ 「・・・この旅行に行くことを知らされたのが今朝なのよ。」

善子 「どういうことw」

ツバサ 「そのままの意味よ、それで手ぶらで沖縄まで来る羽目になったのよ・・・。」

ダイヤ 「それで何も持ってないんですのねww」

千歌 「どうしてそんなことに？w」

ことり 「・・・てへぺろ♡」

千歌 「ことりさんの仕業かww」

ダイヤ 「ん？そういえばなぜ真姫さんがここにいらっしやるのですか？」

真姫 「・・・私が聞きたいわよ。今朝いきなり呼ばれたのよ、ことりに。」

ことり 「・・・てへぺろ♡」

千歌 「wwwwww」

善子 「・・・この旅行中ことりさんにはできるだけ近づかないでおこう。」

真姫 「まあ、私は着替えとかは一応持ってこれたからツバサさんよりはまじだけ

どね。」

ツバサ 「・・・。」

ダイヤ 「・・・ふw、それよりこれからどうするのですか？」

ことり 「えーと、確かこの先のところに集合のはず。そこからはガイドさんが案内

してくれるんだってー！」

絵里 「じゃあ早速行きませうか。」

千歌 「行きませう！」

　　5分後

ダイヤ 「……あの、本当にここなんですか？」

ことり 「……うん、そのはずだけ。」

真姫 「……何よこの看板。」

看板 「ここで待て!!」

善子 「……これどこかで見ただことあるんだけど。」

千歌 「……年末のやつだよ、これ。」

ツバサ 「……ああ、もう嫌な予感しかしない。」

絵里 「ん？何かおかしいの??」

??? 「おい。」

ことり 「ん？この声って……」

希 「やくやく、皆さんこんにちは！」

ことり 「やっぱり……。」

絵里 「え？なんで希がここに??」

ツバサ 「……。」 ↑何となく察した

千歌 「え？状況が全く分からないのだ。」

ダイヤ 「……これはいつたい。」

希 「まあまあ、皆さんが混乱するのも無理ないわ。」

希 「というところで今から説明していくな！」

他 「……。」

希 「まず前の王様ゲームですが、皆さん覚えてますか？」

絵里 「そりゃあ、ね……。」

ダイヤ 「忘れる訳ありませんわよ。」

希 「そりゃ結構。じゃあ結論から言うけど、みんな……笑いすぎや。」

真姫 「いや、希も大概でしょ。」

千歌 「確かにw」

希 「……でな？確かにアイドルにとって笑顔は大切やけど節度ある笑顔を保つてもらうために今回の旅行中に特訓をしてもらおうと思っただけや。」

他 「……。」

希 「はい!!というわけで今から絶対に笑ってはいけない、沖縄旅行編の始まり

で〜す!!」

ことり 「いやいやいや、この旅行はことりが懸賞で当てたちゃんとしたやつだよ??
そんな企画おかしいよ!」

希 「今回のその旅行会社ですが、小原グループの子会社になります。後はわかるよな?」

ことり 「・・・そんな」orz

千歌 「小原家がバックにいるんだ・・・ガチじゃん。」

善子 「・・・帰りたくなってきた。」

ダイヤ 「笑ったらいけない旅行って・・・。」

希 「じゃあルール説明していくで!!」

希 「今から24時間は何があっても笑ってはいけません。笑った場合はその場できつい罰を受けてもらいます。以上。」

千歌 「あ、一応24時間なんだね。この4泊5日中だったらどうしようと思ったよ。」

希 「2週間しかなかったの、そんな長時間分の準備してる暇ありません。」

ことり 「じゃあ、1日耐えれば、後は自由なんだね。」

ツバサ 「・・・まあそう思えばまだましかしら。」

希 「はい!というわけで、早速バスで移動します。皆さんこちらにどうぞ!」

くバス停く

希 「じゃあこのバスに乗ったらスタートやでっ！」

ツバサ 「本家だとこの時点で服装を着替えたりしてるわよね？」

善子 「確かに……。」

希 「何せ2週間しかなかったからな、衣装とか用意できへんわ。」

ダイヤ 「そうですね……。」

千歌 「……覚悟を決めるしかないね。」

真姫 「……はあ、馬鹿馬鹿しい。」

希 （……そういえば何で真姫ちゃんおるんやろ。）

ことり 「まあまあ、一日だけだからね。じゃあ乗りまくす！」

く絶対には笑ってはいけない 沖縄旅行編スタート!!く

ことり 「はく、始まつちやつたか……ん？」

他 「……。」

ことり 「え……何でみんなバスに乗らないの??」

他 「……。」

ことり 「……ねえ。」

他 「……。」

ことり 「……ふww もうww」

デデン 南OUT

黒い人 「……。」タッタッタ

ことり 「え、嘘っ！こんなものってありなの？」

バシッソッ

ことり 「……痛い。」

千歌 「……うわあ、まじだね。」

絵里 「え、何あれ、お尻思い切り叩かれてたけど……。」

ツバサ 「絵里さん、笑ってはいけない知らないの？」

ダイヤ 「これこそアイドルからかけ離れていると思えますが……。」

ことり 「もう、みんな酷いよ。」

千歌 「あはは、何となくww」

真姫 「突然だけど、希の物真似するわ。」

ことり 「え？」

真姫 「カードがウチにそう……告げるんやっ!!」ドヤッ

他 「……。」

ことり 「……。」

真姫 「……………」ドヤアッ

ことり 「……………」

真姫 「……………」ドヤヤアッ

ことり 「……………」ふww

デデッソ 南OUT

ことり 「もうっ、真姫ちゃん!!……………」ああっ!」バシッソ

千歌 「どうしたんですか急にww」

真姫 「何となく、ね。」ドヤッ

ツバサ (多分だけど、ことりさんに恨みがあるからじゃないかしら……………」急に呼ばれ

たから……………」

善子 (これ身内からも攻撃来るの……………?)

希 「……………」

ダイヤ (……………」真姫さん、あんな一面もありましたのね)

ことり 「いきなり2発も……………」酷いよ、痛いし。」

千歌 「ふwまあ、流石に乗らないと進まないし、乗ろう。」

ダイヤ 「……………」まあ、そうですわね。」

ゾロゾロ ↑ 全員バスに乗り込み笑ってはいけない全員スタット

ことり 「もう、みんなずるいよっ！」

千歌 「あはは、すみません。」↑ルールを忘れて普通に笑う千歌

他 「あっ」↑指摘するメンバー

千歌 「あ」

デデーン 高海OUT

千歌 「そんな全員で指差さなくてもw・・・っ！」バシーンツ

千歌 「・・・くう、これ結構痛いのだ。」

ダイヤ 「油断するところなりますのね・・・。」

善子 「まだ、始まったばかりなのに普通油断する？」

ツバサ 「・・・意地でも笑わないわよ。」

希 「・・・まだ何もしてないのにw」

つづく

第4話 恐怖のバスツアー開始

第3話の続きです。

「悪夢の絶対には笑ってはいけませんが始まって5分」

真姫 「とにかくこんな馬鹿げたことはみんなで協力して乗り越えるしかないわね。」

ダイヤ 「その通りですわね、協力しましょう。」

ことり 「真っ先にことりを笑かしにきたくせに……。」

千歌 「まあ協力は大切でsっ！」 ↑何かに気付く千歌

千歌 「……。」

千歌 「……あの、ことりさん。」

ことり 「ん？ どうしたの千歌ちゃん？」

千歌 「……一番後ろに座ってる人見てください。」

ことり 「え？ 後ろ？……ふふふwww」

絵里 「ん？ どうしたの？……っ！」

ダイヤ 「……くっwww」

海未 「……………」↑一番後ろの席で腕組みして無言で座っている海未
 デデゥン 南、黒澤、綾瀬OUT↓

ことり 「海未ちゃんww いつの間にww」バシーンツ

絵里 「ちよつと、今の私アウトなの？ 痛いっ！」バシーンツ

ダイヤ 「もう！千歌さんっ！協力するって言った途端にっ！いつっ！」バシーンツ

千歌 「……………」

ツバサ 「…………全然気づかなかったわね。(…………危なかつたわ)」

善子 「ていうか、どこ見てるのかしら？ 腕組んでずつと虚空を見つめてるけ

ど……………」

真姫 「…………あんまり見ると危険ね。」

ダイヤ 「確かにそうですわね、もう後ろは見ませんわあ。」

ププツツ プシユッ ↑バス停止

ダイヤ 「…………ここから来ますわね、バスネタが。」

ことり 「うん、気を付けていかないとね。」

子供1 「でき、昨日の帰り道さwwww」

子供2 「まじかよww」

騒がしい子供二人組が乗車↓

子供1 「はははwww お前それはあほすぎるだろwww」

子供2 「うるせえww いいじゃねえかwww」

他 「……。」

子供2 「ははwwでもさあ「ちよつとそこの二人っ!!」

他 「!?!」

理亜 「バスの中では静かにしなさいっ!!」

他 「wwwwwwwww」

デブソン 全員OUT

真姫 「海未以外にもバスにいたなんてwww」バシーンッ

千歌 「確かにwww 完全に油断してたww」バシーンッ

ことり 「もうwww 早くもお尻が痛くなってきたよお、痛いつ!!」バシーンッ

善子 「ふwww 沖縄までわざわざ来たんだww」バシーンッ

ツバサ 「海未さんは耐えたのにww」バシーンッ

理亜 「その二人っ!バスの中では静かにするなんて常識よっ!」

ダイヤ 「……注意してる理亜さんが一番うるさいですけどね」ボソッ

ことり 「……ふっ、もう!そういう指摘はいらぬよお。」

理亜 「聞いているの二人とも!」

子供 「……」

理亜 「ちよつと、ちゃんと話をきk」でさくwww」

理亜 「え？」

不良1 「お前、それはだめだろwww」

不良2 「いいじゃんwww 気にしたら負けだろwww」

く不良の高校生二人組が乗車く

不良1 「ははwまあなつて、おい！ たかしじゃねえか！」

不良2 「ん？ ああ、お前の弟か。どうしたんだ？」

子供1 「……なんか、この女の人が僕たちに絡んできたの。」

子供2 「うん、僕たち何もしてないのに！」

理亜 「え、ちよ……、台本にこんな展開なかった……」オロオロ

ことり 「ふつww」

ダイヤ 「……ふふww」

不良1 「おいいつ!! 女あ!! それは本当かあ!!!」

理亜 「ひつ、いや、私も好きでしたんじや……」

不良2 「ああああつ??」

理亜 「いや、その……私も何が何だか……」ボソボソ

不良1 「なくに、ボソボソ言ってるんだあっ!!聞こえねえぞお!!」

不良2 「そうだからっ!! もつと腹から声だせやあっ!!」

理亜 「耳元で叫ばないでええええええ!!!!」

他 「w w w w w w w w w w」

ダイヤ 「く w w w w ふうふう w w w 理亜さん w w w」

千歌 「こんなの反則だよ w w w」

ことり 「吹っ切れた w w w w w」

善子 「w w w w w」

ツバサ 「可哀想 w w w」

不良1 「お前喧嘩売ってるのか?? 俺の弟に絡んでおいて何言ってるんだよ??」

理亜 「違うわよっ!! バスの中でずっと大声でしゃべってたから注意しただけよ

!

不良2 「おいおい本当かよ?」

不良1 「ん? ちようど真向いの席に人が座ってるじゃねえか。」

「ことり達7人に意識が向けられる」

他 「.....」

不良1 「おいっ、そのオレンジっぽい女あ!」

千歌 「え・・・私？」

ことり 「ふｗｗ オレンジっぽい女ｗｗ」

善子 「・・・ｗｗ」

不良1 「そうだ、おい本当にこいつは俺の弟に注意してただけなのか？」

千歌 「いいえ、完全にその女が子供たちに絡んでました！」キツパリ

他 「ｗｗｗｗｗｗｗｗ」

理亜 「」

真姫 「迷う余地なしｗｗ」

絵里 「その女ｗｗ」

ツバサ 「最早清々しいわねｗｗ」

ダイヤ 「理亜さんに何か恨みでもあるのですかｗｗ」

不良1 「・・・だそうだ、これで完全にお前が悪いこと決定だなあ??」

理亜 「・・・もう絶対アクアとは関わらないわ。」

絵里 「それはそうなるわよｗｗ」

ことり 「ｗｗｗｗ」

不良2 「何訳の分からないこと言ってるんだあ！」

不良1 「大体何で、北海道からはるばる沖繩まで来てんだこらっ!!暇人かてめえは

!

理亜 「それは関係ないでしょっ!!」

他 「wwwwww」

ことり 「もwwwwもうだめwwwwスタートでこんなに笑ってたらことり死んじやう

ww」

千歌 「面白すぎるwwww」

不良1 「もういい！ てめえこっち来い！ けじめつけてやらあっ!!」

理亜 「ちよ、胸倉つかむのやめ、ちよ、ほんと、分かったから！ 行くから、本当に

離してっ!! ああああ!!」

他 「wwwwwwww」

デデゥン 全員OUT」

ことり 「こんなの笑うに決まってるよwwww」バシーンッ

千歌 「全部終わってからOUTになるパターンで助かったww」バシーンッ

善子 「理亜、どうなるのかしらww」バシーンッ

ツバサ 「仕掛ける側も相当地獄ねww」バシーンッ

真姫 「最初からこんなんじや最後まで持たないわよwwww」バシーンッ

絵里 「理亜さんwwいいキャラしてるわねww」バシーンッ

ダイヤ 「理亜さんw w w本当に同情しますわw w」バシーンツ
プシュッ ププッ ↑バス発車

千歌 「結局、あの人たち全員降りていったし何のための停車だったんだろう……。」

ツバサ 「まあ、こういうもんよね、バスネタは……。」

善子 「これでまだ、最初の仕掛けなのよね……。」

ことり 「……それにしてもことり叩かれすぎじゃない?」

真姫 「ことりは笑い上戸すぎるのよ。」

ことり 「……これはことりも本気で行くしかないね!」

希 「……ふw まだまだ仕掛けは続くでw 覚悟しときやw」

つづく

第5話 恐怖のバスツアー PART 2

第4話の続きです。

開始から20分経過後

ことり 「うーん、お尻が痛いよお」

真姫 「流石に早すぎるわよ、まだ30分も経ってないわよ?」

絵里 「でも確かにこの笑ってはいけないはことりと相性が悪そうね・・・。」

ダイヤ 「ことりさん流石に笑いすぎですわあ。」

真姫 「そうね、例えばこうやってこちよこちよししたら大笑いするものね?」こちよ

こちよこちよ・・・

ことり 「あははははwww ちよつとやめてよww 真姫ちゃん!!!」

千歌 「・・・くっwww」

デデーン 南、高海OUT

ことり 「もうwww くすぐられたら誰でも笑うよwww」バシーンッ

千歌 「くう、巻き込まれた・・・w。」バシーンッ

真姫 「・・・。」

善子 「何気に千歌も結構笑ってるわよね？」

千歌 「・・・うん、千歌こういう空気にも弱いのかも。」

ププツ プシュ ↑バス停止

ダイヤ 「来ましたわね・・・。」

絵里 「ええ・・・。」

おばあさん 「・・・。」トボトボ

く足腰の弱そうなおばあさんが乗車く

千歌 「あ、おばあさん大丈夫ですか?? 席までついていきますよ??」

おばあさん 「・・・。」トボトボ ↑無視

善子 「・・・ふｗｗｗｗ」

ことり 「ふふふｗｗｗｗ」

絵里 「・・・ぐつ。」↑何とか耐えた

千歌 「・・・。」

デデーン 津島、南OUTく

ことり 「もうだめ、何が来ても笑っちゃうｗｗｗｗ」バシーンツ

善子 「千歌も余計なこと言わなくていいのよw」バシーンツ

千歌 「・・・今の千歌が悪いの?」

おばあさん 「……………」トボトボ ↑なぜか7人の前まで歩いてくるおばあさん
他 「……………」

おばあさん 「……………」ピタツ ↑絵里の前で立ち止まるおばあさん

絵里 「……………」

おばあさん 「……………」

絵里 「…………あの、席いっぱい空いてますよ?」

おばあさん 「……………」↑ 無視

絵里 「……………」

ことり 「…………くつ、ふう、ふう。」↑ 必死に笑いを堪えてる

ダイヤ 「ちよつと、ことりさん、そのふうふう言うのやめてください。」

絵里 「…………えくと、立ってるの辛そうだし座ったらどうでしょうか?」

おばあさん 「……………」

ことり 「はあ、はあ、はあ、ふう〜ふつ。」↑ 笑いを堪えすぎて息継ぎが変になっ
てきた

ダイヤ 「…………くつ! (ことりさん本当に勘弁して下さいww)」

絵里 「あの、おばあさん? 目の前でそんな辛そうに立たれるとこっちも気まず
いので……………」

おばあさん 「……………」。

絵里 「……………」。

絵里 「……………どうしたらいいですか?？」

ことり 「はっwwww 絵里ちゃんwwww なんでそんなに食い下がるのおwwww」

真姫 「そうよwwww いいじゃない、放っておいたらwwww」

千歌 「だめだwwww 笑っちゃうwwww」

ダイヤ 「もう! ことりさんが変な感じに笑いを耐えるからwwww」

デデン 南、西木野、高海、黒澤 OUT

ことり 「もうww 早く自由になりたいwwww」バシーンツ

真姫 「本当にwwww」バシーンツ

千歌 「そういえば、こういうおばあさんとか、どうやって集めたんだろうw」バ

シーンツ

ダイヤ 「ことりさん! 次から変に我慢しないでくださいよ!」バシーンツ

ことり 「え、そんな変な感じになってた?？」

ツバサ 「すごかったわよ? ふう、ふう、ふう、ふうっwwwwってwwww感じでwwww↑

途中で面白くなり笑ってしまうツバサ

ことり 「ツバサさんww 途中で笑わないで下さいよwwww」

千歌 「ｗｗｗｗｗｗ」

真姫 「……」ギョッ ↑足をつねり笑いを堪えてる

デデッソ 綺羅、南、高海OUTッ

ことり 「ことり、1分にも一回ぐらい叩かれてる気がするｗｗ」バシーンッ

千歌 「千歌も同じくらい叩かれてる気がするｗｗ」バシーンッ

ツバサ 「く、変に物真似なんてしなかったら良かったわ」バシーンッ

希 「なんでみんなこんな身内で潰しあってんねんｗｗ」

海未 「そこの金髪っ!!」

他 「!?!」ビクッ

海未 「何を考えているのですか!!」

ことり 「来た、海未ちゃんw」

善子 「まあ、ただ座ってるだけなんてないと思っただけ。」

絵里 「え、金髪って私よね？」

真姫 「他に誰がいるのよw」

海未 「何を考えているのですか!!」ズカズカ ↑絵里に詰め寄る海未

絵里 「え、え? 何のこと??」

海未 「とぼけるんじゃないやありません!!立ってるのが辛そうなおばあさんが目の前に

いたら、席を譲るのが人情っていうものでしょう!!」

絵里 「いやいやいやいやいや、いっぱい席空いてるじゃない!!」

海未 「さあ、大丈夫ですか、おばあさん? こっちの席までどうぞ。」

おばあちゃん 「すまないねえ。」

絵里 「ちよつと、何がすまないのよお!! 私何度も言ったじゃない!! 何度もおお

!! ていうか喋れたのお??」

他 「wwwwwwww」

ことり 「もうww 絵里ちゃん叫ぶのやめてww」

真姫 「そよww 荒ぶらないでよww」

千歌 「こんなのどうやっても我慢できないww」

善子 「wwwwww」

※既に笑いましたが最後までお楽しみください

海未 「・・・さて、それじゃあ今から金髪に根性注入ピンタをします。」

絵里 「ちよつと待って!! おかしいわっ!! 全部!!」

千歌 「ふwwww 海未さんは蝶○さんポジションなんだねwwww」

ツバサ 「絵里さんwwww 頑張ってwwww」

海未 「問答無用!! 行きますよっ!!」

絵里 「させないわあっ!!」 ↑必死に頬つぺたを守る絵里

海未 「・・・ふんっ」 ドゴツ ↑腹パンした音

絵里 「ぶっつ!!! くっ、ふ、く、ふう〜。」 ↑崩れ落ちる絵里

他 「wwwwwwww」

千歌 「あははははwwwwこんなの反則だよwwww」

ことり 「ひっwwww死んwwww死んじやうwwww」

ダイヤ 「無防備なお腹にパンチが突き刺さりましたわねwwwwww」

真姫 「ビンタから腹パンに躊躇なく変更したわねwwww」

ツバサ 「絵里さんwwww 大丈夫かしらwwww 変な声出てたけどwwww」

善子 「恐ろしいwwwwww」

絵里 「」

デデーン 綾瀬以外OUT

ことり 「ふふふwwww まあOUTでいいけどwwww」 バシーンツ

ダイヤ 「まあ、一回で済んでむしろ良かったですわね。」 バシーンツ

ツバサ 「絵里さんが可哀想すぎるわねwwww」 バシーンツ

海未 「それでは私は行きます! おばあさん、行きますよ?」

おばあさん 「はいよ〜。」

く海未&おばあさんバスから降車く

千歌 「相変わらず何でバスに乗るのかわからないね・・・。」

善子 「このバスネタいつまで続くのよ・・・。」

ことり 「本当に・・・早くバスから降りたいよおく」

希 「まだバスネタは終わらんねんなくww」

絵里 「」

つづく

第6話 恐怖のバスツアー PART 3

第5話の続きです。

開始から30分経過

絵里 「ひどい目にあつたわ・・・。」

ツバサ 「思い切り腹パンされてたものね。」

絵里 「本当に、お腹に穴が空いたかと思つたわ。」

ことり 「・・・それにしてもいつまでバスツアー続くんだろうね？」

ダイヤ 「いい加減早く降りたいですわねえ。」

絵里 「・・・さつき腹パンくらつた時、お腹に穴が空いたかと思つたわ。」

他 「・・・・・・・・・・。」

絵里 「・・・・・・・・。」

善子 「・・・他に誰が仕掛け人でいるのかしらね？」

真姫 「そういえばそうね。さすがにこれだけでは、ないでしょうね。」

絵里 「ねえねえ千歌ちゃん。私のお腹に穴空いてない??」

千歌 「・・・・・・・・ぐぶっw」

絵里 「wwwwww」

デデン 綾瀬、高海OUT

千歌 「もうwww しつこいですよお!! ww」バシーンツ

絵里 「ぐぷつてwwwこつちまで巻き込まれたww」バシーンツ

真姫 (・・・馬鹿ね)

ことり 「・・・希ちゃん、いつ到着するの？」

希 「・・・。」

善子 「・・・完全に無視ね。」

ことり 「・・・ふっ。」

ププツツ プシユッ ↑バス停車

他 「・・・。」

曜 「いや、今日は晴れてよかったね！ ルビィちゃん！」

ルビィ 「うん♪ そうだね！」

く曜とルビィ乗車

善子 (・・・やっぱりアクアもいたか)

ことり (今度はアクアの人たちだね・・・)

千歌 「・・・。」

曜 「最高のピクニック日和だね！」

ルビィ 「うん♪」

善子 「・・・このクソ暑い中ピクニックって。どうかしてるんじゃない？」

ことり 「うふっ・・・、善子ちゃんそういうツツコミはやめて。」

善子 「ヨハネよ。」

曜 「今日は、ルビィちゃんがお弁当を作ってきてくれるって言ったから、朝も抜いてきたんだ〜、もうお腹ペ〜ぺこだよ〜。」

ルビィ 「えっ、そうだったの？ ・・・じゃあここで少し食べる??」

曜 「いいのっ!？」

ルビィ 「うん♪ じゃあちよつと待ってね。」ゴソゴソ

他 「・・・。」

曜 「何を作ってきたか楽しみだな〜」

ルビィ 「ふふふ、今日のはちよつと自信作なんだ。はい、このお弁当だよ！」

曜 「おおっ、なかなか大きいね！ ・・・それで肝心の中身は何ですか??」

ルビィ 「えへへ、それはね、これだよっ!!」パカッ

〜弁当の中身は熱々のおでん〜

曜 「・・・え、それって・・・おでんじゃ。」↑おでんとは知らされてなかつ

た

ことり 「w w w w w」

千歌 「w w w w w」

ダイヤ 「・・・ふw。」

他 「・・・。。。」

デデッン 南、高海、黒澤OUT

ことり 「すごい湯気だねw w w」バシーンッ

千歌 「曜ちゃん、素の反応しないでよw w w」バシーンッ

ダイヤ 「ちよつと、今の私アウトですの?? 痛いっ。」バシーンッ

真姫 「・・・普通に笑ってたわよ?」

ダイヤ 「ほ・ん・と・う・で・す・の・??」ズイッ

真姫 「w w w w w」

ツバサ 「w w w w w」

デデッン 西木野、綺羅OUT

真姫 「もうw 急に詰めてこないでよw w」バシーンッ

ツバサ 「せつかくおでんには耐えたのにw w」バシーンッ

ダイヤ (w w w w w)

曜 「あの・・・ルビイちゃん?? 何でおでん??」

ルビイ 「うゆ?? おでんおいしいよ??」

曜 「いや、そうかもしれないけど・・・。」

ルビイ 「じゃあ、ルビイがあくんしてあげるね。」

曜 「え、いや自分で食べるよ?」

ルビイ 「はい、あくん」↑熱々の卵を曜にあくんするルビイ

曜 「いや、え、それ絶対熱いよね?」

ルビイ 「え・・・ルビイが作ったおでん、食べてくれないの??」ウルウル

曜 「だって、火傷するし・・・。」

ルビイ 「・・・。」

デデッソ 渡辺 O U T

曜 「・・・は?」

他 「wwwwwwww」

デデッソ 全員 O U T

曜 「ちよつと、意味がわからないよ! 痛いつ!」バシーンッ

千歌 「きつと、曜ちゃんが中々卵を食べないからだよwwww」バシーンッ

ダイヤ 「まさか仕掛け側にもwwww」バシーンッ

ツバサ 「何が何でも卵を食べさせる気ねww」バシーンッ

ルビィ 「はい、曜ちゃん。あゝん・・・w」

曜 「ちよ、ちよつと、こんなのおかしいよ！ルビィちゃん笑ってるし！」

千歌 「・・・くw、お願いだから早く食べて、曜ちゃん。」

ことり 「・・・。。」プルプル↑必死に笑いを堪えてる

善子 「曜？ 食べない限りたぶん終わらないわよ？」

曜 「・・・そんなこと言われても。」

デデーン 渡辺 O U T っ

曜 「」

千歌 「くふふふwww」

ツバサ 「www」

デデーン 高海、綺羅 O U T っ

曜 「こんなことって・・・」バシーンッ

千歌 「曜ちゃんwww 気持ちわかるけどお願いだから食べてww」バシー

ンッ

ツバサ 「恐ろしいwww」バシーンッ

ルビィ 「曜ちゃん♪ はい、あゝん♪」

曜 「……あくん。」↑諦めた

くルビイの持つ箸に挟まれた卵が曜の口内に入ったその瞬間く

曜 「つつつつつ?!?!」ポンツ!!↑勢いよく射出される卵

全員 「wwwwwwww」

デデーン 全員 O U T

ことり 「あははははwwww こうなるって分かってたけどwwww」バシーンツ

千歌 「こつちに飛んできたwwww 汚いよww」バシーンツ

善子 「ピッコロ大魔王みたいwwwwww」バシーンツ

ツバサ 「可哀想にwwww」バシーンツ

ルビイ 「wwwwww」

曜 「ごほごほつ、ひや、ひやけろひた……。」

ルビイ 「え? なんて?」

絵里 「くwwwwふふwwww」

真姫 「だめwwww」

ことり 「wwwwww」

曜 「……。。。」

デデーン 綾瀬、西木野、南 O U T

ことり 「もうww 早く終わってよww」バシーンッ

真姫 「聞き返し方ww 仮にも上級生なのにww」バシーンッ

絵里 「本当にww」バシーンッ

ルビィ 「じゃあ、早くピクニックにいこっか♪」

曜 「……。」

「ルビィと曜降車」

ツバサ 「……完全に曜さんの心が折れてたわね。」

千歌 「少なくともピクニックに行くテンションじゃなかったですね。」

ことり 「笑かすほうも捨て身で来るから恐ろしいね。」

真姫 「どちらかという捨て身で無理やり行かしてるって感じだけど……。」

善子 「というより、そこに転がってる卵は放っておいていいのかしら？」

絵里 「……流石に後で回収してくれるでしょ。」

希 「よしっ、みんなもうすぐ目的地につくでっ」

ツバサ 「やっつと、目的地なのね……。」

ことり 「助かったあ」

善子 「でも、まだ1時間も経ってないのよね……。」

希 「ふふふ、その通りや、まだまだ仕掛けは続くでっ」

つ
づ
く

第7話 レズ&カリスマフロント嬢登場

「開始から40分」

希 「よし、みんな到着やで！ 降りよか〜。」

ツバサ 「はあ、やっとバスネタが終わったわ……。」

ことり 「もう既にことりは限界……。」

千歌 「……私も〜」

希 「ほら、ぐちぐち言ってるやないで、降りた降りた。」

善子 「……ここってホテルよね？」

真姫 「本当ね、というか今更だけど今日の予定何も分からないわね。」

希 「ここはな〜、結構有名なホテルやねんで〜。」

絵里 「確かに見た目は綺麗で高級そうね。」

ことり 「……ここも色々仕掛けがあるんだよね。」

ツバサ 「……ええ、間違いなく。」

希 「おつ、あつち見てみ。ちようどうちら以外の旅行者の集団も来たようやな

〜、うちと一緒に綺麗なガイドさんが引き連れてるわ〜。」

梨子 「はい、皆さんこちらが本日宿泊するホテルになりますよ。」
 ↳ 梨子、集団旅行者のガイドとして登場

千歌 「つ……。(危ない、でも何回も同じ手はくならないよ。)」

ことり 「つw、コホツ、コホツ……。」↑咳で笑いを誤魔化してる

ダイヤ 「……アクアの人たちは全員来ているんですかね。」

善子 「あり得る話ね。」

ツバサ 「それにしても旅行者の人いっぱいいるわね。」

絵里 「確かに……ん？ ちょw w w w w」↑何かに気付いてしまった絵里

デデーン 綾瀬〜OUT〜

絵里 「ちよつとw w w、何でw w w」バシーンッ

ことり 「絵里ちゃん急にどうしたの??」

ダイヤ 「……梨子さんで笑ったわけでは無いですわよね？」

絵里 「いやw、あのw、集団の中にw」

ことり 「集団の中？ 何か変なことでも……ふw w w w w」

真姫 「もうw w w w w」

ツバサ 「w w w w w」

デデーン 南、綺羅、西木野、OUT〜

ツバサ 「これは笑ってしまうわねwww」バシーンッ

真姫 「梨子を耐えたからって油断してたわwww」バシーンッ

ことり 「亜里沙ちゃんまで仕掛け人なんだねwww」バシーンッ

亜里沙 「……………」

「集団旅行客の一人として亜里沙登場」

他 「??」↑亜里沙を知らないアクア

ことり 「…………亜里沙ちゃんには気付かなかったね。」

絵里 「ええ、金髪の子がいるな〜と思つたら妹だったわ。」

千歌 「へ〜、あの子が絵里さんの妹さんなんですわ〜。」

ダイヤ 「流石、えり〜ちかの妹さん！ とつても可愛いですわ〜」

真姫 「絵里は亜里沙と一緒に過ごしてるんでしょ？ 今日沖繩に来るような素ぶ

りはなかったの？」

絵里 「いえ、そんなそぶりはなかったと思うけれど……………」

ことり 「徹底してるんだね……………」

梨子 「みなさ〜んこちらですよ〜。」

亜里沙 「……………」フラフラ

「体調が悪そうにフラフラしている亜里沙」

絵里 「どうしたのかしら、様子がおかしいわね？」 オロオロ

真姫 「そういう演出でしょ。」

亜里沙 「つ・・・。」 バターンッ ↑倒れてしまう亜里沙

モブ 「大変だ！ 女の子が倒れたぞ！」

梨子 「なんですって!! すぐに人工呼吸よ!!」 ダッ

亜里沙 「え」

他 「wwwwwwww」

デブソン 全員 O U T

真姫 「人工呼吸までの判断が早すぎるわよwwwwww」 バシーンッ

善子 「どんなガイドよwwww」

ダイヤ 「亜里沙さん普通に驚いてますわwwww」 バシーンッ

千歌 「梨子ちゃん、ブレなさすぎだよwwww」 バシーンッ

絵里 「・・・亜里沙wwww」 バシーンッ

梨子 「さあ！ もう安心よ！ すぐに楽にしてあげるわ！」 ハアハア

亜里沙 「あの、もう治りました。」

梨子 「行くわよっ!!」 ムツチュウ

亜里沙 「わ、わあっ!? お、お姉ちゃん!!」

希 「よし、じゃあ、うちらは先中に行くで。」

千歌 「え、あれ放っておいていいんですか?」

希 「ほらっ、早く。時間は限られてるねんで?」

ことり 「ふw 亜里沙ちゃん頑張ってるね。」

絵里 「亜里沙、ごめんなさい。」

「みんなから見捨てられる亜里沙」

亜里沙 「え、そ、そんな、あ、ちよ、顔を近づけないでください!!」

梨子 「ふふふ、私からは逃げられないわよ?」ハアハア

「ホテルロビー」

ツバサ 「ひどい、現場だったわね。」

真姫 「さっきのはすぐに忘れたほうがいいわよ。」

千歌 「わく、中もすごく綺麗ですね〜!」

善子 「本当ね、純粹に旅行に來ただけならすごく嬉しいんだんけどね。」

希 「・・・ええなあ、こんなとこ泊まれて」ボソッ

ことり 「え、希ちゃん?」

希 「よし、あそこにフロントがあるから手続きだけしよか! このフロント

嬢はカリスマ性があるっていうので有名やねんで〜」

絵里 「ええ、行きましょう！」

ことり 「??」

千歌 「それにしても、中は他に誰もいないね・・・。」

善子 「さつき、有名ホテルって言ったのね。全然人気がないじゃない。」

ダイヤ 「その二人、そういうことを言っってはぶつぶつですわ。早くフロントにいきませよ！」

二人 「・・・はゝい。」

くホテル フロントへ

??? 「ようこそ、いらっしやいませ！」

ことり 「wwwwww」

絵里 「wwwwww」

真姫 「・・・っ。」

他 「??」

雪穂 「遠路はるばるようこそいらっしやいました！」

く雪穂がホテルのフロント嬢として登場へ

デデーン 南、綾瀬 O U Tへ

ことり 「雪穂ちゃん出ないのかなくとは思ってたけどねww」バシーンッ

絵里 「まさか、このタイミングとはねwww」

善子 「・・・誰？」

千歌 「・・・さあ？」

真姫 「穂乃果の妹よ、雪穂って言うの。」

ツバサ 「・・・なるほど、そう言われると似てるわね。」

ダイヤ 「色々な人が出てきますわね・・・。」

雪穂 「おや、おやおや、綺麗な方達ですね。」

他 「・・・。」

雪穂 「そのあなた、お名前は？」

ツバサ 「・・・え、私ですか。綺羅ツバサと言います。」

雪穂 「そっくり、とっても可愛いおでこね！」

ことり 「・・・ふっw」

ツバサ 「・・・ありがとうございます。」

雪穂 「デコピンしてもいい?？」

ツバサ 「だめですけど?？」

ことり 「ふふ、もうwww」

真姫 「www」

千歌 「くww」

デデゥン 南、西木野、高海、OUT

ことり 「雪穂ちゃん、そんなキャラじゃないのにww」バシーンツ

真姫 「この台本考えたの誰よww」バシーンツ

千歌 「ツバサさんも冷静に受け答えしないでくださいよww」バシーンツ

ツバサ 「……」

雪穂 「じゃあ、そのあなた！ お名前は??」

ことり 「……こほんつ、南ことりといいます。」

雪穂 「え？ ことり？ じゃあ親の名前はとりなの？ だから娘のあなたはこと

りってこと?！」

ことり 「ふふww ちww 違いますww。」

デデゥン 南、OUT

ことり 「もうww とりっていう名前なわけじゃないじゃんww」バシーンツ

善子 「この場面で相対いかれそうね……」

千歌 「うん、自分の番になったららと考えると恐ろしいね……」

雪穂 「じゃあ、次のあなたは??」

ダイヤ 「はい、私は黒澤ダイヤと申します。」

雪穂 「ええ!? えええ!!??
ダ・イ・ヤああ!!??」

ダイヤ 「wwwww」

ことり 「wwwww」

千歌 「・・・ぶつww」

善子 「・・・くつww」

デデッソ 黒澤、南、高海、津島、OUT

ダイヤ 「何なんですのww」バシーンッ

ことり 「もう内容云々抜きにしてこの感じの雪穂ちゃんがツボになっちゃったw

w」バシーンッ

千歌 「バスを降りても地獄は続くんだねww」バシーンッ

善子 「我慢できなかったww」バシーンッ

雪穂 「ダイヤって・・・、その名の通りキラキラネームじゃない・・・。」

ダイヤ 「ふっ・・・まあ、私はこの名前は気に入っているの。」

雪穂 「そう・・・就職活動の時、その名前で苦労しただけど頑張ってたね?」

ダイヤ 「・・・はい。」

ことり (wwwww)

ツバサ (穂乃果さんの妹さんも普段もこんな感じなのかしら・・・?)

雪穂 「じゃあ、次は・・・。」
つづく

第8話 カリスマフロント嬢PART 2

第7話の続きです。

雪穂 「次のあなた、お名前は？」

千歌 「はい！ 高海千歌と申します。」

雪穂 「好きな食べ物は何？」

千歌 「え？ 好きな食べ物？・・・みかんですかね。」

雪穂 「みかん？ バナナじゃなくてみかん??」

千歌 「・・・はい、バナナじゃなくてみかんです。」

ことり 「ふ・・・w」

雪穂 「でもバナナもおいしいわよ？」

千歌 「・・・まあ、そうですね。でも私はみかんの方が好きです。」

雪穂 「そう、でもね？ バナナってね？ とつても体にいいのよ？」

千歌 「ふっw・・・、まあ、はい。そうらしいですね。」

ことり 「・・・くくくw」

絵里 「・・・w」

デデーン 南、綾瀬、OUT

絵里 「何でそんなにバナナ推しなのww」バシーンッ

ことり 「ちよつとww 千歌ちゃんも笑つてたよww」バシーンッ

雪穂 「千歌さん、バナナは好き？」

千歌 「・・・ふ、まあ・・・はい好きですよ。」

雪穂 「みかんより？」

千歌 「みかんよりは下です。」

雪穂 「・・・そう。」

ことり 「ふふふwwww もうだめwwww」

真姫 「ふふwwww」

絵里 「www」

ダイヤ 「www」

デデーン 南、西木野、綾瀬、黒澤、OUT

真姫 「何なのよこのやりとりww」バシーンッ

ダイヤ 「面倒くさいからバナナ好きってことにしてくださいよww」バシーンッ

絵里 「何が面白いかわからないけど面白いww」バシーンッ

ことり 「wwwwww」バシーンッ

雪穂 「じゃあ次のあなた、名前は？」

真姫 「・・・西木野真姫です。」

雪穂 「あなた・・・とても可愛いわね。」ウツトリ

真姫 「つ・・・ありがとう、ございます。」

ことり 「・・・くくw」プルプル

千歌 「・・・ふ。」

雪穂 「とても可愛いからあなたただけあだ名を付けたくなくなっちゃたわ?」

雪穂 「・・・いいかしら?」ウツトリ

真姫 「・・・ふw、いい、ですけど、その・・・、ウツトリするのやめてもらって

もいいですか?w」

雪穂 「・・・ええ??」ウツトリ

真姫 「ふふw w w w w」

千歌 「あははw w w w w もうだめw w w」

絵里 「w w w w w」

ことり 「w w w w w」

デデッソ 西木野、高海、綾瀬、南、OUT

真姫 「早くw w 終わってくれないかしらw w」バシーンッ

ことり 「お願いだからww 普段の雪穂ちゃんに戻ってww」バシーンッ

雪穂 「西木野真姫・・・、ああ、名前も素敵ね・・・。ちなみに趣味はあるのかしら?」

真姫 「・・・天体観測と写真が趣味です。」

雪穂 「なるほど、素敵な趣味ね。」

真姫 「・・・有難うございます。」

雪穂 「ふむ、真姫に、天体観測、写真、ね・・・決まったわ、あなたのあだ名が。」

真姫 「・・・。」

雪穂 「あなたのあだ名は・・・メストマトよ!」

他 「wwwwwwww」

デブリン 全員OUT、

真姫 「イミワカンナイwwww」バシーンッ

ことり 「あはははww 何それえwwww」バシーンッ

善子 「メスwwトマトww」バシーンッ

絵里 「メスつて何よwwww」バシーンッ

千歌 「趣味とか全然関係ないwwww」バシーンッ

雪穂 「これからもよろしくね! メストマトちゃん!」

真姫 「ふっw・・・はい。」

千歌 「ぶくく・・・」

雪穂 「じゃあ次のあなた、名前は？」

絵里 「はい、綾瀬絵里です。」

雪穂 「あなた金髪だけど・・・不良??」

絵里 「いえ・・・違います。」

ことり 「ぶっw・・・。」

雪穂 「そう、失礼したわね。じゃあスーパーサイヤ人という事かしら？」

絵里 「・・・あのw ふw、祖母がロシア人でクォーターなんです。w」

ことり 「くくくww」

真姫 「www」

デブリン 綾瀬、南、西木野、OUT

絵里 「そんなわけではないじゃないww」バシーンッ

真姫 「選択肢狭すぎww」バシーンッ

ことり 「あと二人あと二人ww」バシーンッ

雪穂 「そうだったのね、ところであなた彼氏はいるのかしら？」

絵里 「ふっw・・・、いえ、いません。」

雪穂 「あら、じゃあ彼女は？」

絵里 「くくww いませんw。」

千歌 「ふw」

真姫 「何が、じゃあ、なのよw」

雪穂 「そう・・・、恋愛をしてこそ彼女は磨かれるのよ？ これから先いつばい恋を

しなさいね？」

絵里 「ぶww くww は、はいww」

千歌 「急にwwww」

ことり 「wwwwww」

デデゥン 綾瀬、高海、南、OUT

絵里 「こんなのwww 耐えられないわよww」バシーンッ

ことり 「雪穂ちゃんも恋愛経験ゼロって言ってたじゃんwww」バシーンッ

雪穂 「はい、それじゃあ自己紹介もしてもらったので手続き進めさせていただきますね。」

く善子が無視

善子 「・・・・・・。」

ことり 「ふw・・・くくwww」

絵里 「ふふwww」

ダイヤ 「ぶwww」

千歌 「www」

ツバサ 「・・・ふwww」

真姫 「ふふwww」

デデーン 津島以外 O U T

千歌 「まあ、本家ネタ的にも無視なのかなーとは思ってたけどwww」バシーンッ

ダイヤ 「分かっているけどだめですわねwww」バシーンッ

善子 「あの・・・」

雪穂 「はい？」

善子 「私の自己紹介がまだですけど。」

雪穂 「え？ あなた最初からいましたか？」

善子 「いました、最初から。」

ダイヤ 「ふ、くwww」

千歌 「もうwww」

デデーン 黒澤、高海O U T

ダイヤ 「善子さんの扱いがwww」バシーンッ

千歌 「シンプルに面白いwww」バシーンッ

雪穂 「そう、でも手続き終わったからもういいわよ？」

善子 「・・・そうですか。」

千歌 「wwwwww」

ダイヤ 「善子さんwww」

ことり 「wwwwww」

ツバサ 「wwwwww」

デデッソ 高海、黒澤、南、綺羅、OUT

千歌 「可哀想www」バシーンッ

ツバサ 「頑張つてwww」バシーンッ

善子 「・・・」。

希 「よしっ、じゃあ早速うちの部屋に向かおうか！」

千歌 「善子ちゃん、元気だしなよ」

善子 「別に気にしてないわよ。」

ことり 「ほら、メストマトちゃん行くよ？」

絵里 「つwww・・・ことり、それやめて本当に。」

真姫 「・・・」。

従業員 「大変です、カリスマ嬢!!」

雪穂 「え?・・・なんですって!!」

希 「ど、どうしたんですか??」

ことり 「ふw、カリスマ嬢w。」

千歌 「・・・ww。」

従業員 「実はーー」

つづく

第9話 部屋にて・・・PART 1

第8話の続きです。

雪穂 「申し訳ありませんお客様。大変申し訳ないのですが・・・。」

希 「何があつたんですか？」

雪穂 「お客様用に用意していたお部屋でトラブルがありまして、お部屋にご案内できなくなつたようで・・・。」

希 「そ、そんな・・・。もう部屋はないのですか？」

雪穂 「あいにくこのシーズンは予約が一杯です・・・。」

善子 「いや、他に全然お客さんいないじゃない。」

ことり 「・・・どうでもいいけど、雪穂ちゃん演技上手だねw」

希 「どんな部屋でもいいので、用意はできないのでしょうか？」

雪穂 「新人従業員の研修用の部屋なら何とか・・・。」

希 「あ、それでいいです。その部屋でお願いします。」

真姫 「何で勝手にそんなことを決めるのよ。」

千歌 「千歌たちに人権はないんだね。」

雪穂 「わかりました。では、その部屋に案内させて頂きます。」

希 「お願いします。」

他 「……………」

「部屋に到着」 「開始から1時間」

希 「じゃあ、みんなちよつとこの部屋で待機しといてな。」

ツバサ 「……………完全に例の待機部屋といっしょね。」

善子 「……………ええ、デスクが人数分用意されてるわね。」

ダイヤ 「よく二週間でこれだけ用意できましたわね……………」

千歌 「これってあれですよ。例の引き出しネタがあるやつですよ。」

ことり 「うん……………、シンプルに嫌だね。」

絵里 「よくわからないけど、とりあえず休憩しない?」

他 「……………賛成。」

「一同、ようやく笑いの緊張から解放され一休み」

ことり 「まさか、こんなことになるなんて……………」

ダイヤ 「でも、一日我慢すれば後は沖繩旅行を満喫できるわけですし……………」

千歌 「そうですね……………、一日我慢すれば。」

真姫 「まあまあ、そんなに息を詰めてもしょうがないでしょ?」

ツバサ 「そうね、メストマトさんの言う通りね。」

ことり 「ふっww。」

千歌 「ふふww」

真姫 「……。」

デデッソ 南、高海、OUT

ことり 「身内同士の潰しあいはやめようよww」バシーンッ

千歌 「そうですよww」バシーンッ

真姫 「……でも、私達7人もいるけれどそれぞれ、本家のどの人のポジションになるのかしらね？」

千歌 「さっきのフロントの時から判断すると、善子ちゃんは方正さんポジションだね。」

善子 「……やっぱりそうなる？ あとヨハネよ。」

ダイヤ 「ということは、後半にキツイピンタが待つてるといことですわね。」

善子 「やめて、考えないようにしてるんだから。」

真姫 「あと怖いと言えば……、タイキック、かしら。」

ことり 「今考えれば王様ゲームの時に例のタイ人の人出てたけれど、今回の伏線だったのかもね……。」

真姫 「・・・嫌な伏線ね。」

※王様ゲーム第6話参照

千歌 「え？ タイ人の人、王様ゲームの時いたんですか？」

ことり 「うん、千歌ちゃん達が来る前にね。」

ツバサ 「すごかったわよ、あんじゅと希さんと亜里沙ちゃんがタイキックで吹っ飛んだのよ？」

千歌 「ふっw 亜里沙ちゃんてさっきの絵里さんの妹さんですよ？ あんな可

愛いらしい子にw」

ダイヤ 「・・・容赦ないですわね。」

善子 「今千歌が笑ってたように見えたんだけどOUTじゃないの？」

絵里 「確かに。さっきから思ってたけど判定が甘い時があるわよね。」

千歌 「え、千歌笑ってた?？」

ことり 「うん、ことりにもそう見えた。」

絵里 「もしかしたら、カメラの位置の関係で判定が甘かったりするのかもね。」

真姫 「なるほど、あり得るわね。じゃあ一回ことりが千歌ちゃんの場合で笑って

みたらいいんじゃない？」

ことり 「え？ なんでそこでことりが出てくるの?？」

真姫 「ことりが一番笑ってるからよ。もしこれで千歌ちゃんの場所の判定が甘かったら場所を交換してもらえばいいじゃない。」

ことり 「・・・なるほど。」

千歌 「千歌も別にそれでいいですよ。」

真姫 「決まりね。じゃあことり早速実践して頂戴。」

ことり 「うくん、嫌な予感がするけど。」

「ことりと千歌が一時的に場所を交換」

ことり 「じゃあ、いくよ?」

他 「・・・。」 「コクン

ことり 「えへへ♡」

デデッソ 南、OUT」

ことり 「・・・。」

千歌 「wwww」

真姫 「wwww」

他 「つ・・・。」

デデッソ 高海、西木野、OUT」

ことり 「うん、正直わかった。痛いつ!」バシーンッ

千歌 「千歌も分かってたけどww これは笑っちゃうww」バシーンッ

真姫 「www」バシーンッ

絵里 「でも、今のはことりがわざとらしく笑ったからOUTになったんじゃない

かしら？ もっと自然に笑っちゃった風であればどうかしら？」

ことり 「絵里ちゃんどうしたの？ 別にどうでもいいんじゃない？ ことりは元の

場所でのいいから、もうこの話は終わりにしよ？」

ツバサ 「でも確かに、えへへ♡ はわざとらしかったわね。」

デデーン 綺羅、OUT

ツバサ 「あ」

ことり 「www」

真姫 「ふw、くww」

ダイヤ 「ふふwww」

デデーン 南、西木野、黒澤、OUT

ことり 「ツバサさん、それはないですよww」バシーンッ

真姫 「天然の不意打ちは恐ろしいわねww」バシーンッ

ダイヤ 「もう、こんなくだらないことでww」バシーンッ

ツバサ 「・・・」バシーンッ

真姫 「・・・ふふふｗｗ」

ことり 「こ、これはｗｗｗｗ」

他 「ｗｗｗｗｗｗ」

デデーン 綾瀬以外OUT

千歌 「ちよつとｗｗ こんな激しいの本家でも見たこと無いよつｗｗ」バシュー
ンツ

ダイヤ 「精々CO2ガスが噴き出るくらいかと思いましたがｗｗ」バシューンツ

ことり 「完全に爆発してたねｗｗ」バシューンツ

善子 「これ心臓止まるレベルの爆音よねｗｗ」バシューンツ

真姫 「絵里ｗｗ 大丈夫？ｗｗ ひっくり返ってたわよｗｗ」バシューンツ

ツバサ 「勝手に開けるからよｗｗ」バシューンツ

絵里 「・・・死んだかと思ったわ。」グスツ

ことり 「ふｗｗｗｗ、まあ凄い音だったもんね。」

善子 「これは、注意深く開けていくしかないわね。」

真姫 「絵里？ 続き開けられる？」

絵里 「もう嫌よ・・・。」

千歌 「でも最初に開けておいたほうが後楽ですよ？」

ことり 「あ、もう引き出しは開けていく流れなんだね。」

絵里 「・・・じゃあ、続きいくわよ。」

つづく

第10話 部屋にて・・・PART 2

第9話の続きです。

絵里 「・・・い、行くわよ。」

他 「・・・。」ズザザ ↑後ずさり

絵里 「ちよつとっ！ やめてよっ！ 怖いじゃない！」

千歌 「いや、正直あれの後じやちよつと怖いし・・・。」

ことり 「ま、まあ連続でさつきみたいなの爆発音とかはないと思うし。大丈夫だと思

うよ？」

絵里 「・・・じゃあもう少しこっちに来てよ。」

ことり 「・・・それはちよつと。」

絵里 「・・・もういいわ、あなた達には頼らないわ。」

絵里 「・・・ここは逆に勢いよく行くわ。」

真姫 （・・・何だよ。）

絵里 「・・・行くわよ！」ガラッ！

引き出し 「・・・。」↑空っぽ

ことり 「・・・うん・・・お疲れ様・・・絵里ちゃんw」

ツバサ 「ふw、次は私の番かしら？」

真姫 「そうね、それでいいんじゃないかしら。」

ツバサ 「じゃあ、行くわよ。・・・ゆつくり行ったほうがいいわね。」ガララ

ボールペン ↑コロコロコロコロ・・・コンッ

ツバサ 「・・・ふw」

ことり 「ふふふw」

千歌 「・・・つw。」

デデーン 綺羅、南、高海、OUT

ツバサ 「さっきとの落差がw」バシーンッ

千歌 「ええ！ 今のOUT？」バシーンッ

ことり 「これが7人分続くだなんてw」バシーンッ

善子 「仕掛け側の思惑通りに踊らされてる感じがするわね・・・。」

ツバサ 「・・・次、行くわよ。」

ツバサ 「・・・。」ガララ

ことりのポスター(サイン付き)

ツバサ 「w w w w」

ことり 「え？ 何があったん、ふｗｗｗｗ」

真姫 「ふｗｗｗｗ」

千歌 「ｗｗｗｗ」

デデーン 綺羅、南、西木野、高海、OUT

ツバサ 「いきなりこんなの見せられたら笑うわよｗｗ」バシーンツ

真姫 「サイン付きつてｗｗ」バシーンツ

千歌 「どこからこんなの持ってきたんだろｗｗ」バシーンツ

ことり 「本当にどこからこんなの持ってきたんだろｗｗ」バシーンツ

ツバサ 「一番下は何もないわね。」ガラッ

ツバサ 「ふう、私も終わりね、比較的平和的に終わったわ。」

善子 「これを平和って言うあたり、感覚が狂ってきてるわね。」

絵里 「王様ゲームの時から感覚はみんな狂ってるわよ・・・。」

千歌 「よしっ！じゃあ次は千歌の番だねっ！」

千歌 「行くよ。」ガラッ

みかんの皮×1

千歌 「・・・っ。」

ことり 「・・・ふう。」

他 「……………」

千歌 「…………じゃあ次の段に行きまゝす。」ガララ

バナナ×2本

千歌 「ふふふwww」

ことり 「はっwww」

ダイヤ 「ふふふwww」

デデッソ 高海、南、黒澤、OUT

千歌 「バナナネタしつこいよwww」バシーンッ

ことり 「フロントの時から流れだねwww」バシーンッ

ダイヤ 「私このバナナネタダメですわwww」バシーンッ

千歌 「…………ふ。」

千歌 「じゃあ、ラスト行きますっ！」ガラッ

バナナ×4房

千歌 「もうwww」

ダイヤ 「www」

ことり 「www」

絵里 「ふふwww」

デデ〜ン 高海、黒澤、南、綾瀬、OUT〜

千歌 「だからっww 千歌はみかんの方が好きだっばww」バシーンツ
 ダイヤ 「ぎっしりバナナですわねww」バシーンツ

ことり 「この三段構えはずるいよww」バシーンツ

絵里 「最後の最後で笑っちゃったわww」バシーンツ

千歌 「とりあえず千歌はこれで終わりですね．．．」

真姫 「じゃあ、次は私ね．．．」

真姫 「．．．」ガララ

真姫 「ん？ これは．．．」

謎のボタン

ことり 「わく、もう嫌な予感しかしないね．．．」

ツバサ 「確かに．．．」

真姫 「．．．」ポチ ↑静かにボタンを押す真姫

千歌 「ちよつとw 真姫さんw」

デデ〜ン 善子 OUT〜

善子 「．．．は？」

善子 「いやいや、え？ 私笑ってないわよ？」

黒い人 「・・・。」タツタツタ

善子 「ちよ、私本当に笑ってない、痛いつ！」バシーンツ

ことり 「これ、ボタン押したら善子ちゃんがOUTになるんじや・・・。」

善子 「え？」

真姫 「・・・。」ポチ

デデーン 善子 OUT

善子 「」

他 「wwww」

デデーン 全員OUT

善子 「こんなの理不尽よっ!!」バシーンツ

真姫 「wwww」バシーンツ

千歌 「あははww、善子ちゃん頑張ってww」バシーンツ

ことり 「もうww お腹とお尻が痛いよww」バシーンツ

善子 「ちよつと!! そのボタン貸して。」

真姫 「・・・。」

善子 「・・・早く。」

真姫 「・・・。」ポチ

デデーン 善子 O U T っ

他 「w w w w w w w w」

デデーン 全員O U T っ

善子 「ちよつとっ!! 卑怯よ!! 返してっ!! 痛いつ!!」バシーンッ

真姫 「w w w w w w」バシーンッ

絵里 「私たちも結局笑っちゃうから全員お尻叩かれてるだけになってるわよw w

w」バシーンッ

ツバサ 「確かにこの流れは不毛すぎるわねw w w」バシーンッ

ダイヤ 「善子さんw w w あまりはしゃがないでくださいw w w 余計面白くなっ

てしまうのでw w w」バシーンッ

善子 「・・・さあ、もういいでしょ? はやく返して。」

真姫 「・・・。」

善子 「・・・ほら、早く。」ジリジリ ↑真姫に詰め寄る善子

真姫 「・・・。」ジリジリ ↑善子から後ずさる真姫

善子 「早く返せーっ!!」ダッ↑真姫に飛び掛かる善子

真姫 「・・・。」ダッ ↑善子から逃げる真姫

善子 「ちよ、逃げるなーっ!!」ダダダッ

真姫 「・・・。」ダダダツ・・・ポチ

デデッン 善子 O U T っ

善子 「ああああもおおうっ!!!」

ことり 「ふくくっw・・・、真姫ちゃんが絶対有利だねw」

千歌 「善子ちゃん、今最高に輝いてるよ!w」

善子 「はあはあはあ・・・西木野真姫いいいい!!」バシーンツ

他 「w w w w w w w w」

デデッン 善子以外O U T っ

ことり 「ひっw w w やめてw w w それ以上ことりを笑かさないでw w w」バシーンツ

ダイヤ 「心からの叫びですわねw w w w w」バシーンツ

千歌 「面白すぎるw w w w w」バシーンツ

真姫 「w w w w w w w w」バシーンツ

善子 「・・・私西木野のこと嫌いよ。」

ツバサ 「ふw、このままだと進まないから続きの引き出しを開けたらどうかしら?」

真姫 「そうね、あと善子ちゃん? 私はあなたのこと嫌いじゃないわよ?」

善子 「やかましいわっ! あとヨハネって言え!」

ことり 「ふくくww、もうやめて。」

真姫 「じゃあ続き開けていくわよ。」ガララ

真姫 「・・・空ね、一番下は・・・これは。」ガララ

謎のボタン2

千歌 「またボタン・・・。」

ツバサ 「お願いだから私じゃありませんように・・・。」

善子 「・・・。」

真姫 「・・・。」ポチ

デデゥン 善子 O U T

他 「wwwwwwww」

デデゥン 全員 O U T

善子 「バシーンッ

ことり 「wwwwwwww」バシーンッ

真姫 「wwwwwwww」バシーンッ

ダイヤ 「またwwwwww」バシーンッ

ツバサ 「こんなのwwww 反則よwwww」バシーンッ

善子 「それをこつちに渡しなさいっ！ 西木野おお!!」バツ ↑真姫に飛び掛か

る善子

真姫 「千歌ちゃん！ パスッ！」ポイツ

千歌 「ナイスパ〜スッ!! そして・・・。」ポチ

デデ〜ン 善子 O U T〜

善子 「くたばれっ、西木野〜!!」ギュー ↑真姫にヘッドロックをかける善子

真姫 「・・・っ!」バンバンバン ↑タツプする音

善子 「くううう。」バシーンツ ↑お尻を叩かれてもヘッドロック続行

他 「wwwwwwww」

デデ〜ン 全員O U T〜

千歌 「ボタン無視で真姫さんに仕返しするとはwwwwww」バシーンツ

ことり 「ひwwwwwwはwwwwwwはっwwwwww」バシーンツ ↑過呼吸になりかけて

る

絵里 「お尻叩かれても微動だにしないwwww」バシーンツ

ツバサ 「喧嘩しないでwwww」バシーンツ

〜 しばらくして〜

絵里 「はい、ここにボタンはしまったから持ち出し厳禁ね。」

他 「は〜い」

真姫 「ひどい目にあつたわ……。善子ちゃん、ちよつとスキンシップ激しいわよ？」

善子 「うるさい、だまれっ！ 後ヨハネつて呼べ!!」

ことり 「はあ……。笑いすぎて死ぬかと思つた……。」

千歌 「二人ともすっかり仲良くなつたね。」

ダイヤ 「何を見てそう思つたんですの？」

真姫 「……。最後の引き出しには何もないわね」ガララ

ダイヤ 「では、次は私の番ですわね!!」

つづく

第11話 部屋にて・・・PART3

第11話の続き

ダイヤ 「では、行きますわよ・・・。」

他 「・・・。」ズザザ ↑後ずさり

ダイヤ 「・・・全員に後ずさりされると、急に孤独を感じますわね。」

絵里 「でしよう?」

ダイヤ 「覚悟を決めるしかありませんわね。」

ダイヤ 「・・・。」ガララ

ダイヤ 「これは・・・DVDですわね。」

く 謎のDVD発見く

ツバサ 「これは、ダイヤさんがタイキックということね・・・。」

ことり 「ダイヤちゃん可哀想・・・。」

千歌 「ドンマイです。ダイヤさん。」

善子 「南無。」

ダイヤ 「いえいえいえ、まだそうと決まったわけではないでしょう!」

真姫 「でも本家の流れるにはそうじゃない？」

千歌 「そうだそうだっ！諦めろ。」

ツバサ 「ダイヤさん、諦めも肝心よ？」

ダイヤ 「くつ、黙っていれば好き放題言つて……。」

ダイヤ 「いいでしょう！そこまで言うなら今すぐ再生しますっ！」

絵里 「この部屋にDVDプレーヤーがあるのはこういう理由だったのね。」

真姫 「わざわざ再生しなくてもいいのに……。」

ウイソン

くDVD 再生く

希 「はい、どうも、それでは早速、今から皆さんにあることを聞いていきたい

と思います！」

ことり 「……いきなり始まったね。」

ツバサ 「海未さんに、凜さん、それに穂乃果さんもいるわね。」

希 「はい、じゃあ早速海未さん！ このメンバーの中で一番蹴られた方がいい

と思う方は誰ですか？」

海未 「ことりで。」

デデソン 南、タイキツクく

タイ人 「……」ウズウズ ↑ 蹴る準備は万端

千歌 「ことりさん、ほら、困ってますよ?」

ことり 「絶対嫌だよっ! ことり死んじやうよ!」

真姫 「……ことり。」ズカズカ ↑ ことりに詰め寄る真姫

ことり 「え、真姫ちゃん?」オロオロ

真姫 「……早く構えなさいっ!」バチンツ ↑ 突然ことりにピンタ

ことり 「……へ?」ヒリヒリ

他 「wwwwww」

絵里 「真姫、どうしたの急にwwww」

千歌 「ちよいちよい真姫さんの行動が謎だwwww」

真姫 「はやくっ!」

ことり 「……え、え、ええ。」↑ 言われるがままに構えることり

タイ人 「……っ!!」↑ タイキックを放つタイ人

ドゴツツオオンンン!!

ことり 「つつつ!!」—— ドサツ! ↑ 吹っ飛ばされ、そのまま倒れることり

他 「wwwwwwww」

デデーン 南以外OUT

絵里 「二週間ぶりに見たけど相変わらず凄いわねwww」バシーンッ

ダイヤ 「ふふwwwこれは予想以上に凄いですわねww」バシーンッ

千歌 「吹っ飛んだwww」バシーンッ

ことり 「」

ことり 「」

ことり 「↑倒れたまま動かないことり

真姫 「ふw、ことり、気持ちはわかるけど早く起きてくれない?w」

千歌 「・・・つw」

希 「はい、それでは次の人に聞いていきま〜す!」

他 「!？」

ことり 「ピクッ

ツバサ 「え、まさかこれ、後穂乃果さんと凜さんにも聞いていく流れなの?」

絵里 「嘘でしょう・・・。」

希 「じゃあ、穂乃果ちゃん!誰がいいと思う?」

穂乃果 「・・・う〜ん」

穂乃果 「私も海未ちゃんと一緒に、こと・・・やっぱり絵里ちゃんで!!」

絵里 「なんで変えたの!!」

千歌 「ふww」

ことり 「・・・今、ことりって言いかけたよね？」ムクリ ↑起きたことり

真姫 「幼馴染なのにねw」

希 「あ、別に複数人選んでもいいよ？」

穂乃果 「あ、じゃあことりちゃんも追加で！」

ことり 「」

デデリン 南、綾瀬、タイキツク

他 「wwwwwwww」

ダイヤ 「二連続wwww」

千歌 「追加されちゃいましたねwwww」

タイ人 「・・・」。ズンズン ↑絵里に詰め寄るタイ人

絵里 「え、え、本当に？本当に？・・・本当に？」

真姫 「何がよwwww」

善子 「タイキツクくらうときってみんな混乱するものなのかしら？」

タイ人 「・・・」。スツ↑構えるタイ人

絵里 「え、え、え、え、え、え、」

タイ人 「・・・っ!!」↑タイキツクを放つタイ人

ダイヤ 「こんなえりーちか見たくありませんわwww」バシーンッ
 タイ人 「……」ズンズン ↑再びことり詰めるタイ人
 ことり 「……っ！もう絶対に嫌だから、こうしちゃうもんね！」

部屋の床に仰向けに転がり徹底抗戦の構え

タイ人 「……」↑どうしていいか分からない

他 「wwwwwwww」

デデーン 南、綾瀬以外OUT

千歌 「お願いだから無駄な抵抗はやめてwww」バシーンッ

善子 「タイ人の人が困ってるじゃないwww」バシーンッ

真姫 「今まで抵抗して一度も成功してないくせにwww」バシーンッ

絵里 「……」↑お尻が痛すぎて笑う余裕がない

ことり 「もうことりは何も罰は受けないから。後20時間ずつこの態勢でいるか

らね！」

ダイヤ 「……ふっ、正気ですかw」

真姫 「どうにかできないかしら？」

千歌 「全員でくすぐってあげたらいいんじゃないですか？」

ことり 「千歌ちゃん？ 何でそんなこと言うの？」

真姫 「ナイスアイデアね！」

千歌 「では、早速・・・。」ワキワキ

ことり 「・・・ちよ、来ないで！絶対ことり負けないからね！」

他 「・・・。」コチヨコチヨ

ことり 「あはははwwwwちよwwwwこんwwwnなのwww」

他 「・・・。」コチヨコチヨコチヨ

ことり 「わかwwww分かったからwwwwわかwwwwキックされるからwww」

ゼーゼー

千歌 「10秒持たなかったですね。」

真姫 「ちよろすぎるわねw」

ツバサ 「・・・あなたがそれ言う？」

ことり 「う、うう、ひ、酷いよみんな・・・」ヨロヨロ ↑何とか起き上がることり

タイ人 「・・・。」スツ ↑構えるタイ人

タイ人 「・・・っ!!」↑タイキックを放つタイ人

ドゴツツオオンン!!!

ことり 「————」。ドサツ ↑ノーリアクションで倒れることり

他 「wwwwwwww」

デデゥン 全員OUT

千歌 「あははwwwひ、ひwww」バシーンツ

ダイヤ 「なwww何か反応してくださいよwww」バシーンツ

真姫 「死体が蹴られてるみたいだったわねwww」バシーンツ

ことり 「バシーンツ

ツバサ 「さらにお尻を叩かれるってwww」

真姫 「くすぐられた時に笑ってからねw」

希 「では、次は……」

全員 「ビクツ

希 「また、後で！ということ！みんな引き続き笑ってはいけない楽しんでな

ほな！」

プツン ↑DVDここで終了

千歌 「……とりあえず、助かった……のかな？」

ダイヤ 「また続きがあるみたいない言い方でしたが……」

真姫 「凜がまだいたものね……」

ツバサ 「でもまあ、とりあえず悪夢の時間は一時的に終わったのよね？」

善子 「……一応は、ね。」チラツ

ことり

「↑倒れてる

絵里

「うう、い、痛いわあゝ」

シクシク

真姫

「地獄絵図ね・・・。」

つづく

第12話 部屋にて・・・PART4

第12 部屋にてPART3の続きです。

ダイヤ 「他の引き出しには何もありませんわね。」ガララ

絵里 「よかった、他のDVDがなくて。」ホッ

ことり 「本当に・・・。」

善子 「じゃあ、次は私がいくわね。」

ことり 「・・・ことりが最後なの？」

真姫 「トリだからね。」

ことり 「・・・言うと思ったよ。」

千歌 「ふふw」

善子 「・・・本当に開けるの怖いわね。」

ツバサ 「どうでもいいけれど、引き出しの下りだけでも随分長いわね・・・。」

真姫 「7人もいるものね。」

善子 「ゆっくり、ゆっくり・・・。」ガララ・・・

善子 「これは、封筒？」

く謎の封筒発見く

善子 「何かしらこれ？ってよく見たら、黒澤ダイヤ宛てって書いてるわね。」

ダイヤ 「え？私のですの？」

善子 「うん、ほら。」

ことり 「本当だ、ダイヤちゃん宛てになってるね。」

ダイヤ 「嫌な予感しかしませんわね・・・。」

千歌 「頑張つて、ダイヤさんw」

ダイヤ 「何で善子さんの引き出しなのに私の封筒が入ってるんですの・・・。」

真姫 「で？肝心の中身は？」

ダイヤ 「ちよつと待つてください。」

ダイヤ 「えくと・・・命令書と書いてありますわ。」

千歌 「命令書？」

ダイヤ 「ええ、命令内容は今から10分間タメ口で喋れ、だそうです。」

ことり 「どういうことなの？」

ダイヤ 「・・・さあ？」

ピンポンパンポンッ♪

全員 「!？」

「命令開始10秒前。」↑突然アナウンスが鳴り響く

「なお、タメ口で喋らなかつた場合は笑つた時と同様の罰を受けていただきます。」

ダイヤ 「え」

千歌 「考える暇をくれないね。」

「8、7、6、5・・・」

ダイヤ 「え、ええ!? どうすればいいんですの??」

絵里 「まあ、タメ口で喋るしかないんじゃないかしら。」

ダイヤ 「私タメ口でしゃべつたことなんてありませんわよお。」

ツバサ 「適当でいいんじゃない?」

ダイヤ 「・・・はあ。」

善子 「タメ口のダイヤ・・・想像できないわね。」

「3、2、1・・・命令開始。」

ダイヤ 「・・・。」

他 「・・・。」

ダイヤ 「・・・。」

千歌 「・・・ふw」

デデゥン 高海OUT

千歌 「ダイヤさん黙るのはずるいですよっ！w」バシーンッ

真姫 「千歌ちゃんの言う通りよ。何かしゃべらないと。」

ダイヤ 「え？もう一回言つて？」

真姫 「ふww」

千歌 「ぷっww」

ことり 「ふふふww」

デデッソ 西木野、高海、南OUT

真姫 「いきなりこられるとキツイわねww」バシーンッ

千歌 「これは破壊力があるww」バシーンッ

ことり 「これが10分間ww」バシーンッ

ダイヤ 「どうしたの真姫？何か言つてなかった？」

真姫 「・・・」。ギュー 太ももをつねつて笑いを堪える真姫

ことり 「・・・ぐw」

真姫 「・・・こほんっ、何も無いわ。」

ダイヤ 「そう？何かあつたらいつでも言いなよ？」

真姫 「っ・・・ええ、そうさせてもらうわ。」

ダイヤ 「それより千歌、ちよつといい？」

千歌 「ふw・・・はい、何ですか？」

ダイヤ 「なんでもないわ、呼んだだけよ♪」

千歌 「ふふふw w w」

ことり 「もうw w w」

デデッソ 高海、南OUTッ

千歌 「絡んでこないでよw w」バシーンッ

ことり 「キャラ変わってるよダイヤちゃんw w」バシーンッ

善子 「じゃあ、他の引き出しも開けていくわね。」

ダイヤ 「なんでやねんっ！」

善子 「え？」

他 「w w w w w w」

デデッソ 津島、ダイヤ以外OUTッ

ツバサ 「どうしたの急にw w w」バシーンッ

千歌 「突っ込む要素何もないのにw w w」バシーンッ

絵里 「唐突な関西弁はやめてw w」バシーンッ

善子 「え？引き出しあけるわよ？」

ダイヤ 「だからなんでやねん！」

千歌 「・・・く。」

善子 「何かいけないこと言ってるかしら・・・。」

ダイヤ 「別にすぐ開ける必要ないやろ！」

ことり 「あのwww、ダイヤちゃんwwwタメ口で喋ることは別に攻撃していいってわけじゃないからねwww」

ダイヤ 「ふふwww」

ツバサ 「ふwww」

デデン 南、黒澤、綺羅、OUT

ツバサ 「確かにことりさんの言うとおりねwww」バシーンッ

ダイヤ 「わからないんですのよwww」バシーンッ

ことり 「あとダイヤちゃんwwwお願いだからもう関西弁はなしねwww」

善子 「・・・あの、引き出しあけていいわよね？」

ダイヤ 「うん、いいよ。さつきはごめんね、怒鳴って。」

善子 「・・・ええ。」

千歌 (善子ちゃんよく耐えられるなwww)

善子 「えくと・・・。」ガララ

ダイヤ 「ん？なにか入ってた？どれどれ？」

善子 「何も入ってないわよ・・・。」

ダイヤ 「そつか・・・。」

ことり 「・・・くふ、ふ。」

真姫 「ダイヤちゃんは何がしたいのよw。」

善子 「うん、最後の引き出しにも何もなかったわ。」

ことり 「これで、後はことりだけだね・・・。」

ダイヤ 「そうだね、頑張って！」

ことり 「ふふww」

デブリン 南 OUT

ことり 「だめだ、慣れないよこれww」バシーンッ

ツバサ 「でも、ダイヤさん今まで本当にずっと敬語口調だったの？」

千歌 (ツバサさん、何で余計なこと聞くな・・・。)

ダイヤ 「うん、家の躰が厳しくて・・・。」

善子 「でも、その割にルビイは別に敬語とかじやないのよね。」

真姫 「そうね、確かこんな感じだったわよね？」

真姫 「うゆゆゆゆゆww、おねえちゃくく、ぴぎいww。」

他 「wwwwwwww」

デデーン 全員 O U T っ

千歌 「ちよくちよく挟んでくる物真似やめてもらっていいですか W W W」バシーンッ

善子 「全然似てない W W W」バシーンッ

ことり 「まねの仕方に悪意しかないよ W W W」バシーンッ

真姫 「何で私まで・・・。」バシーンッ

ツバサ 「物真似しながら笑ってたじゃない W W W」バシーンッ

ダイヤ 「W W W W」バシーンッ

ことり 「・・・はい、もうこれ以上キリがないから、ことりもいきまゝす！」

千歌 「ようやく最後の一人ですね・・・。」

ダイヤ 「そうだね！」

つづく

第13話 部屋にて・・・PART5

引き出しネタ終了

第12話 部屋にて・・・PART4の続きです。

ことり 「・・・はあ、開けたくないなあ。」

ツバサ 「まあまあ、もうこれで終わりじゃない。」

千歌 「そうですよ、パッパツといきましょう！」

ことり 「うん、じゃあいくね？」

他 「・・・。。」ズザザザザ・・・ ↑全員後ずさり

ことり 「・・・みんなことりの時だけ下がりがすぎじゃない？」

千歌 「だって、正直ことりさんの引き出しに何が入ってるか想像できないし。」

真姫 「ええ、海未あたりが入っていても不思議じゃないわ。」

ことり 「・・・ふw」

絵里 「・・・w」

デデーン 南、綾瀬、OUT

ことり 「海未ちゃんが入ってるってどういう状況ww」バシーンッ

絵里 「笑ってしまったわ、不覚ww」バシーンッ

ダイヤ 「ことり、はやく開けてよ。」

ことり 「つ：ふう、ダイヤちゃん、お願いだから引き出しを開ける時だけでもしゃべりかけないでw」

ことり 「じゃあ・・・あけまゝす。」ガララ・・・

鶏の唐揚げ 「……………」

ことり 「……………」

他 「wwwwwwww」

デデーン 南以外OUT

千歌 「あはははははwwwwww」バシーンッ

真姫 「本当に誰よwwww仕掛け考えてるのwwww」バシーンッ

ツバサ 「唐揚げwwww」バシーンッ

ことり 「……………これどういうこと？」

他 「……………」

真姫 「まあ・・・あれじゃない？w ことりっていう名前だから、鶏の唐揚げつ

ていうw」

ことり 「ことりがこれ食べたら共食いになるってこと？」

真姫 「ふふwww そうはw言つてないけれどwww」

千歌 「くふうwww」

デデッン 西木野、高海、OUT

真姫 「ことりwww無表情で問い詰めに来るのやめてくれない？www」バシーンッ

千歌 「だめwwwこういう中学生みたいなイジリ、大好きwww」バシーンッ

絵里 「ねえ、ことり。お腹が減ったからその唐揚げもらつていい？」

ことり 「・・・別にいいけど。」

真姫 「絵里凄いわね。」

絵里 「え、何が？」

真姫 「いえ、気にしないで・・・。」

絵里 「そう？じゃあもらうわね。・・・待つてこれ・・・微妙に温かいわ。」

千歌 「ふふwww」

真姫 「ふふwww」

デデッン 高海、西木野OUT

千歌 「その情報いらなそうですよwww」バシーンッ

真姫 「そうよwww黙って食べなさいよwww」バシーンッ

絵里 「もぐもぐ・・・ごくんつ。うん普通に美味しいわ。」

ツバサ 「よかったわね・・・。」

ことり 「・・・はあく。」

ことり 「よしっ！気持ち切り替えて二段目いくね！」

ガララッ

チキン南蛮 「・・・。」

ことり 「・・・ふw」

他 「wwwwww」

デデーン 全員アウト

ことり 「もうwwwこのイジリやめてよwww」バシーンッ

真姫 「ことりの扱いがwww」バシーンッ

千歌 「三段目の引き出しが気になるねwww」バシーンッ

ことり 「・・・ふう、はい絵里ちゃん。これもあげる。」

絵里 「え？もういらないけれど。」

ことり 「じゃあ三段目もいくね？」

絵里 「ちよつと。」

千歌 「・・・ふw」

ことり 「いきまゝす。」

ことり 「……。」 ガララ……

ことり 「これは……封筒だね。」

ツバサ 「また封筒？」

ことり 「うん、これは千歌ちゃん宛だね。」

千歌 「ええ、私？」

ことり 「うん、はい。」

千歌 「見たくない……。」

ダイヤ 「気持ちわかる。」

千歌 (……だいぶダイヤさんのタメ口にも慣れてきた。)

千歌 「えくと……10分間、黒澤ダイヤの口調を真似る、だって。」

ことり 「あ、もうだめだ、絶対笑っちゃうやつだ。」

絵里 「絶対面白いわねw」

ピンポンパンポンッ♪

「命令開始10秒前。」 ↑突然アナウンスが鳴り響く

「なお、黒澤ダイヤ口調で喋らなかつた場合は笑つた時と同様の罰を受けていただきます。」

千歌 「ダイヤさんって、どんな口調だったっけ？」

善子 「お嬢様っぽい口調を適当に言っとけばいいのよ。」

ダイヤ 「馬鹿にしてる？」

千歌 「まあ、頑張ってみるけど・・・。」

「3、2、1・・・命令開始。」

千歌 「あーら、あーらあーら、ご機嫌うるわしゅうく？w w w」

ことり 「w w w w w」

真姫 「誰よw w w」

ダイヤ 「w w w w w」

デデーン 高海、南、西木野、黒澤、OUT

ことり 「千歌ちゃんふざけすぎだよw w w」

千歌 「急に真似してって言われてもわかんないw w w」バシーンッ

ダイヤ 「そんなこといつ言ったのよw w w」バシーンッ

真姫 「凜と同レベルよ？w w w」バシーンッ

ことり 「千歌ちゃん、落ち着いて。ダイヤちゃんのしゃべり方を思い出すんだよ。」

ダイヤ 「そうそう、よく思い出してみて？」

ことり 「うん、今はちよつとダイヤちゃん黙っててね？」

千歌 「うーん、そんなこと言われても……。」

デデ〜ン 高海 O U T、

千歌 「え？ あ、真似してなかった……。」 バシーンッ

ことり 「ふっ……。」

真姫 「さあ、千歌ちゃん。ダイヤちゃんを思い出すのよ。」

千歌 「ええ、そんなこと言われてもですのよですわあ〜……。w w w」

ツバサ 「w w w w w」

ダイヤ 「w w w w w」

ことり 「w w w w w」

真姫 「w w w w w」

デデ〜ン 高海、綺羅、黒澤、南、O U T、

千歌 「途中で何喋ってるかわからなくなっちゃったw w w」 バシーンッ

ツバサ 「落ち着いてw w w」 バシーンッ

ことり 「本当に凜ちゃんと同レベルだねw w w」 バシーンッ

「黒澤ダイヤ、タメ口終了まで10秒前。」 ↑アナウンス

ことり 「あ、ダイヤちゃんがようやく終了だね。」

「3、2、1、終了。」

ダイヤ 「ふう、やっと終わりましたわ・・・。」

真姫 「結構楽しんでいるように見えたけど。」

千歌 「ノリノリですわあ。」

ことり 「ふw」

～その後～

「高海千歌、ダイヤ口調終了まで10秒前。」 ↑アナウンス

千歌 「やつと、終わりですわよ。」

「3、2、1、終了。」

千歌 「疲れた・・・。」

ことり 「うん、引き出しネタようやく全部終わったね。」

ダイヤ 「大分いかれましたわね・・・。」

ツバサ 「ようやくこれで少しゆっくりできるわね・・・。」

つづく

第14話 海未 「まだまだこれからです！」

第13話の続きです。

くモニタールームく

凜 「やっと引き出しネタ終わったにや〜」

海未 「さて、ここまではウォーミングアップだったということをお教えあげましょうか。」

希 「で、何すんの？」

理亜 「ちよつとその前にいいかしら！」

海未 「? なんですか？」

理亜 「状況がわからないのよ！」

希 「何の状況がわからないの？」

理亜 「普通の人は、沖繩に着くなりいきなり台本渡されて、その通りやれって言われても訳が分からないわよー」

ルビィ 「でも、理亜ちゃんのバスでの演技面白かったよww」

希 「それなwwww」

理亜 「やかましいわっ! 大体あれも台本と全然違う内容だったし! 何が子供たちに説教するだけよ! 全然違うじゃない!」

曜 「でも、本当にどういう状況? まさか、熱々卵食べさせれるとは思わなかったよ……。」

果南 「まあまあ二人とも、面白そうだからいいじゃんw」

海未 「そうです、要はあの7人を笑わせればいいのですよ。」

理亜 「……結局全然わからないままなんだけど。」

希 「で、海未ちゃん、具体的に何すんの?」

海未 「まず、私がお尻を叩く役をします。」

凜 「ふww可哀そうww」

果南 「あ、それ私もやりたい!」

海未 「わかりました、とにかく全力で叩いてください。」

果南 「了解ww」

凜 「これは見ものにやww」

くことり達の部屋く

開始から3時間経過

ダイヤ 「……もう何もやる気おこらないですわ。」

ことり 「うん……。」

千歌 「……帰りたい。」

絵里 「みんな、お尻は大丈夫？特にことり。」

ことり 「ううん。もう駄目、無理。」

真姫 「ことり、笑いまくってるものね。」

ことり 「しょうがないよ、だって面白いんだもん。」

千歌 「確かに結構本気で笑いを取りに来てますもんねえ。」

真姫 「本当、馬鹿らしいこと考えるわね。どうせリリホワあたりが考えたんでしょ。」

デデーン 西木野OUT

真姫 「……え？」

千歌 「ふふww 悪口言ったからですよw」

ことり 「今のは真姫ちゃんが悪いねw」

黒い人（中身は海未） 「……。」タタタ

真姫 「理不尽すぎるでしょ。」スッ↑お尻を叩かれるため構える真姫

海未 「……。」スッ↑お尻を叩くため構える海未

海未 「……っ！」バチコーンッ！

真姫 「ヴエエエっ!!」

海未 「・・・っ!」ゲシツ↑真姫に追撃の蹴り

真姫 「つつっ?!?!」ガガタンツ↑崩れ落ちる真姫

海未 「・・・。」タタタ

他 「w w w w w」

デデッン 真姫以外OUT

ことり 「何あれw w w」

千歌 「大丈夫ですか真姫さん? w w」

真姫 「すごく痛い・・・。」

海未 「・・・。」タタタ

果南 「・・・。」タタタ

絵里 「ちよ、また来たわよ。しかも一人増えてるし。」

ダイヤ 「あのシルエツト、もしかして果南さんでは?」

善子 「ちよ、普通に今までと同じようにお尻叩いてよ!!」

海未 「・・・っ!」バチコーンッ!

善子 「いっつつたああ!!」

海未 「・・・っ!」バチコーンッ! ↑二発目

善子 「がっつ！な、なんで・・・。」

ことり 「ちよつとwww何が起こってるのww」

千歌 「さあwww」

ダイヤ 「ちよつと、あなた果南さんでしょ??こんな理不尽ですわよ！」

果南 「・・・っ！」 バチコーンッ！

ダイヤ 「ああああ!!」

果南 「っ!!」 ドゴッ！ ↑ 追撃の突進

ダイヤ 「ぶっ!？」

絵里 「いったああ!!」 バチコーンッ

ツバサ 「ああっ!?!」 バチコーンッ

ことり 「あははwww」

千歌 「wwwwww」

海未 「・・・。」 クルッ↑ことりの方に向き直る海未

果南 「・・・。」 クルッ↑千歌の方に向き直る海未

ことり 「」

千歌 「」

くしばらくくして〜

ことり 「何だったのあれ・・・。」

真姫 「・・・お尻のダメージが一気に蓄積されたわ。」

ダイヤ 「引き出しネタが終わったと思つたら、これですわ・・・。」

千歌 「あの二人力強すぎ・・・。」

絵里 「はやく休みたいわ。」

ツバサ 「本当に休みが全然ないわね。」

ダイヤ 「でもとりあえずは落ち着いたんじゃないんですか?」

善子 「・・・私、お手洗いに起こつと。」

ことり 「あ、ことりも行く。」

真姫 「私も行つておこうかしら。」

千歌 「はあ、千歌はバナナでも食べてよつと・・・。」

ことり 「ふw・・・。」

くもニタールーム室く

海未 「うまくいききましたねwww」

果南 「スツキリしたよw」

凜 「二人とも手加減しなすぎwww」

理亜 「ふw」

くトイレまでの道中く

ことり 「これってトイレにも仕掛けとかあるのかな？」

真姫 「あるんじゃない？そこまで甘くないでしょ。」

善子 「でも仕掛けがあるって分かってれば大丈夫でしょ。構えてればいいだけだし。」

真姫 「そのとおりにね、善子ちゃん。流石私の善子ちゃんね。」

善子 「うるさいっ！誰がいつあなたの善子ちゃんになったのよ！後、ヨハネよっ！」

ことり 「ふたりとも、仲良くなったね〜」

善子 「どこがよ・・・。」

真姫 「トイレに着いたけど、やっぱり誰かがいる気配があるわね。」

ことり 「うん、でも来るって分かっているら何とか耐えられ・・・。」

亜里沙 「・・・。」トボトボ ↑顔中キスマークだらけ

ことり 「ないwwwwww」

真姫 「ふふふwwwwww」

善子 「ぐっ・・・w」

デデン 南、西木野、津島、OUTく

ことり 「こんなの笑うよwww」バシーンッ

善子 「結局梨子にやられたのねwww」バシーンッ

真姫 「亜里沙、大丈夫? www」バシーンッ

亜里沙 「……。」ゲッソリ

↳ 部屋サイド↳

千歌 「モグモグ……やっぱり何か仕掛けあったんだね。」↑バナナ食べてる

ダイヤ 「本当に休息の場はないんですのね。」

ツバサ 「モグモグ……。」↑千歌にもらったバナナ食べてる

絵里 「はあ、次は何があるのかしら……。」

つづく

第15話 恋バナ

第15話 恋バナ

ことり 「ただいま・・・。」

千歌 「アウトになってましたね。」

絵里 「何があつたの？」

真姫 「トイレでキスマークだらけの亜里沙に会つたのよ。」

千歌 「つ・・・それは確かに笑っちゃいますね。」

ダイヤ 「結局梨子さんの餌食になってしまったんですねw」

絵里 「亜里沙・・・。」

ことり 「はあ、どこにも休憩場所はないね・・・。」

（15分後）

ツバサ 「・・・急に暇になつたわね」

善子 「本当に・・・。」

ことり 「さっきまでとの差が激しいね。」

真姫 「何かお話でもしましょうよ。」

千歌 「・・・何の話をするんですか？」

絵里 「恋バナしましよ！恋バナ！」

千歌 「いいですね！恋バナ！」

真姫 「恋バナって・・・、二人は今まで付き合ったことあるの？」

絵里 「・・・ないわ。」

千歌 「・・・ないです。」

ことり 「ふふｗｗｗｗ」

ツバサ 「ｗｗｗｗ」

デデーン 南、綺羅OUT

ことり 「恋バナ終わっちゃったｗｗ」バシーンッ

ツバサ 「急に盛り上がって急に盛り下がらないでちょうどいいｗｗ」バシーンッ

千歌 「むく、馬鹿にしてるけど二人は今まで付き合ったことあるんですか？」

ツバサ 「いえ、ないけど・・・。」

ことり 「・・・ことりもない。」

善子 「というか仮にもアイドルなんだから付き合ってたらマズイでしょ。」

千歌 「そうなんだけどさく、恋バナって憧れなんだよね。」

絵里 「そう、そうなのよ！女子高生と言ったら恋バナって感じがするのよ！」

真姫 「まあ、分からなくはないけど。」

ことり 「あ、じゃあ好きな人のタイプの人を言っていくいうのはどう？」

絵里 「それよ！さすがことりね！」

ことり 「えへへ、それでも／＼」

デデッソ 南OUTッ

ことり 「え・・・あ、つい・・・。」

他 「wwwwww」

デデッソ 全員OUTッ

ダイヤ 「もうことりさん！油断しないでくださいよ！」バシーンッ

千歌 「ちよくちよくこのパターンありますねw」バシーンッ

ことり 「・・・すみません。」バシーンッ

真姫 「あふれんばかりの笑顔だったわね。」

ことり 「ふw・・・反省してますw」

絵里 「それで、みんなはどんなタイプの人が好きなの？」

ことり 「ことりは、サイドテールで、茶髪で」

真姫 「ことりはいいわ、知ってるから。次。」

ことり 「え」

千歌 「ふw・・・でもいきなり好きなタイプって言われてもな〜。」

真姫 「まあ、そうよね。じゃあ善子ちゃんはどんな人が好きなの？」

善子 「何でその流れで私に聞くのよ!」

真姫 「いえ、純粹に気になって。」

千歌 「確かに気になる・・・善子ちゃんの好きなタイプ。」

ダイヤ 「確かに興味はありますわね・・・。」

善子 「な、なんでみんなそんなに興味もってるのよ。」

ことり 「まあまあ、善子ちゃん。恋バナだよ?恋バナ?」

善子 「う・・・。」↑ちよつと興味ある

千歌 「ほらほら、善子ちゃん、言っちゃいなよ!」

ダイヤ 「そうですわよ!善子さん!」

善子 「・・・わ、私は・・・や、優しい人がいいかしら・・・／＼ 家事とか手伝ってくれる人みたいなの・・・／＼」

他 「・・・・・・・・。」

善子 「・・・な、なによ／＼何で黙ってるのよ?」

他 「・・・・・・・・。」ニヤニヤ

善子 「なっ!? ちよつと、やめてよその顔／＼ 何ニヤニヤしてるのよ!!という

かその表情アウトじゃないの??完全に笑ってるじゃない!!」

「モニタールーム室」

海未 「面白そうですから今はアウトなしで。」

凜 「御意」

ルビィ 「www」

「部屋内」

千歌 「・・・わ、私は／＼」

真姫 「・・・や、優しい人が、いいかしら／＼」

千歌 「・・・家事とか／＼」

真姫 「・・・手伝ってくれる人みたいな／＼」

他 「wwwwww」

善子 「・・・っ／／／」カアッ

ことり 「あはははwww二人ともやめなよwww」

ダイヤ 「善子さん、私は好きですわよ、そういうのwww」

ツバサ 「思ったよりピュアなのねwww」

真姫 「wwwwww」

千歌 (笑ってるのにアウトにならないってことはモニタールーム室の人たちも面

白がってるんだろ(うなw w)

善子 「もう私、あんた達と一生喋らない・・・。」

真姫 「善子ちゃんw w益々あなたのことが好きになったわw w」

善子 「・・・しゃべりかけないで。」

ことり 「善子ちゃんにはきつといい人が見つかるよw w」

ダイヤ 「間違いないですわw w」

善子 「うるさいっ／＼」

凜 「は、はい、皆、笑ってもいいのはそこまでにや！」

ことり 「あ、凜ちゃん。」

ダイヤ 「・・・今度は何ですか。」

凜 「今は善子ちゃんの可愛さに免じて笑ってもセーフにしてたけど、今からま

た笑ってはいけない再開にや。」

ことり 「ふw了解です。」

善子 「」

千歌 「それで、今度は何ですか？」

凜 「今から皆さんには昼食を賭けてある勝負してもらいます！」

ことり 「そういえば・・・今何時なんだろう？ お昼なのかな？」

ダイヤ 「時計がないから分からないですわね。」

ツバサ 「でも言われてみると、結構お腹すいてるわ。」

真姫 「ことりはチキン南蛮があるから別に昼食いらないんじゃないの?」

ことり 「真姫ちゃんうるさい。」

千歌 「ふw・・・」

ダイヤ 「それで、どんな勝負をするんですの?」

凜 「ズバリ・・・即興お料理替え歌で勝負にや!」

ことり 「・・・本家でもあるやつだね。」

凜 「そうにや、一応ルール説明しとくと、今から皆にはある曲の替え歌を歌ってもらうにや。歌詞については、凜が一人一人に食べ物を指定するから、その食べ物について、褒めるような内容にするにや。凜が納得したら、1ポイントということ。ポイントが一番多かった人から順に美味しい昼食にありつけるにや。」

真姫 「これ、結構難しいわよね。」

ことり 「確かに・・・歌詞なんてパット思いつくのかな?」

凜 「まあ、やってみたら案外できるもんじや、早速やってみるにや。」

凜 「最初の曲は・・・スノーハレーションにや!!」

つづく

第16話 昼食争奪戦 ～替え歌選手権～ その1

第16話 昼食争奪戦 ～替え歌選手権～ その1

ツバサ 「ラブライブ予選の時に歌ってた曲ね！私あれ好きよ！」

ことり 「私も好き♪」

ダイヤ 「……その曲が今から滅茶苦茶になろうとしますけどね。」

善子 「……私その曲知らないんだけど。」

千歌 「うくん、動画では見たことあるけど歌えるかな？」

凜 「安心してにや、今から見本として原曲を流すにや、ミュージック、スタート

！」

♪♪♪♪♪ ↑イントロ

「とどけて♪ せつなさには♪ なまえを♪ つけようか♪

スノ～ハレ～ション♪」 ↑にこのソロバージョン

ことり 「なんでにこちゃんのソロバージョンwww」

真姫 「wwwwww」

デデーン 南、西木野OUT〜

ことり 「もうww痛いつ！」バシーンッ

真姫 「にこちゃんww」バシーンッ

凜 「凜が食べ物を指定するから、今聞いてもらった曲のメロディーに合わせて、褒めるようにオリジナルの歌詞で歌ってもらっただけだよ。」

千歌 「う〜ん、結構難しそう。」

善子 「ていうか、その曲まったく知らない私不利じゃないの？」

凜 「はい、じゃあ早速いくよ？最初は、千歌ちゃんからにや！」

千歌 「ええ!?!いきなり?！」

善子 (・・・無視)

凜 「ミユ〜ジツクスタート!!」

♪♪♪♪♪ ↑イントロ

凜 「食べ物は・・・バナナにや！」

千歌 「ふwwそれは卑怯ww」

他 「wwww」

デデーン 全員OUT〜

千歌 「笑って歌えなかった・・・いたっ！」バシーンッ

ことり 「普通に可愛そうwww」バシーンッ

ツバサ 「千歌さん、完全にバナナキアラねww」バシーンッ

凜 「はい、千歌ちゃん歌えなかったから0点にや。」

千歌 「納得できない・・・。」ムスー

善子 「まあまあ、諦めなさいw」

千歌 「む・・・あっ！」↑何かを思いつく千歌

凜 「じゃあ次は、ツバサさんにや！」

ツバサ 「この曲はソラで歌えるほど聞きこんでるから、替え歌だろうと余裕よ！」

ことり 「ツバサさん、私たちの歌大好きですねw」

凜 「ミュ〜ジックスタート!!」

♪♪♪♪♪ ↑イントロ

凜 「食べ物・・・グラタンにや！」

ツバサ 「・・・ぐ、ぐらたん♪・・・とろとろには♪ なくまえを♪ つ

けよう♪か♪・・・ぐらたれ♪しよんwww

他 「wwwwww」

デデーン 全員OUT

ことり 「ひっwwwwww」バシーンッ

千歌 「ぐらくたれくしよんwww」バシーンッ

善子 「ネーミングセンスwww」バシーンッ

ツバサ 「・・・違うのよw 替え歌難しいわよ？ 急に歌詞とか思いつかないのよ？」

真姫 「かといつて、ぐらくたれくしよんはね。」

ツバサ 「・・・つw。」

善子 「そんな名前をつけられるグラタンが可哀想ね。」

ことり 「善子ちゃん、正確にはグラタンのとろとろ部分の名前がぐらくたれくしよ

んだよ？」

真姫 「イミワカンナイ！」

ツバサ 「ふふふwww」

デデーン 綺羅OUT

ツバサ 「もう勘弁してもらってもいいかしらw」バシーンッ

凜 「普通に意味が分からないから0点にやw」

ことり 「ふつw・・・」

ツバサ 「・・・w」

凜 「じゃあ次いくにや！次は絵里ちゃんにや！」

絵里 「む、私ね。いつでも来なさい！」

♪♪♪♪♪ ↑イントロ

凜 「食べ物は・・・ハンバーグにや！」

絵里 「ととどけて♪ ひくきにくくには♪ なくまえを♪ つけようか

♪

・・・・すのうはれしよんwww

凜 「アウトにやwww」

他 「wwwwww」

デデン 全員OUT

ことり 「酷いよwww」バシーンッ

善子 「何の料理かわからないwww」バシーンッ

真姫 「すのうはれしよんって言うてるしwww」バシーンッ

千歌 「歌詞が意味が分からなさすぎるwww」バシーンッ

絵里 「違うのよwww」バシーンッ

絵里 「ふく・・・聞いて、違うのよ？」

真姫 「何が違うのよ？」

絵里 「ツバサさんの言う通り難しいわよこれ。」

千歌 「どの辺が難しいんですか？」

絵里 「・・・やればわかるわ。急に歌詞なんて思いつかないのよ。」
ツバサ 「ええ、やればわかるわ。」

ことり 「とはいえ、あまりにも歌詞が無茶苦茶だったけどw」

真姫 「とどけて♪ ひきにくくにはwww」

他 「wwwwww」

デデン 全員OUT

千歌 「真姫さん！急に歌わないでくださいwww」バシーンツ

善子 「でも本当に、ひき肉に何をとどけるのよwww」バシーンツ

ことり 「ひき肉にすのうはれくしょんっていう名前を届けたんだよねwww」バ

シーンツ

絵里 「本当に何も思いつかなかったのよwww」バシーンツ

真姫 「wwwwww」バシーンツ

凜 「はい、じゃあ次いくよ？ 次はダイヤちゃん！」

ダイヤ 「どうどう私ですわね！どこからでも来なさい！」

♪♪♪♪ ↑イントロ

凜 「食べ物・・・カレーライスにゃ！」

ダイヤ 「とどけて♪ しろごはくんには♪ カレを♪ かけようか♪

からさく控えめで……w」

ことり 「……ぶっww」

善子 「ふww」

デデーン 黒澤、南、津島OUT」

ダイヤ 「……本当に難しいですわこれw いつっ！」バシーンツ

ことり 「うゝ笑っちゃったw」バシーンツ

善子 「最後の無理やり言った感がww」バシーンツ

真姫 「……まあ、今までの中では比較的マシだけど。」

千歌 「歌詞の意味は分かりますけど、全然褒めてはいなかったですねw」

真姫 「ね、辛くしないでって言ってるだけの歌よね？」

千歌 「確かにそうですね。そもそもカレーって辛いものですよね？」

真姫 「ええ。」

千歌 「アウトですね、完全に。」

真姫 「間違いないわね。」

ダイヤ 「ふふwwそこまで言わなくてもwww」

デデーン 黒澤OUT」

ダイヤ 「このゲーム、上手に歌える自信ないですわw」バシーンツ

凜 「うくん、確かに褒めてはなかったけど意味は分かったから1点あげるにや。」

ダイヤ 「え？本当ですの？やりましたわ！」

絵里 「ちよつと！」

凜 「なんにや？」

絵里 「意味が分かるだけで、一点なんて聞いてないわよ！」

凜 「意味がわかる歌を歌ってから物申すにや。じゃあ次いくよ。」

絵里 「……。」

ことり 「ふふw」

凜 「じゃあ次は……真姫ちゃんぞ！」

真姫 「とうとう、私の番ね！このマツキーの実力思い知るがいいわ！」

つづく

第17話 昼食争奪戦 ～替え歌選手権～ その2

凜 「じゃあ、いくよ〜！」

真姫 「いつでも来なさい！ 準備万端よ！」

凜 「あ、ちなみに、歌は今から恋になりたいアクアリウムになるから。」

真姫 「え」

千歌 「いきなりw」

善子 「さっきまでは知らない曲だったから、私は助かるけどね。」

真姫 「私は知らないわよ、その曲。」

凜 「まあまあ、ちゃんと原曲流すから。」

凜 「はい、ミュ〜ジックスタート！」

♪♪♪♪♪ ↑イントロ

凜 「アクア〜リウムで〜♪ ふたりが〜♪ 出会うファンタジ〜♪

ふいに〜ときめ〜くの〜♪ それは〜恋の魔法〜♪」 ↑急に歌いだす凜

全員 「wwwwwwww」

千歌 「真姫さんだつて至近距離でいきなり踊つてきたりしたじゃないですか!!しかも無表情で!」

ことり 「個人的には、真姫ちゃんが喘ぎ声つぽく、合いの手を入れてたのが一番きつかったけどね。」

ツバサ 「ことりさん、一生笑つてたものね。」

善子 「全部酷かったわよ・・・。」

絵里 「あれから、誰もまともに歌えなくなつたものね・・・。」

ダイヤ 「まさかの一位ですか・・・。」

凛 「え、この結果は流石に予想外にや。」

ことり 「どうなるの、この場合?」

凛 「え、まあ、まず、一位の最高級うな重弁当は、ダイヤちゃんに決定にや。」

千歌 「あくいいなあ、羨ましい・・・。」

善子 「本当に・・・。」

ダイヤ 「なんだか、申し訳ないですわね。」

凛 「問題はそれ以外にや。」

凛 「もう面倒くさいから、みんなで話し合つて勝手に決めれくれにや。」

凛 「じゃあ、凛はこれでいくから。」

ことり 「あ、帰っちゃった。」

千歌 「それで、2位以降の食べ物は何ですか？」

ことり 「えつとね・・・。」

2位 幕の内弁当

3位 ほつともつとく唐揚げ弁当く

4位 コンビニのあんぱん

5位 おにぎり

6位 きゅうり

7位 うまい棒

ツバサ 「とりあえず、6、7位だけは、嫌ね。」

千歌 「間違いないですね・・・。」

絵里 「どうやって分ける？」

ことり 「じゃんけんとかで決める？」

真姫 「ことりは共食いになるから唐揚げ弁当は選んじやだめね。」

ことり 「真姫ちゃん、一応上級生だよ？」

絵里 「こらっ、ことり。ミューズ内でそういうのは禁止よ？」

真姫 「そうよ！」

ことり 「ことりが悪いの!？」

千歌 「ふw」

真姫 「とうわけでことりは、唐揚げ弁当以外ね。」

ことり 「待つて待つて待つて、おかしい、明らかにおかしい。」

真姫 「??？」

ことり 「うん、可愛くおどけた感じを出しても無駄だよ?」

絵里 「面倒だし、ことりの言う通りじゃんけんでいいんじゃない?」

他 「……………」

く結果く

ダイヤ 「はあく、最高ですわく。」 ↑1位 うな重

ツバサ 「うくん、この幕の内弁当、なかなかおいしいわね。」 ↑2位 幕の内弁当

ことり 「自分から言つといてなんだけど、本当にこれを食べるとは……………」 ↑3位

唐揚げ弁当

善子 「……………なんで沖縄に来てこんな食事なの……………」 ↑4位 あんぱん

真姫 「……………本当に。」 ↑5位 おにぎり

千歌 「……………やっぱり悪いことしちゃだめだね。」 ↑6位 きゅうり

絵里 「……………」 ↑7位 うまい棒

くお昼後く

千歌 「はあ・・・急に暇になりましたね・・・モグ」

絵里 「・・・千歌ちゃん、私にもバナナ頂戴？」

千歌 「どうぞ、まだいっぱいあるんで。」

ことり 「ふw よかったね、バナナがいっぱいあつて。」

千歌 「本当に、きゆうりだけじゃ死んじやいますよ。」

希 「はいはい、みんな聞いてく！」ガラツ

ことり 「あ、やつと来た。」

善子 「今度は何？」

希 「えくまず先に言っておきますが、今から行ってもらうことは、自由参加で

す。」

千歌 「え、自由参加？」

希 「そうです、ちなみにやってももらうことは鬼ごっこです。」

ツバサ 「鬼ごっこって・・・あの？」

希 「はい、あの鬼ごっこです。」

ことり 「いやいや、そんなの参加しないよ。」

真姫 「そうよね？ 参加するわけないじゃない？」

希 「その鬼ごっこをクリアしたとき、一番活躍した人には豪華賞品があると
言ったら？」

絵里 「商品なんてあるの？」

ことり 「本家にはそんなのないよね？」

希 「本家のやつをそのまましても面白くないからなく。」

千歌 「そ、それで、その商品は？」ゴクリ

希 「梨子ちゃんのキス。」

真姫 「私、お手洗いに行ってくるわ。」

ツバサ 「あ、私も行こうかしら。」

ことり 「ことりは、もうちよつと休憩しよつと。」

絵里 「私もバナナもう少し食べたいし……。」

希 「まあまあみんな、最後まで話聞きーや。」

千歌 「聞く必要性を感じられない……。」

希 「この鬼ごつこの参加者、実は一人だけ既にいるんよ。」

真姫 「誰よ、そのモノ好きは？」

希 「穂乃果ちゃん。」

ことり 「ちよつと待って、どういうこと？」

希 「ん？ そのまんまやで？ 商品のこと言ったら、穂乃果ちゃんがしたいって。」

ことり 「ん？ん？ん？ どういうこと？ 状況が分からない。」

絵里 （そういえば、ことりと海未は穂乃果が梨子ちゃんのこと好きになってることに知らないんだっけ。）

※王様ゲームで梨子にキスされた影響で穂乃果は梨子に惚れている状況にあります。

海未とことりは、その事実にはショックをうけ、倒れ、その時の記憶がない状態になります。

希 「まあ簡単に言うと、このまま参加者がいなければ不戦敗ということ、自動的に梨子ちゃんと穂乃果ちゃんがキスすることになります。」

ことり 「やります。ことりも鬼ごっこやる。」

希 「お！これで二人やな！」

絵里 「ていうか、この7人以外でも参加OKなの？」

希 「なんでもありや。」

ドドドドド

海未 「ちよつと!!どういうことですか！希!!聞いてませんよ！」ガラッ

希 「いや、だから言った通りやん。そりや、言つてないし。」

海未 「私も参加します。そのふぎけた鬼ごっこに!!」

千歌 「はえ、じゃあ今からミューズの二年生、3人の勝負だ。」

希 「あ、ちなみに副賞として、バナナ一か月分もあります。」

千歌 「いや、そんな副賞いらないでしょ。」

ダイヤ 「じゃあ、千歌さんも参加ですね。」

善子 「間違いないわね。」

千歌 「んん? どういうこと?」

ダイヤ 「だって、ね?バナナと言えば・・・。」

善子 「うん。」

千歌 「いや、全然わからないのだ。」

希 「はい、じゃあ、千歌ちゃん、海未ちゃん、ことりちゃん、穂乃果ちゃんの4

人で鬼ごっこをしてもらいます!」

千歌 「」

希 「でも、後一人ぐらい欲しいので・・・ツバサさんお願いします。」

ツバサ 「は?」

希 「はい、じゃあ、今言った五人は、グラウンドに集合ね、あ、隣の部屋に運動

用の着替えあるから、それに着替えてな!じゃ!」

ツバサ 「」

千歌 「・・・ツバサさん、諦めましょう。」

ことり (全然状況が分からないけど、死ぬ気でやるしかないね。)

海未 (・・・絶対負けません。)

↳別室↳

穂乃果 「・・・よしっ、やるぞ!!」

↳さらに別室↳

梨子 (私は、誰が勝ってもいいのだけどね♪)

つづく

第18話 鬼ごっこ開始

くグラウンド場に集まった4人

ことり 「うう、寒いよう〜。」

海未 「なぜ、穂乃果がこんな鬼ごっこに……。」

千歌 「うう、最悪だあ……。」

ツバサ 「本当にね……。」

穂乃果 「あ、みんな、久しぶりだね。」

ことり 「あ、穂乃果ちゃん!!」

どうして、この鬼ごっこに参加したの!?

海未 「そうですよ!!頭でも打ったのですか??」

穂乃果 「え、ええと、秘密かな／＼」

ことり 「穂乃果ちゃんにいったい何が。」ガタガタ

海未 「状況がまったくわかりませんが、何としても阻止しなければ。」

ツバサ 「……。」↑興味なし

千歌 「……。」↑同じく興味なし

希 「じゃあ、みんなには、例の鬼ごっこをしてもらいます。ルールは知っていると
 思いますが、一応説明しときます。鬼ごっこ中は、笑つてもいいですけど、鬼に捕まっ
 たら、その鬼の体に書いてある罰をその場で受けてもらいます。以上。」

千歌 「はあ、これってビンタとかろいろキツイんだよね？」

ツバサ 「ええ、死ぬ気で走るしかないわね。」

海未 「走るの自信があります、絶対一番活躍して見せます！」

ことり （一番活躍したら、梨子ちゃんとキスだけどね。というか、よく考えたら海未
 ちゃんに任せとけば大丈夫な気がしてきた・・・。）

穂乃果 「負けないよ。」

希 「じゃあいくで、鬼ごっこスタート!!」

く鬼ごっこスタートく

プシユク ↑煙とともに現れる鬼3人

ことり 「え、ええと、罰はビンタに一本背負いにタイキツク・・・、鬼畜だね。」

ツバサ 「ちよつと!?!こつちに来た、しかもタイキツクが!!」

海未 「ふ、私に来るとは、いいでしょう!逃げ切つて見せます!」ダダダ

穂乃果 「わくん、穂乃果のところにビンタがきたよ!!」ダダダ

千歌 「・・・よかった、他の三人のところに行つてくれた。」

ツバサ 「ハア、ハア・・・嫌よ、タイキツクだけは！」

ガシツ ↑全力で逃げるも捕まってしまう

ツバサ 「・・・はあはあ、え、嘘でしょう?? いや、いやあああ!!」 ドゴオオン↑
思いつき蹴られるツバサ

ツバサ 「↑痛さのあまりその場に崩れ落ちる

千歌 「ぶつwwww痛そうwww」 ↑遠くから見学する千歌

穂乃果 「ふう、何とか逃げ切れた。」 ↑何とか鬼を撒いた

海末 「これなら余裕ですね。」 ↑余裕で逃げ切れた

ことり 「これって逃げ切れるもんなんだね・・・。まあ毎日、正気か疑うくらい走ってるもんね。」

くモニター室く

凜 「希ちゃん、ミューズの三人が走るのが早すぎてゲームにならないよ? 特に海末ちゃんとか捕まる気配全くないよ?」

希 「確かにこのままやと、千歌ちゃんとツバサさんの罰ゲームになってしまうな・・・。」

よし、鬼もう10人くらい追加しようか。」

凜 「ふww了解。結局千歌ちゃんとツバサさんが地獄になりそうだけどww」

希 「そこは頑張ってもらおうww」

希 「え〜鬼10人追加します。」↑アナウンス機器にて放送

千歌 「早くないっ!？」

まだ、開始から5分くらいだよ?？」

すでにビンタとタイキックくらって、死にそうなんですけど?？」

ツバサ 「はあはあはあ．．．うう、私ももつとランニングしておけばよかった。

というか一本背負い受けてから、腰から変な音が聞こえるんだけど．．．。」

ことり 「何としても私達に罰を与えたいみたいだね．．．。」↑未だ無傷

海未 「望むところです!!」↑未だ無傷

穂乃果 「ファイトだよっ!」↑未だ無傷

千歌 「はあはあ、やだやだやだああ!!」ガシッ↑捕まってしまう

千歌 「はあはあはあ、え、何? 鼻フック??」

痛たたたたつ、痛い、痛いよおおお!!?？」

ことり 「はあはあっ! 3人で追いかけるのはずるいよお!」ガシッ↑捕まる

ことり 「はあはあはあ、張り手にケツバットにパイ投げ．．．。」

え、え、え? ていいうか何?? 全部の罰受けるの???

海未 「ふうふう、流石に余裕はないですが逃げ切って見せます!」↑5人に追いか

けている。

穂乃果 「いたああああい!!」 ↑タイキックをくらった

く観客室く

絵里 「・・・えぐいわね、これ。」

善子 「これを取り越えた先にあるのがキスっていうのも救いようがないわね。」

真姫 「というより、海未凄すぎない??」

く開始から30分く

一度全員集まる五人

海未 「くつ、まさか捕まってしまうなんて・・・。」

ことり 「8人くらいで挟み撃ちされてたもんねww」

千歌 「もう帰りたい、旅行もいいから。」

ツバサ 「同感よ。」

ことり 「千歌ちゃん、一回ガチ泣きでもうやめたいって訴えてたけどどうだったの？」

千歌 「だめって言われて、突き返されました・・・。」

ことり 「ふwwまあ頑張ろうよ千歌ちゃんww」

千歌 「・・・はい。」

穂乃果 「というより、これって何をしたら、クリアなの？」

4人 「……………さあ？」

千歌 「……………え？」

もう、どうすればいいの！私たちは！！

ことり 「ふふww落ちて着いて千歌ちやつ!？」 ↑鬼が近づいてくるのに気づくことり

ことり 「……………」

海未 「どうしたのですか、ことり？」

ことり 「……………いや、どうしたらクリアできるのか考えてたの。」 ↑鬼のことは黙っ

ている

ツバサ (ことりさん、あなたとんだクズね、私もだけど……………) ↑ことり同様鬼に気

付いているツバサ

海未 「ふむ、そうですね何をすればクリアなのか……………」

千歌 「うう、早くクリアしたいよおお。」

ことり&ツバサ (……………今だっ!!) ダッ↑一斉に駆ける二人

千歌 「え？」 ガシッ ↑何かに捕まれる千歌

千歌 「え？」 クルッ ↑振り返る千歌

鬼 「……………」

千歌 「え？裏切られた……？」

もうミュージズのファンやめよう……。

ていうか、罰のジングルベルがとまらないって何……。

海未 「まったく、あの二人も裏切るとは、お仕置が必要ですね。

ん？ 何ですかね、このやかましいベルの音は？」

千歌 「海未さああん、助けてください。」↑大量のベルを体中に巻き付けられた

海未 「ふふふwww、大変ですねwと、音を聞きつけた鬼がこちらに向かってきて

ますよ！」

千歌 「うわああああ、もうやだああああ!!」リンリンリンリンッ!!↑ベルの音

ことり 「千歌ちゃん、ごめんだけと凄く面白いwww」↑陰から高みの見物

ツバサ 「本当にwww」↑陰から高みの見物

くさらに15分後く

希 「え、ツバサさんと千歌ちゃんがマジでやばそうなので、後10分くらいで

終了にします。というわけで、鬼10人追加します。」↑アナウンス機器にて放送

千歌 「……あと10分。」

ツバサ 「……人生で一番長い10分になりそうね。」

穂乃果 (このままじゃ、多分海未ちゃんが一番逃げてそうだから、負ける……。)

穂乃果
つづく
(何とかして、勝たないと・・・。)